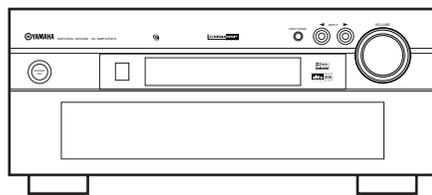


DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX3200



取扱説明書

ヤマハ DSP AVアンプDSP-AX3200をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書をご確認ください

保証書に販売店名、購入日などが記入されておりませんと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を辿う可能性が想定される内容を示しています。



下記の場合には、**すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。**

- 異常なおいや音が出る。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

プラグを抜く

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかる場所

水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
 - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
 - あおむけや横倒しには設置しない。
 - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- (少なくとも本機の左右20cm、上30cm、背面10cm以上離して設置してください。)

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を迫る可能性が想定される内容を示しています。



禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



禁止

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



禁止

AC100V 50/60Hz以外の電源電圧では使用しない。

火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

本機の通風孔にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうソクなどを置かない。

- 水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。



注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。



必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。



必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

目次



はじめに

本機の特長	2
付属品を確認する	3
各部の名称とはたらき	4
フロントパネル	4
リモコン	6
ディスプレイ	8
リアパネル	9



準備する

準備の流れ	10
リモコンを準備する	11
スピーカーを準備する	12
スピーカーの設置場所を決める	13
スピーカーを接続する	14
ビデオ機器を接続する	16
ビデオ機器を接続する前に	16
DVDプレーヤーを接続する	17
衛星放送／CATVチューナーを接続する	18
ビデオデッキを接続する	19
LDプレーヤーを接続する	20
オーディオ機器を接続する	21
CDプレーヤーを接続する	21
MDレコーダーやテープデッキを接続する	22
レコードプレーヤーを接続する	22
他の機器を接続する	23
他のアンプを接続する	23
外部デコーダーを接続する	23
ゲーム機などを接続する	23
モニター（テレビ）を接続する	24
電源コードを接続する	25
電源を入れる	25
スピーカーシステムにあわせて出力設定を変更する	26
スピーカーの音声出力レベルを調節する	30



音声や映像を楽しむ

音声／映像を再生する	32
入力モードを切り替える	35
オンスクリーン表示の見かた	36
録音／録画する	37
一定時間後に自動的に電源を切る （スリープタイマー）	38



音場プログラムを使いこなす（DSP）

音場プログラムを選ぶ	39
音場プログラム一覧	42
Hi-Fi DSPプログラム	42
CINEMA DSPプログラム	43
入力信号と再生スピーカー対応表	45
音場プログラム名一覧表	47



設定を変更する

セットメニューで設定を変更する	48
セットメニュー一覧	48
セットメニューの操作手順	49
システムにあわせて、スピーカーモードを 設定する	50
スーパーウーファーの動作を確認する	50
メインスピーカーの音量バランスを調整する	51
ヘッドホンからの出力音声を調整する	51
センタースピーカーの音色を調節する	51
入力ソースの名前を変更する	52
入出力端子の割り当てを変更する	52
電源を入れたときの入力モードを設定する	53
音場プログラムの設定値を初期化する	54
LFE信号の再生レベルを調節する	54
ドルビーデジタル再生時のダイナミック レンジを設定する	54
センタースピーカー及びリアセンタースピーカーの ディレイタイムを設定する	55
オンスクリーン表示の設定を変更する	55
変更した設定値を保護する	56
二重音声出力時の出力モードを変更する	56
エフェクトスピーカーの音量を調節する	57



付属リモコンを使いこなす

付属リモコンのはたらき	58
リモコンで操作できる機器を指定する	60
新しいリモコン機能を学習する（ラーニング）	61
操作モード一覧	63
リモコンに表示される入力ソース名を変更する	71
マクロ機能を使う	72
ラーニングやマクロを取り消す／リモコンを 初期化する	75



その他の情報

音場プログラムの設定を変更する	77
故障かな？と思ったら	86
用語解説	92
主な仕様	95
ヤマハホットラインサービスネットワーク	96

本機の特長

高音質ハイパワー6チャンネルアンプを搭載

独立した6チャンネルハイパワーアンプを搭載しています。

- メインチャンネル(L、R):120W+120W*
 - センターチャンネル:120W*
 - リアチャンネル(L、R、リアセンター):各120W*
- * 定格出力時(20Hz ~ 20kHz、歪率 0.04%、6Ω)

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

各種のデコーダーやDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサー)による、効果的な音場再生を実現しました。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)、AAC(アドバンストオーディオコーディング)に融合させて、音場効果を向上させています。

- DSPデジタルサウンドフィールドプロセッサーによる、64種類の音場プログラム
- 少ないスピーカーでも6.1チャンネル再生を仮想的に再現できる、バーチャルシネマDSP機能
- ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できる、サイレントシアター機能

AVアンプにふさわしい多機能構成

- 音場効果を最大限に引き出すための設定ができる15項目のセットメニュー
- 複数のスピーカーの音量バランス調節を容易にする、テストーン
- DVDオーディオやその他のデコーダーにも対応できる6CH INPUT端子
- 充実した低音特性が得られる、BASS EXTENSIONスイッチ
- D4 VIDEO端子搭載
- デジタル音声信号を直接接続できる、OPTICAL(光)入出力端子とCOAXIAL(同軸)入力端子
- メーカーコード設定/ラーニング/マクロ機能対応リモコン
- 信号経路を最短にして、音声品質を向上できるプロセッサーダイレクト機能搭載

最新の音響技術に対応する各種デコーダー

以下の信号方式のデコーダーを搭載しています。



- ドルビーデジタル
- ドルビーデジタルマトリクス6.1
- ドルビープロロジック
- ドルビープロロジックII:2チャンネルで記録された音声信号を処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。



- DTS
- DTS-ES(エクステンデッドサラウンド):ディスクリット6.1、マトリクス6.1のいずれの方式にも対応しています。
- DTS Neo:6(ネオ・シックス):2チャンネル信号のソースを6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMUSICモードと、映画用のCINEMAモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリット方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。



AAC(BSデジタル放送対応)。BSデジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5,297,236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5,400,433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5,752,225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。



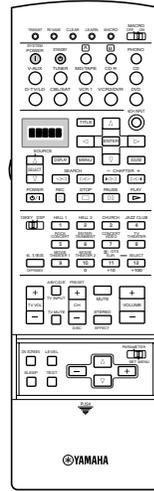
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、ドルビーデジタル、PRO LOGIC およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。



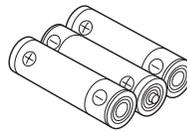
DTS、DTS-ES ExtendedサラウンドおよびNeo:6はデジタルシアターシステムの登録商標です。



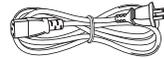
AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。



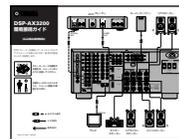
リモコン



単3乾電池(LR6)(3本)



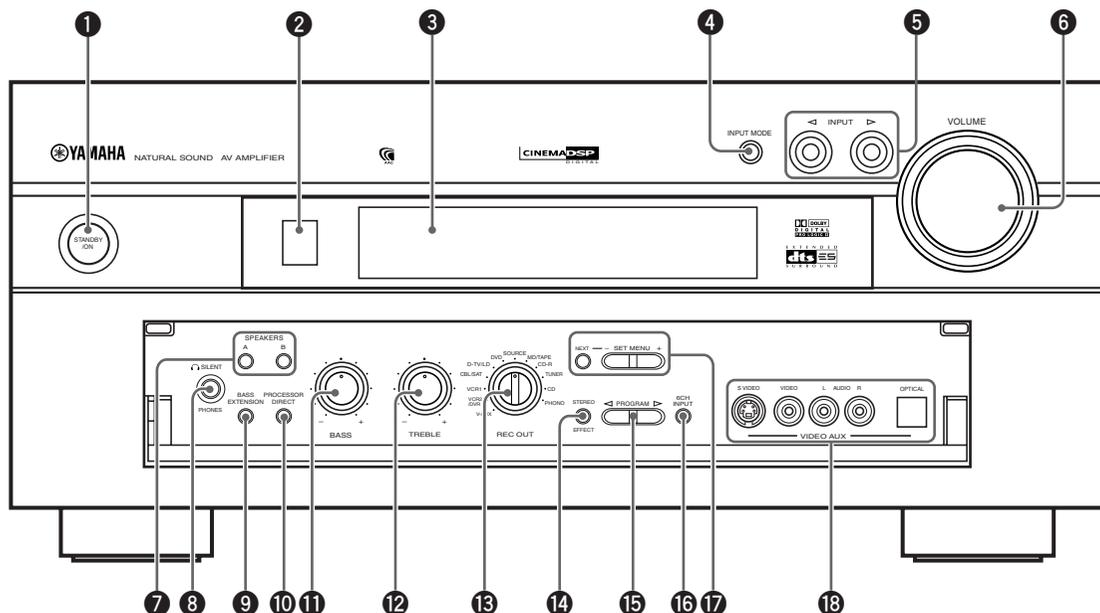
電源コード



簡易接続ガイド

各部の名称とはたらき

フロントパネル



スタンバイ オン ① STANDBY/ONスイッチ

本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。
なお、電源を入れて数秒間は音が出ません。

② リモコン受光窓

付属リモコンからの信号を受信します。

③ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定値などを表示します。詳しくは「ディスプレイ」(8ページ)をご覧ください。

インプット モード ④ INPUT MODEキー

同じ機器を複数の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます。詳しくは「入力モードを切り替える」(35ページ)をご覧ください。

ご注意

INPUT MODEキーでは、6CH INPUT端子に接続している入力信号を選べません。

インプット ⑤ INPUT </> キー

再生したい入力信号を選びます。詳しくは「音声/映像を再生する」(32~35ページ)をご覧ください。

ボリューム ⑥ VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。

スピーカー ⑦ SPEAKERS A/Bスイッチ

音声を出力するメインスピーカーの系統(AとB)を選びます。

フォーンズ ⑧ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。深夜に音声を楽しまれる際は、ヘッドホンをお使いくださるようお勧めします。ヘッドホン接続時は、サイレントシアターで音声を楽しめます(41ページ)。

ご注意

- ヘッドホンを接続すると、PRE OUT端子からは音声信号は出力されません。また、すべてのスピーカーから音は出ません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号を再生しているときは、メインL、Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

バス エクステンション

9 BASS EXTENSIONスイッチ

スイッチを押してONにすると、全体のトーンバランスを保持したまま、メインL、Rチャンネルの低域(60Hz)を+6dB(2倍)強調します。スーパーウーファーを使用しない場合に効果的です。

ご注意

セットメニューの「1B MAIN SP」をSMALL、「1E LFE/BASS OUT」をSWFRに設定している場合は、効果はありません。詳しくは「スピーカーシステムにあわせて出力設定を変更する」(26~29ページ)をご覧ください。

プロセッサ ダイレクト

10 PROCESSOR DIRECTスイッチ

スイッチを押してONにすると、BASS(低域)とTREBLE(高域)、BASS EXTENSION調整回路をバイパスします。信号経路がシンプルになるので、元の音源により忠実な音を再生できます。

バス

11 BASS(低域)コントロール

メインL、Rチャンネルの音声の低音域を調節します。右(+に回すと低音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

トレブル

12 TREBLE(高域)コントロール

メインL、Rチャンネルの音声の高音域を調節します。右(+に回すと高音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

ご注意

トーンコントロールにより、メインチャンネルを極端にブースト(増強)、またはカット(減衰)した場合、メインL、Rとセンター、リア(エフェクト)スピーカーの間で、音のつながりが悪くなることがあります。

レックアウト

13 REC OUTセクター

録音や録画するソースを選択します。また、SOURCE位置にすると、入力ソースはすべてのREC端子に出力されます。

ステレオ エフェクト

14 STEREO/EFFECTキー

音場効果を「切」にして、通常のステレオ音声を再生するときに押します。音場効果が「切」のときは、センターとリア、リアセンター、スーパーウーファーの各スピーカーから音声は出力されません。もう1度押すと、音場効果は「入」になります。

ご注意

- 音場効果が「切」の状態のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声はメインのL、Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、メインL、Rの音量バランスが乱れることがあります。
- セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」をBOTH、または「1B MAIN SP」をSMALLに設定している場合は、スーパーウーファーから低音域が出力されます。
- セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」をBOTH、またはSWFRに設定している場合は、ドルビーデジタル及びDTS、AACのLFEはスーパーウーファーから出力されません。

プログラム

15 PROGRAM </> キー

音場プログラムを選択します。詳しくは「音場プログラムを選ぶ」(39~41ページ)をご覧ください。

チャンネルインプット

16 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。INPUT </> キーやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

ネクスト セット メニュー

17 NEXT-SET MENU キー

セットメニューの設定を変更します。

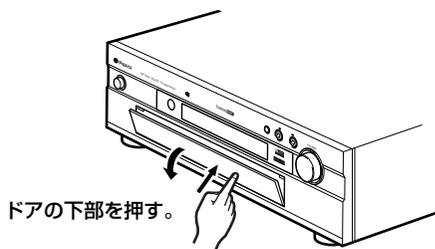
ビデオ オグジャリー

18 VIDEO AUX端子

ゲーム機などを接続する予備入力端子です。

フロントパネルドア

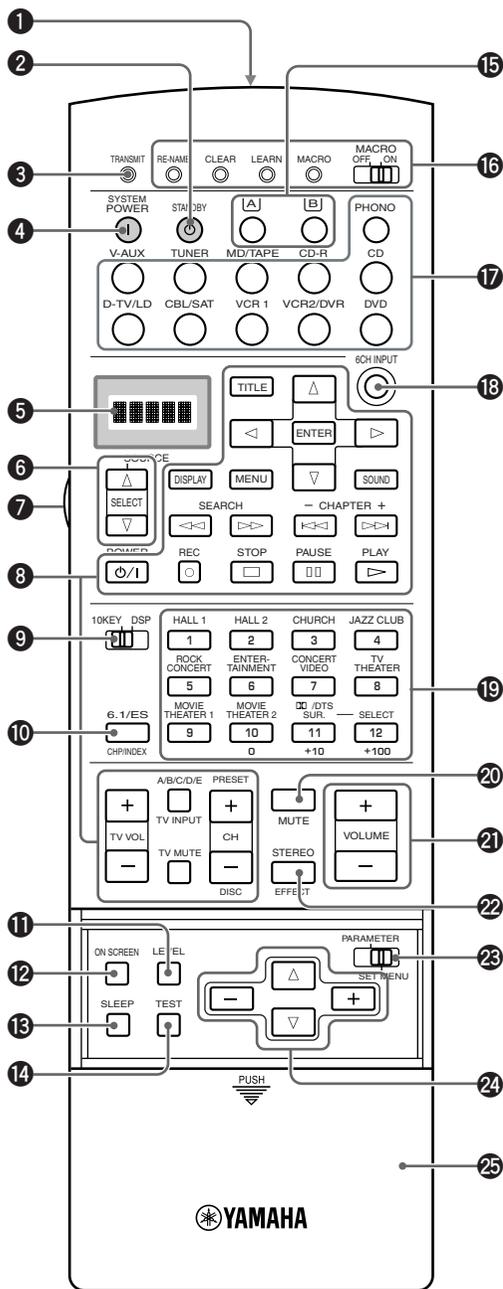
フロントパネルドア内のスイッチやボタンなどを使用するときは、ドアの下部を押して、ドアを開きます。



フロントパネルドア内のスイッチやボタンなどを使用しないときは、ドアを閉めておきます。ドアを閉めるときは、ドアを持ち上げるようにして閉めます。

リモコン

リモコンによる操作について詳しくは、「付属リモコンを使いこなす」(58～76ページ)をご覧ください。



① 赤外線送受信部

リモコン操作の赤外線信号を送受信します。送受信できる範囲については、「リモコンの使用範囲」(11ページ)をご覧ください。

② STANDBYキー

本機をスタンバイ(待機状態)にします。

③ TRANSMITインジケータ

リモコン操作の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

④ SYSTEM POWERキー

本機の電源を入れます。

⑤ ディスプレイ

操作できる機器の名前を表示します。

⑥ SELECTキー

入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器名を表示させます。

⑦ LIGHTボタン

ボタンを押すと操作できるキーと表示窓が10秒間点灯します。すぐに消したいときはもう一度押します。

⑧ 操作キー

指定した機器やメーカーコードによって、機能が異なります。詳しくは「付属リモコンのはたらき」(58～59ページ)をご覧ください。

ご注意

ヤマハ以外の機器は、ラーニング後またはメーカーコードセットアップ後にリモコン操作できます。

⑨ 10KEY/DSPスイッチ

本機を操作するときは「DSP」に合わせます。音場プログラムが選べます。他の機器を操作するときには「10KEY」に合わせます。1～12のキーが数字キーとして使えます。

⑩ 6.1/ESキー

10KEY/DSPスイッチをDSPにしたときに、ドルビーデジタルマトリクス6.1またはDTS-ESデコーダーを入切します。

^{レベル}
11 LEVELキー

出力レベルを調節するスピーカーを選びます。

^{オン スクリーン}
12 ON SCREENキー

モニター(テレビ)画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り換わります(36ページ)。

^{スリープ}
13 SLEEPキー

スリープタイマーを設定します(38ページ)。

^{テスト}
14 TESTキー

テストトーンを出力します。

15 [A]、[B]キー

リモコンの機能を切り替えます。詳しくは「付属リモコンのはたらき」(58～59ページ)をご覧ください。

16 リモコン学習機能スイッチ

リモコンのラーニングや入力ソース名の変更などを行う際に使用します。詳しくは「付属リモコンを使いこなす」(58～76ページ)をご覧ください。

17 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります。詳しくは「付属リモコンのはたらき」(58～59ページ)をご覧ください。

ご注意

お使いになる前に、接続した機器に合わせて正しいメーカーコードを設定する必要があります。詳しくは「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。

^{チャンネルインプット}
18 6CH INPUTキー

本機後面の6CH INPUT端子に入力された信号を再生します。

19 数字/DSPキー

数字の入力や音場プログラムの指定に使用します。

^{ミュート}
20 MUTEキー

消音します(−∞ dB)。消音中は、MUTE表示が点滅します。

もう1度押すと、元の音量に戻ります。

^{ボリューム}
21 VOLUME+/-キー

本機の音量を調節します。

^{ステレオ エフェクト}
22 STEREO/EFFECTキー

音場効果を「切」にして、通常のステレオ音声を再生するときに押します。音場効果が「切」のときは、センターとリア、リアセンター、スーパーウーファアの各スピーカーから音声は出力されません。もう1度押すと、音場効果は「入」になります。

ご注意

音場効果が「切」の状態のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声メインのL、Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、メインL、Rの音量バランスが乱れることがあります。

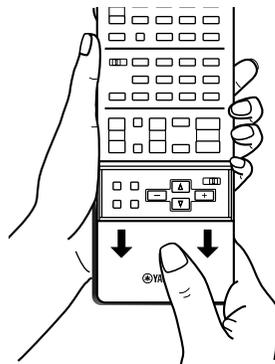
^{パラメーター セット メニュー}
23 PARAMETER/SET MENUスイッチ

パラメーターモードとセットメニューモードを切り替えます。

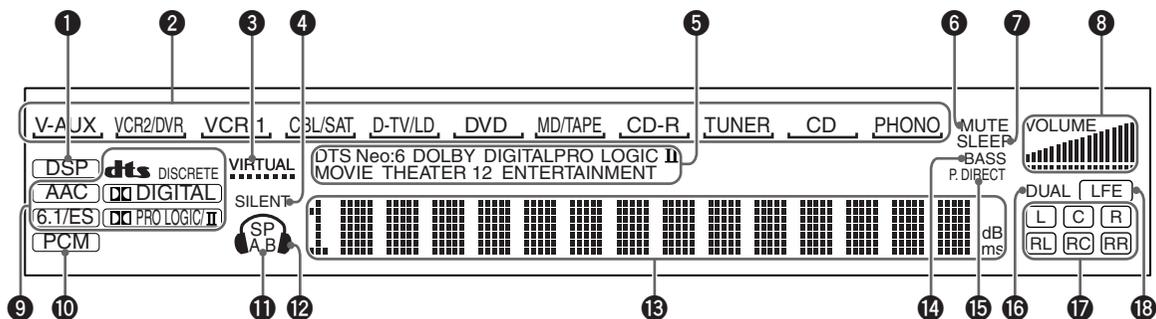
24パラメーター・セットメニューカーソルキー
各種設定値やセットメニューの調節時に使います。

25 スライドカバー

リモコンの上部を片手で持ち、図のように手前にスライドするとPARAMETER/SET、MENU、ON SCREEN、TESTなどのキーが出ます。これらのキーを使わないときは、スライドカバーをリモコン上部に向けてスライドさせ、閉じておくことができます。



ディスプレイ



① DSP表示

DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。

② 入力ソース表示

現在のソース表示下部に、 が点灯します。

③ バーチャル VIRTUAL表示

バーチャルシネマDSP時に点灯します。

④ サイレント SILENT表示

サイレントシアター時に点灯します。

⑤ 音場プログラム表示

音場プログラムを選んだときに、それぞれの表示が点灯します。

⑥ ミュート MUTE表示

消音状態のときに点滅します。

⑦ スリープ SLEEP表示

スリープタイマーの動作中に点灯します。

⑧ ボリューム VOLUME表示

現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えて行きます。

⑨ デコーダー表示

本機内蔵のデコーダーが動作中に、それぞれの表示が点灯します。

⑩ ピーシーエム PCM表示

PCM信号を再生中に点灯します。

スピーカー
⑪ SP A/B表示

SPEAKERS A/Bスイッチ(4ページ)で選んだメインスピーカーを表示します。

⑫ ヘッドホン表示

PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

⑬ 音場プログラム名/設定値表示/周波数表示

音場プログラム名や各種設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

バス
⑭ BASS表示

BASS EXTENSIONがONのときに点灯します。

プロセッサーダイレクト
⑮ P.DIRECT表示

PROCESSOR DIRECTがONのときに点灯します。

デュアル
⑯ DUAL表示

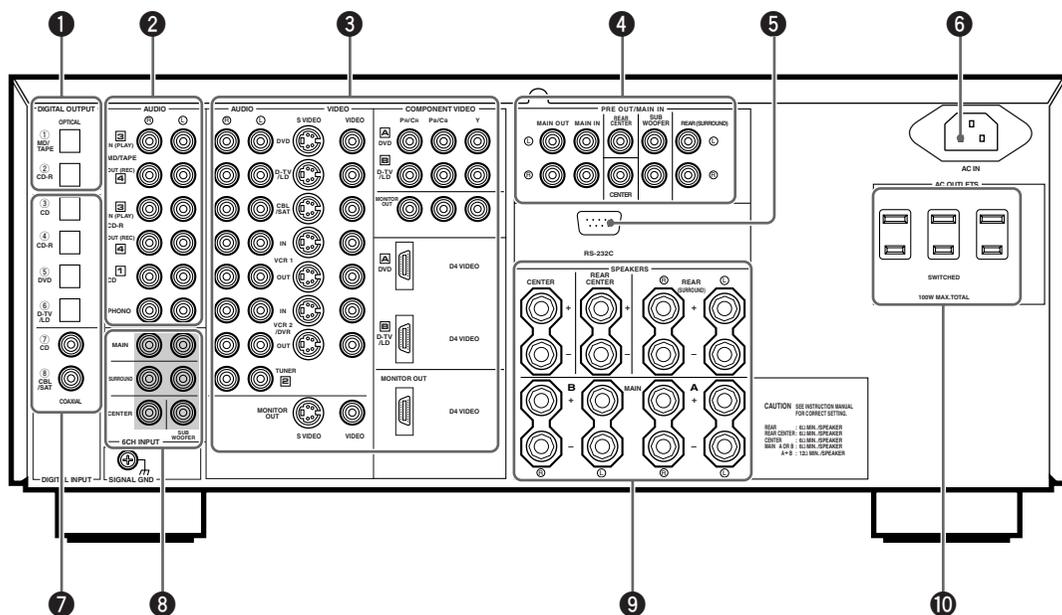
ドルビーデジタルやDTS、AACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号入力時に点灯します。

⑰ デジタル入力信号チャンネル表示

再生ソースのデジタル信号に含まれる、音声チャンネルに対応した表示が点灯します。

⑱ LFE表示

入力信号にLFEが含まれているときに点灯します。



① デジタル出力端子

MDレコーダーなどのオーディオ機器の、デジタル音声入力ケーブルを接続します。詳しくは「オーディオ機器を接続する」(21～22ページ)をご覧ください。

② アナログオーディオ機器 入出力端子

CDプレーヤーなどのオーディオ機器の、アナログ音声入出力ケーブルを接続します。詳しくは「オーディオ機器を接続する」(21～22ページ)をご覧ください。

③ ビデオ機器 入出力端子

DVDプレーヤーやビデオデッキなどの、ビデオ機器の音声／映像入出力ケーブルを接続します。詳しくは「ビデオ機器を接続する」(16～20ページ)をご覧ください。

④ PRE OUT/MAIN IN端子

詳しくは「他の機器を接続する」(23ページ)をご覧ください。

⑤ RS-232C(D-sub9ピン)端子

サービス用の端子です。

⑥ AC IN端子

付属の専用電源コードをつなぎます。詳しくは「電源コードを接続する」(25ページ)をご覧ください。

⑦ デジタル入力端子

CD/DVDプレーヤーなどのオーディオ／ビデオ機器の、デジタル音声出力ケーブルを接続します。詳しくは「ビデオ機器を接続する」(16～20ページ)および「オーディオ機器を接続する」(21～22ページ)をご覧ください。

⑧ 6CH INPUT端子

外部デコーダーやDVDオーディオプレーヤーの入出力ケーブルをつなぎます。

詳しくは「他の機器を接続する」(23ページ)をご覧ください。

⑨ スピーカー端子

スピーカーを接続します。詳しくは「スピーカーを接続する」(14～15ページ)をご覧ください。

⑩ 予備電源コンセント

電源スイッチ連動の電源コンセントです。詳しくは「電源コードを接続する」(25ページ)をご覧ください。

準備の流れ

本機を中心としたAVシステムで音声や映像を楽しむには、以下の手順で準備を行います。詳しい準備の内容については、各ページをご覧ください。

1 リモコンを準備する(11ページ)

付属リモコンに乾電池を入れます。
リモコンの使用上のご注意も記載されています。

2 スピーカーを準備する(12ページ)

スピーカーの設置場所を確認してから、本機にスピーカーを接続します。

3 接続する(16~25ページ)

- **ビデオ機器を接続する(16ページ)**:DVDプレーヤーや衛星放送チューナーなどの各種ビデオ機器を接続します。
- **オーディオ機器を接続する(21ページ)**:CDプレーヤーやMDレコーダーなどの各種オーディオ機器を接続します。
- **他の機器を接続する(23ページ)**:他のアンプや外部デコーダー、ゲーム機などを接続します。
- **モニターを接続する(24ページ)**:ビデオ機器の映像を映すモニター(テレビ)を接続します。本機の状態などを示すオンスクリーン表示も、接続したモニター(テレビ)に表示されます。
- **電源コードを接続する(25ページ)**。
- **電源を入れる(25ページ)**。

4 スピーカーの設定を変更する(26ページ)

スピーカーモードなどの出力設定を、お使いのシステムに合わせて変更します。

5 音声出力レベルを調節する(30ページ)。

テストトーンを出力して、各スピーカーの音量が均等になるように調節します。

正しく接続するために

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源を必ず切ってください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 弊社製のCDプレーヤーやテープデッキなどを接続する場合は、各機器と本機と同じ番号(1、3、4など)のついた端子を接続してください。端子番号は今後発売される弊社製のオーディオ機器にも表示される予定です。

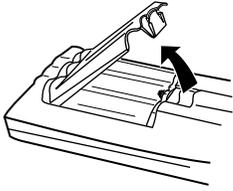
接続が終わったら

正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

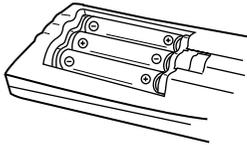
リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる

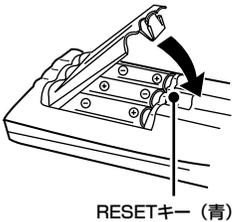
1 リモコンの裏蓋を開ける。



2 付属の単3乾電池(3本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス(+)とマイナス(-)の向きを間違えないように、正しく入れる。



3 裏ぶたをカチッと音がするまで押して、裏ぶたを閉じる。



リモコンの乾電池についてのご注意

- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

乾電池が消耗したときは、交換してください

乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったり、キーを押してもインジケータが点滅しなくなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。

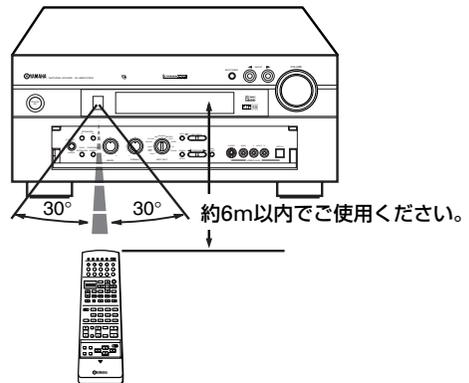
乾電池を交換したら、リモコンを使用する前にボールペンなど先の細いもので電池ケース内にあるRESETキーを押します。RESETキーを押しても、設定した内容(ラーニングやマクロ、メーカーコードなど)は消えません。

ご注意

- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 電池を外したまましばらく(3分以上)放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、学習(ラーニング)した機能など、リモコンに登録したメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードをセットアップし再度学習させてください。

リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。



リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
 - ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
 - ほこりの多いところ。
 - 極端に寒いところ。

スピーカーを準備する

本機は6スピーカーシステムに対応しています

本機はメインスピーカーL、R(2本)、センタースピーカー(1本)、リアセンタースピーカー(1本)、リアスピーカーL、R(2本)の6スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。

メインスピーカーはメインチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出力し、リアスピーカーL、Rはサラウンドと効果音、リアセンタースピーカーはサラウンド、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。スピーカーモードの設定により、最小2スピーカーシステムからの再生が可能ですが、6スピーカーシステムにおいて、最も良い音場効果が得られます。

ご注意

6スピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるシステムにあわせて、スピーカーモードを設定してください(26~29ページ)。

本機と接続するスピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をおすすめします。
- 同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのスピーカーで、スピーカーシステムを揃えることをおすすめします。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

スーパーウーファーで低音域の音響効果を向上できます

別売りのスーパーウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。スーパーウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS、AACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力には、ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をおすすめします。

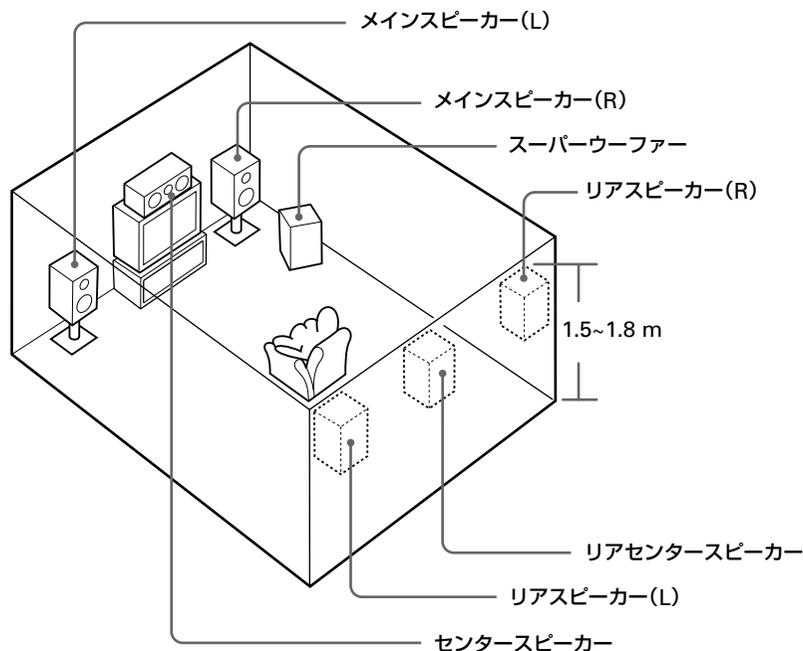
スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください

防磁型以外のスピーカーを使用すると、モニター(テレビ)に映る映像が乱れることがあります。特に画面近くに設置する必要があるセンタースピーカーやスーパーウーファーには、防磁型スピーカーをお使いになるようおすすめいたします。

防磁型スピーカーをお使いの場合でもモニター(テレビ)の映像が乱れるときは、スピーカーをモニター(テレビ)と離して設置してください。

スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは下図のように配置してください。



準備する

メインスピーカー(L、R)

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニター(テレビ)は、左右のスピーカーの中央に設置するようにしてください。

リアスピーカー(L、R)

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、モニター(テレビ)画面とスピーカーの前面を揃え、モニター(テレビ)の上や下など、できるだけモニター(テレビ)画面に近いところの中央に設置します。

リアセンタースピーカー

後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。フロアに直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

スーパーウーファー

前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

スピーカーを準備する

スピーカーを接続する

接続する際に、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、「+」(赤)、「-」(黒)を確認して正しく接続してください。極性(+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

ご注意

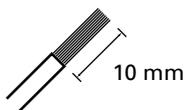
- スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、本機の保護回路が働いて自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因になるおそれがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続が終わったら、お使いのスピーカーの数や性能に応じて、セットメニューのスピーカーモードを設定してください(26ページ)。

スピーカーコードを準備する

一般的にスピーカーコードは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1 スピーカーコード先端の絶縁部(被覆)を、10mm位はがす。

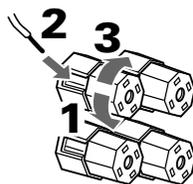


2 芯線をしっかりとよじる。

しっかりよじらないと、ショート(短絡)の原因になります。



スピーカーコードを接続する



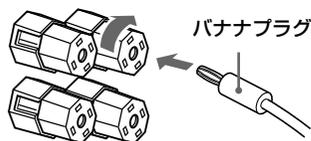
1 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

2 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーコードの芯線を差し込む。

3 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。

ご注意

市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めつけてから差し込んでください。



アンプ内蔵スーパーウーファーを使用するとき

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは、SUBWOOFER(モノラル出力)端子に接続します。(本機ではアンプ内蔵スーパーウーファーを2台まで接続することができます。)

メイン、センターおよびリアチャンネルからの低音信号はこの端子に送られます(90Hz以下)。ドルビーデジタルやDTS、AACデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

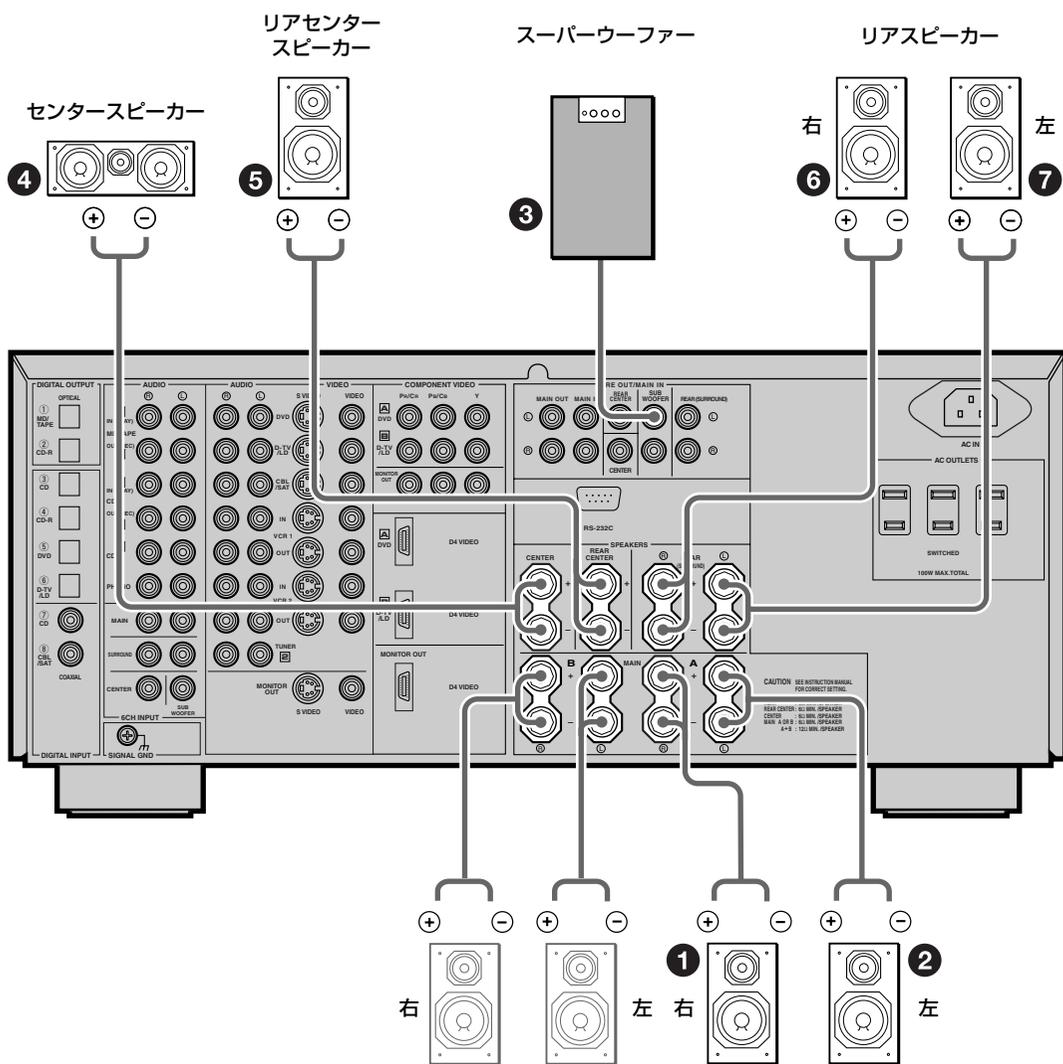
低音の間こえかたはスーパーウーファーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

💡 ヒント

SUBWOOFER端子からの出力レベルはセットメニューで設定できます。また、お使いのスーパーウーファーに付属する取扱説明書もご覧の上、スーパーウーファー自体の音量レベルも調節してください。

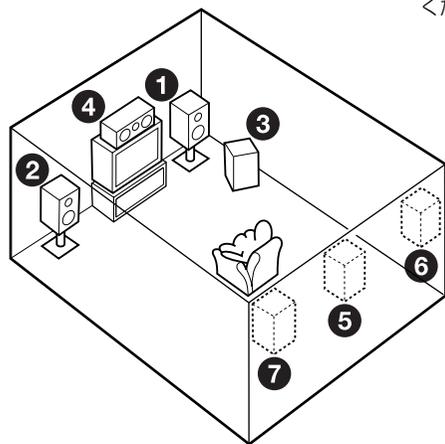
ご注意

セットメニュー「1 SPEAKER SET」と「10 LFE LEVEL」の設定によっては、SUBWOOFER端子から音声信号が出力されない場合があります(26~29ページ)。



メインスピーカーB
必要にあわせて設置してください。

メインスピーカーA



リスニングルーム内の各スピーカーの配置は、この図のようになります。

ビデオ機器を接続する

ビデオ機器を接続する前に

本機のビデオ端子について

本機は3種類のビデオ端子を装備しています。

映像を正しくテレビまたはモニターに表示するためには、接続した機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

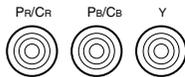
- **VIDEO端子**:通常の映像信号を接続します。



- **S VIDEO端子**:Sビデオ信号を接続します。Sビデオ信号は輝度信号(Y信号)と色信号(C信号)が分かれているため、より美しい映像を楽しめます。



- **COMPONENT VIDEO端子**:コンポーネントビデオ信号を接続します。コンポーネントビデオ信号は輝度信号(Y信号)と色差信号(Pb/CbおよびPr/Cr信号)の3系統に分かれているため、映像の色をより忠実に再現できます。市販のコンポーネントビデオ信号対応機器には、端子名が「Y、PB、PR」以外に、「Y、CB、CR」や「Y、B-Y、R-Y」というものがありますが、本機では端子名にかかわらず接続できます。



- **D4 VIDEO端子**:D4までのコンポーネントビデオ信号と映像をコントロールする信号を1つの端子で接続できます。



D4 VIDEO

ご注意

- 本機では、COMPONENT VIDEO端子(D4 VIDEO端子)とS VIDEO端子、VIDEO端子間の信号は独立しています。VIDEO端子から入った信号はVIDEO端子に、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に、COMPONENT VIDEO端子から入った信号はCOMPONENT VIDEO端子に出力されます。

なお、COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子は本機内部で並列接続されています。そのため、COMPONENT VIDEO端子から入力した映像信号をD4 VIDEO端子から出力したり、その逆に信号を入出力することもできます。ただし、同じ名称のCOMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子に同時にビデオ信号を入出力することはできません。

- S VIDEOおよびCOMPONENT VIDEO端子の接続には、市販の専用ケーブルをお使いください。
- 本機のS VIDEO端子は、映像に合わせてテレビのワイドモードを切り替える、S1およびS2規格には対応していません。

- COMPONENT VIDEO端子およびD4 VIDEO端子に接続した機器の操作については、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- COMPONENT VIDEO A、B端子の入力機器の設定をセットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます(52ページ)。
- ゲーム機やビデオカメラレコーダーなどを接続するときは、本機前面のVIDEO AUX端子に接続すると便利です。詳しくは「ゲーム機などを接続する」(23ページ)をご覧ください。

デジタルオーディオ入出力端子を持つ機器を接続するときは

本機はデジタル信号を直接接続できる、COAXIAL(同軸)/OPTICAL(光)デジタル端子を装備しています。お使いのDVDプレーヤーやLDプレーヤーにデジタル信号出力端子がある場合は、デジタル信号で接続して高音質で音声を楽しめます。

ヒント

本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。

- 32 kHz:BSアナログ放送Aモード
- 44.1 kHz:CD、CD-R、MD
- 48 kHz:DVD(48 kHzモード)、BSアナログ放送Bモード、BSデジタル放送
- 96 kHz:DVD(96 kHzモード)

ご注意

- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はDIGITAL OUTPUT端子からのみ出力されます。
- デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS/AAC兼用です。
- COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号が優先されます。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。
- OPTICALとCOAXIALの両方のデジタル出力端子がある機器は、両方同時に接続する必要はありません。セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」を変更して、あまった入力端子を他の機器用に使用することもできます。

デジタル入力端子の入力機器の設定を変更するには

セットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更できます。詳しくは52ページをご覧ください。

DVDプレーヤーを接続する

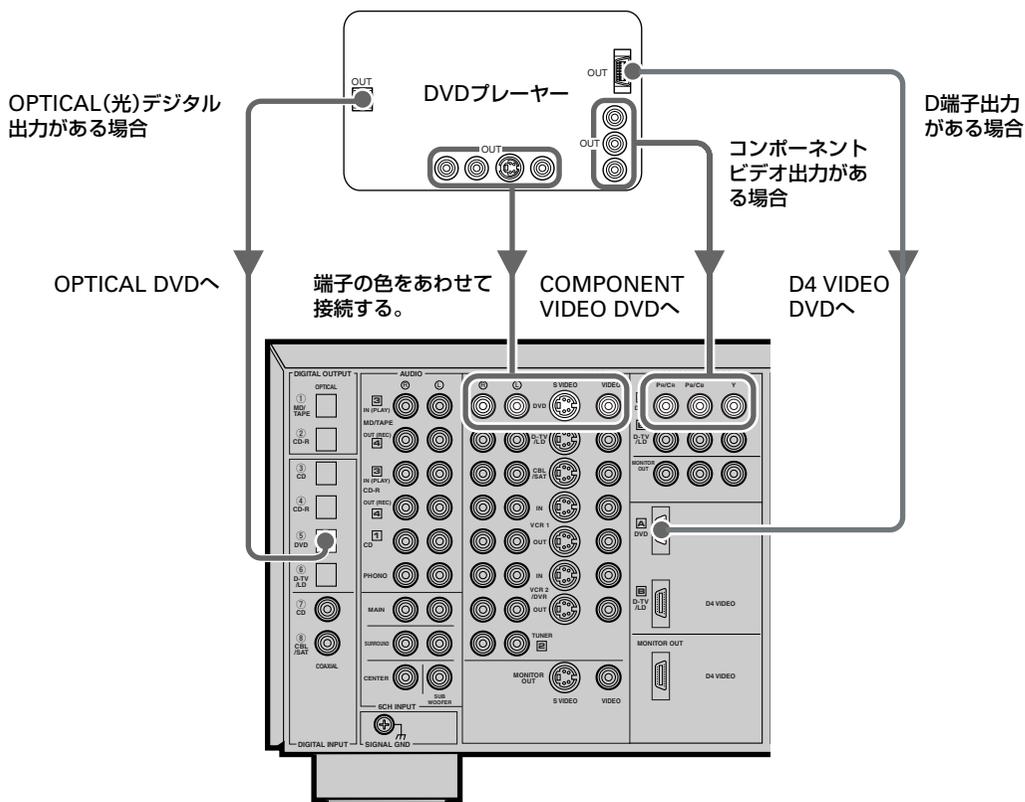
お使いのDVDプレーヤーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使って本機に接続します。端子の色をあわせて、接続してください。

お使いのDVDプレーヤーにSビデオ出力やコンポーネントビデオ出力がある場合は

市販の接続コードを使って本機のS VIDEO端子、またはCOMPONENT VIDEO端子(D4 VIDEO端子)に接続します。

お使いのDVDプレーヤーにOPTICAL(光)デジタル出力がある場合は

デジタル信号で接続して、ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を、高音質で楽しめます。市販のデジタル光ケーブルを使って本機のOPTICAL端子に接続します。



衛星放送／CATVチューナーを接続する

お使いの衛星放送／CATVチューナーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使って本機に接続します。端子の色をあわせて、接続してください。

お使いの衛星放送／CATVチューナーにSビデオ出力がある場合は

市販の接続コードを使って本機のS VIDEO端子に接続します。

お使いの衛星放送／CATVチューナーにCOAXIAL (同軸) デジタル出力がある場合は

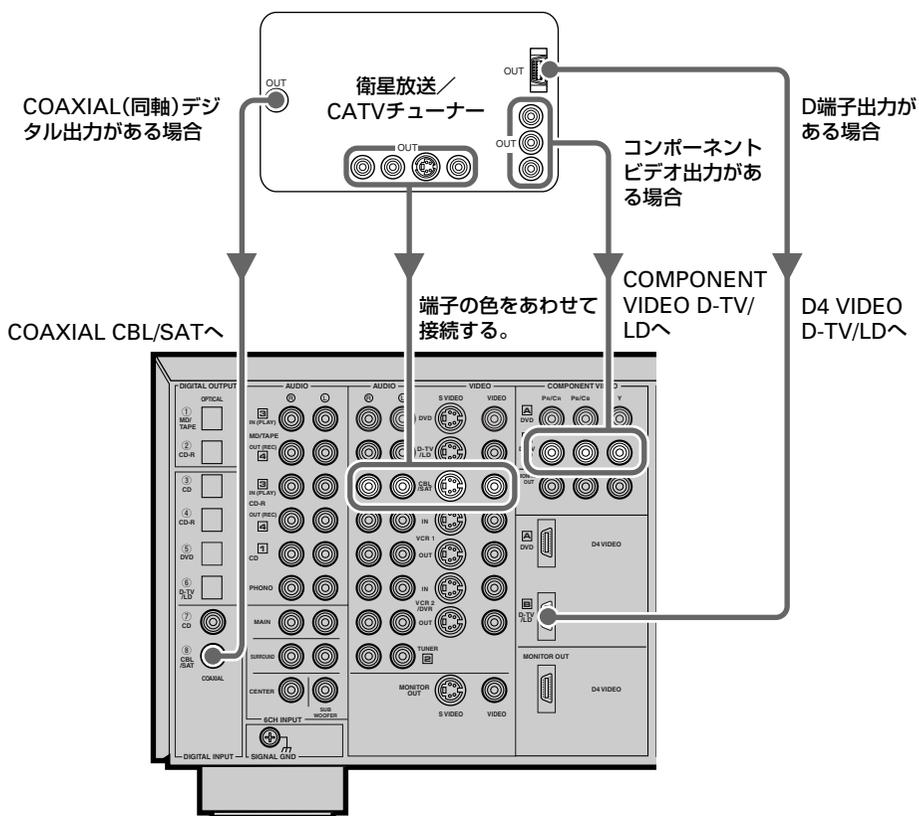
デジタル信号で接続して、高音質で音声を楽しめます。市販の接続コードを使って本機のCOAXIAL端子に接続します。

お使いの衛星放送／CATVチューナーにコンポーネントビデオ出力がある場合は

市販の接続コードを使って、本機のCOMPONENT VIDEO端子(D4 VIDEO端子)のD-TV/LD端子に接続します。

ご注意

コンポーネントビデオ出力がある場合はオーディオ系の信号をCBL/SAT端子、ビデオ系の信号をD-TV/LD端子に接続することになるため、セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」で入力端子の設定を変更する必要があります(56ページ)。ヤマハDSP AVアンプの操作に慣れていない方は、オーディオ信号とビデオ信号もはじめからD-TV/LD端子に接続することをおすすめいたします。



ビデオデッキを接続する

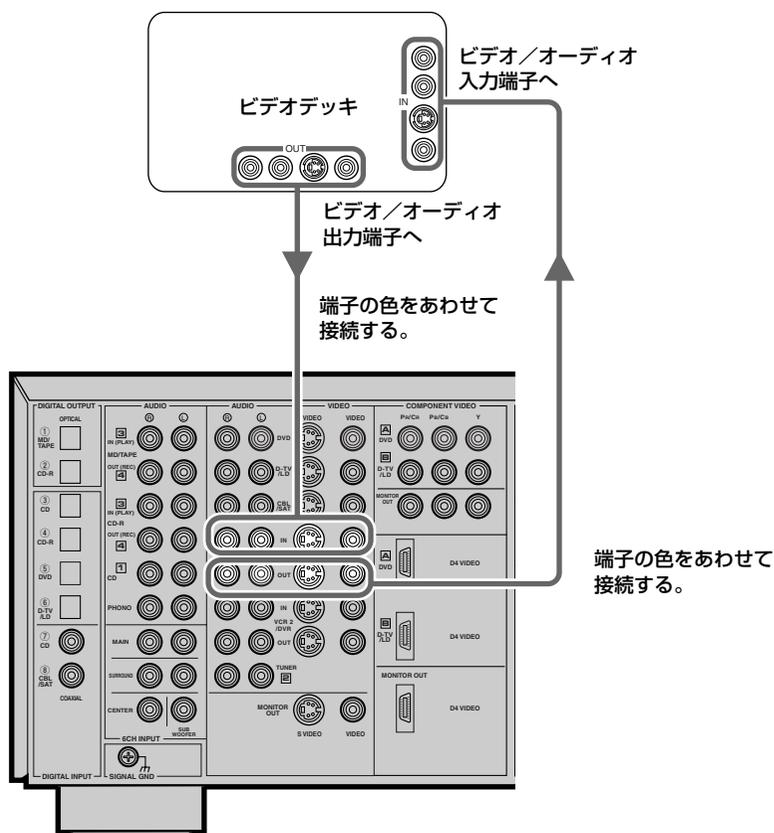
市販の接続コードを使って、お使いのビデオデッキを本機に接続します。端子の色をあわせて接続してください。

- ビデオデッキのビデオ出力端子と本機のVCR1 VIDEO IN端子を、ビデオデッキのオーディオ出力端子と本機のVCR1 AUDIO IN端子を接続します。
- ビデオデッキのビデオ入力端子と本機のVCR1 VIDEO OUT端子を、ビデオデッキのオーディオ入力端子と本機のVCR1 AUDIO OUT端子を接続します。

お使いのビデオデッキにSビデオ出力がある場合は
市販の接続コードを使って本機のS VIDEO端子に接続します。



準備する



LDプレーヤーを接続する

お使いのLDプレーヤーのビデオ出力端子とオーディオ出力端子を、市販の接続コードを使って本機に接続します。端子の色をあわせて、接続してください。

お使いのLDプレーヤーにSビデオ出力がある場合は
市販の接続コードを使って本機のS VIDEO端子に接続します。

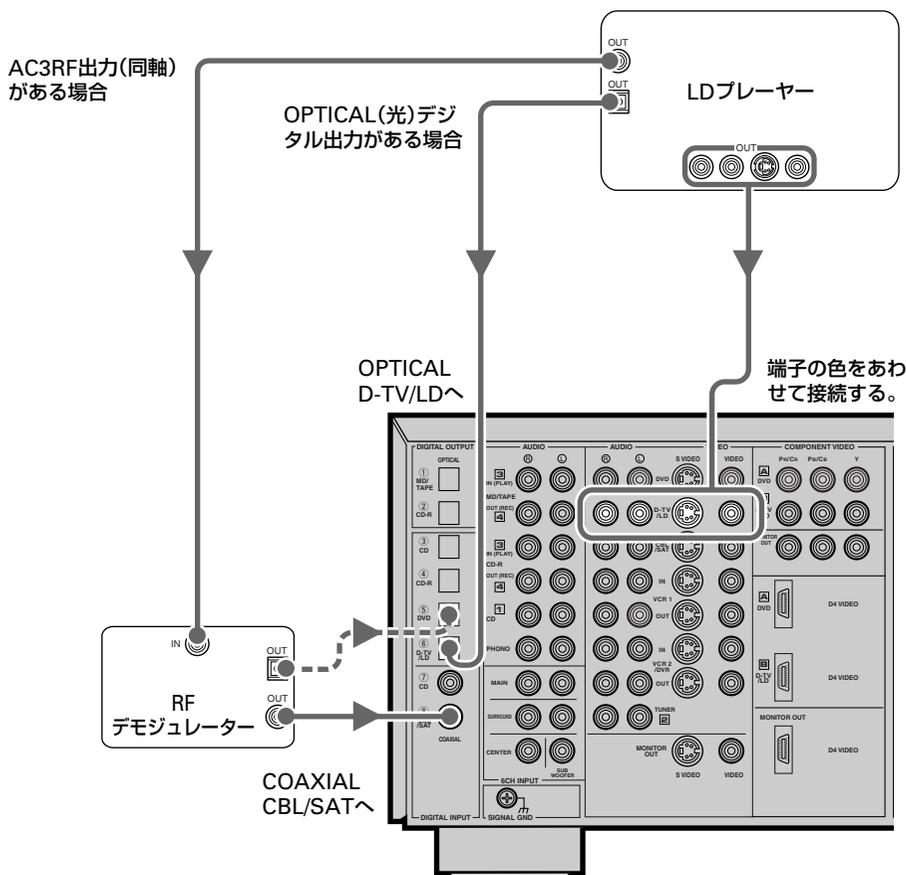
お使いのLDプレーヤーにOPTICAL(光)デジタル出力がある場合は
デジタル信号で接続して、高音質で音声を楽しめます。市販のデジタル光ケーブルを使って、本機のOPTICAL D-TV/LD端子に接続します。

お使いのLDプレーヤーにドルビーデジタルRF出力がある場合は

市販のRFデモジュレーターをLDプレーヤーに接続してから、本機のCOAXIAL CBL/SAT端子またはOPTICAL DVD端子に接続します。

ご注意

ドルビーデジタルRF出力がある場合はRFデモジュレーターの信号をCBL/SAT端子またはDVD端子、その他の信号をD-TV/LD端子に接続することになるため、セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」で入力端子の設定を変更する必要があります(52ページ)。



オーディオ機器を接続する

デジタルオーディオ機器を接続するときは

本機はデジタル信号を直接接続できる、COAXIAL(同軸)/OPTICAL(光)デジタル端子を装備しています。お使いのCDプレーヤーやMDプレーヤーにデジタル信号出力端子がある場合は、デジタル端子同士で接続して、音声を楽しめます。

ヒント

本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。

- 32 kHz:BSアナログ放送Aモード
- 44.1 kHz:CD、CD-R、MD
- 48 kHz:DVD(48 kHzモード)、BSアナログ放送Bモード、BSデジタル放送
- 96 kHz:DVD(96 kHzモード)

ご注意

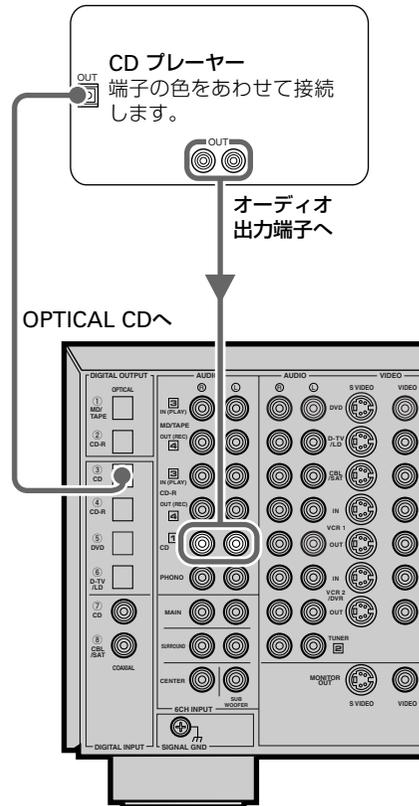
- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はDIGITAL OUTPUT端子からのみ出力されます。
- 同じ入力系統のCOAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号が優先されます。
- デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS/AAC兼用です。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。
- OPTICALとCOAXIALの両方のデジタル出力端子がある機器は、両方同時に接続する必要はありません。セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」を変更して、あまった入力端子を他の機器用に使用することもできます。

デジタル入力端子の入力機器の設定を変更するには

セットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更できます。詳しくは52ページをご覧ください。

CDプレーヤーを接続する

本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はDIGITAL OUTPUT端子からのみ出力されます。



準備する

ご注意

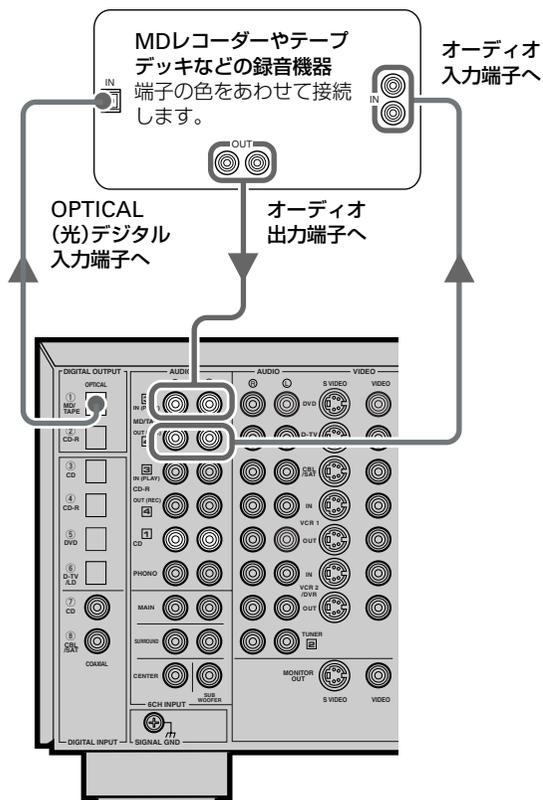
- AVアンプという製品ジャンルの特性上、REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてお使いください。
- CDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のOPTICAL CD端子とつなぎます。COAXIALデジタル出力端子がある場合は、本機のCOAXIAL CD端子とつなぎます。

オーディオ機器を接続する

MDレコーダーやテープデッキを接続する

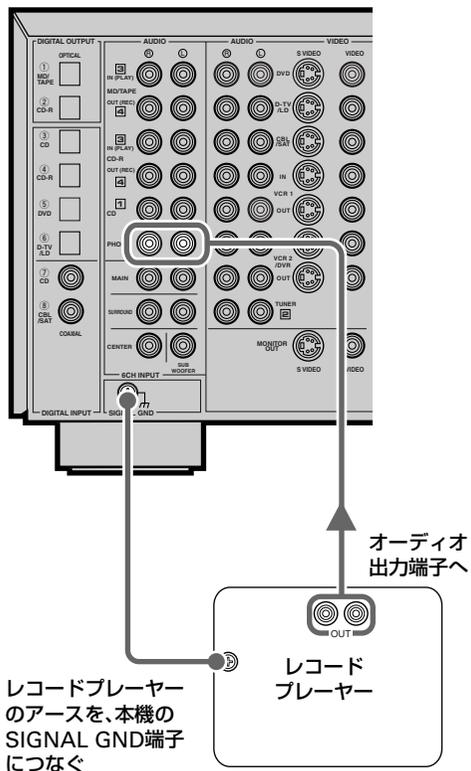
ヒント

MDレコーダーのデジタル出力を接続するときは、セットメニューの「I/O ASSIGNMENT」(52ページ)の設定を変更して、デジタル入力端子に接続することもできます。



レコードプレーヤーを接続する

MMカートリッジ、または高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。



ご注意

- SIGNAL GND端子は、アナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するためのもので、通常のアース端子ではありません。
- レコードプレーヤーによっては、アース線を SIGNAL GND 端子に接続しない方が、ハムノイズが減少することがあります。

他の機器を接続する

他のアンプを接続する

より大音量で音声を楽しみたいときや、お手持ちのアンプを利用したいときは、本機のPRE OUT/MAIN IN端子と外部パワーアンプを接続します。

ご注意

他のアンプへ出力するためにRCAピンプラグをPRE OUT端子に接続したときは、本機にスピーカーを接続しないでください。外部アンプに接続したスピーカーと、本機に接続したスピーカーの両方から音が出てしまいます。

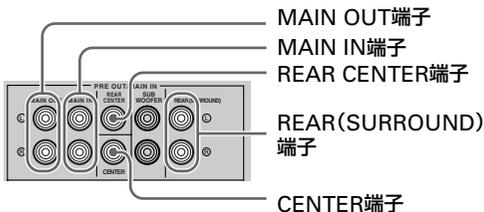
外部のパワーアンプを接続して、スピーカーを駆動するときは

接続するパワーアンプに合わせて、本機後面のOUTPUT端子に接続します。

- **MAIN OUT端子:** メインL、Rチャンネルの信号を出力します。
- **CENTER端子:** センターチャンネルの信号を出力します。
- **REAR(SURROUND)端子:** リアL、Rチャンネルの信号を出力します。
- **REAR CENTER端子:** リアセンターチャンネルの信号を出力します。

外部のプリアンプを接続するときは

- **MAIN IN端子:** 本機のメイン用パワーアンプの入力端子です。(この端子を使用すると、本機のプリアンプ部とメインアンプ部が切り離されます。)



ヒント

MAIN端子から出力される信号には、BASSコントロール、TREBLEコントロール、BASS EXTENSIONスイッチの設定が反映されます。

外部デコーダーを接続する

本機の6CH INPUT端子に、6(5.1)チャンネル出力端子を持った外部デコーダーやプロセッサーなどを接続できます。

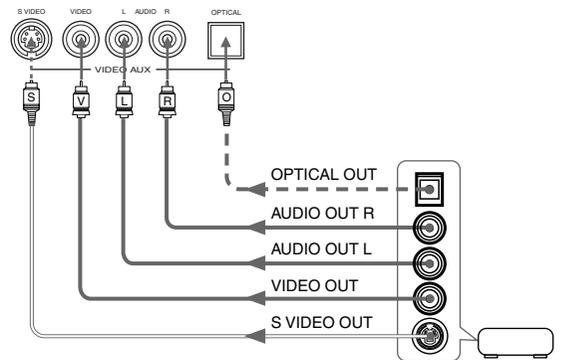
外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

ご注意

- 外部デコーダーからの入力音声には、本機の音場効果はかかりません。
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、セットメニューの「1 SPEAKER SET」の設定は、MAIN LVL項目を除いて反映されません。詳しくは「スピーカーシステムにあわせて出力設定を変更する」(26~29ページ)をご覧ください。

ゲーム機などを接続する

フロントパネルのVIDEO AUX端子に接続すると便利です。



ゲーム機やビデオカメラレコーダーなど

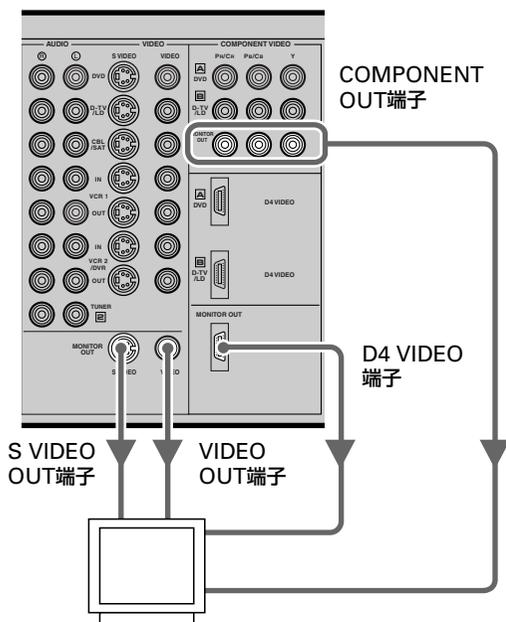


準備する

モニター（テレビ）を接続する

ビデオ機器の映像を映すモニター（テレビ）を接続します。本機の状態などを示すオンスクリーン表示も、接続したモニター（テレビ）に表示されます。

お使いのモニター（テレビ）がコンポーネント入力に対応しているときは、本機のCOMPONENT OUT端子またはD4 VIDEO端子と、Sビデオ入力に対応しているときは本機のS VIDEO端子と接続してください。



ご注意

- 本機のS VIDEO端子は映像に合わせてテレビのワイドモードを切り替える、S1およびS2規格には対応していません。
- COMPONENT VIDEOまたはD4 VIDEOのMONITOR OUT端子につないだモニター画面には、音場プログラムや各種設定を表示する、オンスクリーン表示は表示されません。オンスクリーン表示をさせたい場合は、S VIDEO端子がVIDEO端子のいずれかに接続してください。

本機に入力／出力されるビデオ信号は独立しています

本機では、COMPONENT VIDEO端子(D4 VIDEO端子)とS VIDEO端子、VIDEO端子間の信号は独立しています。VIDEO端子から入った信号はVIDEO端子に、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に、COMPONENT VIDEO端子から入った信号はCOMPONENT VIDEO端子に出力されます。

なお、COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子は本機内部で並列接続されています。そのため、COMPONENT VIDEO端子から入力した映像信号をD4 VIDEO端子から出力したり、その逆に信号を入出力することもできます。ただし、COMPONENT VIDEO端子とD4 VIDEO端子に同時にビデオ信号を入出力することはできません。

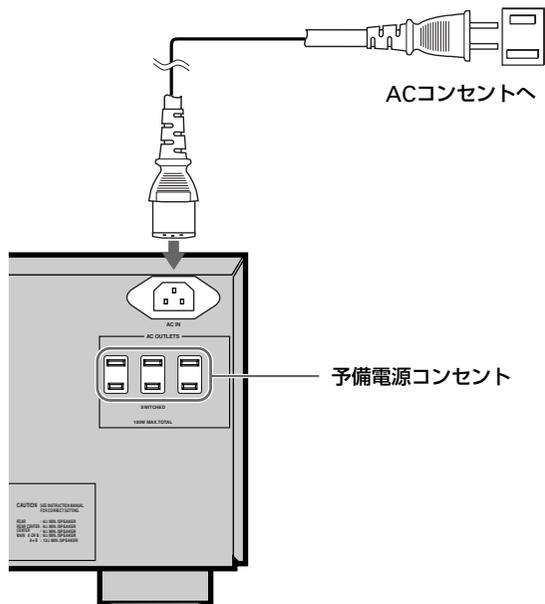
したがって、例えばDVDプレーヤーをコンポーネント信号で接続して、ビデオデッキをSビデオ信号で接続した場合は、モニター（テレビ）と本機をコンポーネントとSビデオの両方の信号ケーブルで接続する必要があります。

また、モニター（テレビ）がコンポーネント信号に対応していない場合は、ビデオ機器と本機をコンポーネント信号で接続しても、モニター（テレビ）で映像を楽しめません。

あらかじめビデオ機器とモニター（テレビ）の対応信号をご確認の上、ビデオ機器の接続を行ってください。

電源コードを接続する

すべての接続が終わったら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。



他の機器に電源を供給することもできます

本機のAC OUTLETS SWITCHED(予備電源コンセント)に他の機器の電源コードを接続すると、他の機器に電源を供給できます。本機の電源スイッチの入/スタンバイと連動して、合計で最大消費電力100Wまでの機器に、電源を供給できます。

接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

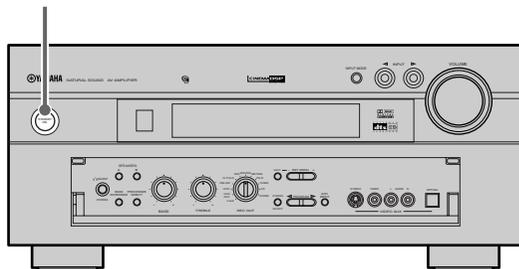
電源コードを抜いたまま放置すると、各種設定値が消えてしまいます

音量レベルやセットメニューの設定内容、エフェクトスピーカーのレベルなどの設定は、本機の内蔵メモリに記憶されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています(メモリーバックアップ)。ただし1週間を過ぎると、記憶内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

電源を入れる

ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。

STANDBY/ONスイッチ



- 1 STANDBY/ONスイッチを押す。
本機の電源が入ります。
- 2 本機と接続しているテレビ(またはモニター)の電源を入れる。

スピーカーシステムにあわせて出力設定を変更する

本機は6.1チャンネル対応のメインアンプを搭載しています。最大で7本のスピーカーを使用することができますが、お使いのスピーカーの数や大きさに合わせた音場効果を得るために、必ず以下の設定を行ってください。

スピーカーモードを設定する

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。スーパーウーファーをご使用になる場合は必ず設定してください。

- **1A CENTER SP:**センタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選びます。
- **1B MAIN SP:**メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選びます。
- **1C REAR L/R SP:**リアスピーカーL、Rの有無や性能に応じて、出力モードを選びます。
- **1D REAR CT SP:**リアセンタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選びます。
- **1E LFE/BASS OUT:**LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選びます。
- **1F MAIN LEVEL:**メインスピーカーレベルを選びます。

ヒント

スピーカーの設定項目では、目安としてウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合は「SML」、それ以上の口径の場合は「LRG」をおすすめします。

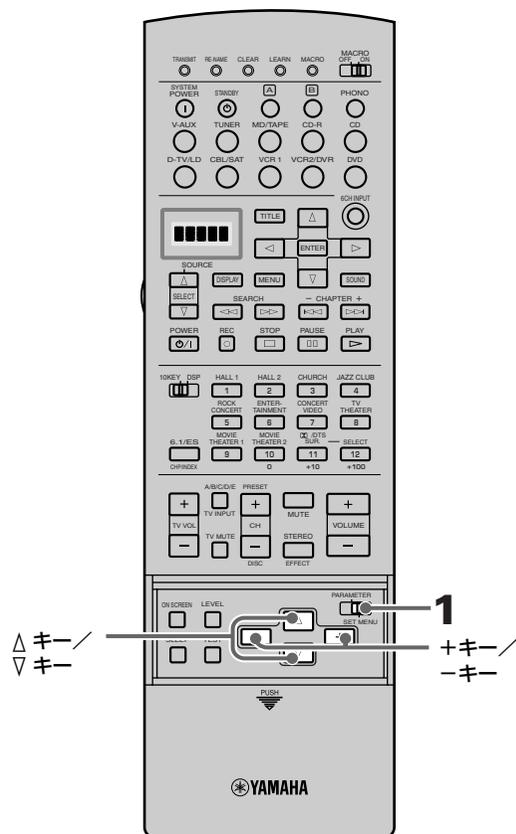
ご注意

- 6CH INPUT端子から入力した信号には、「MAIN LVL」以外のスピーカーモードの設定は反映されません。
- 48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力された場合は、「MAIN SP」と「BASS OUT」、「MAIN LVL」のみ設定が有効になります。「CENTER SP」と「REAR SP」の設定は、再生音声に反映されません。

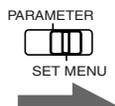
LFE信号の再生レベルを調節する

ドルビーデジタルやDTS、AACでのLFE(ローリクエンシーエフェクト)信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

フロントパネルのNEXT-SETMENUキーを操作して設定することも可能です。詳しくは49ページをご覧ください。



1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせる。



2 ▲キーまたは▼キーを押す。

セットメニューが、本機に接続したモニター(テレビ)に表示されます。



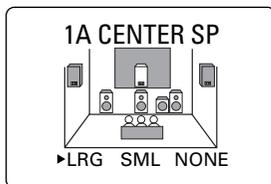
- 3** △キーまたは▽キーを何回か押して、「1 SPEAKER SET」を選ぶ。



- 4** ←キーまたは+キーを押す。

選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定がモニター画面と本体ディスプレイに表示されます。

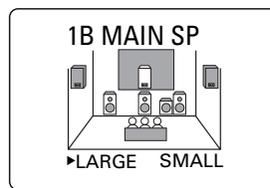
- 5** △キーまたは▽キーを何回か押して、「1A CENTER SP」を選ぶ。



- 6** ←キーまたは+キーを何回か押して、お使いのセンタースピーカーに合ったモードを選ぶ。

- **LRG (LARGE) [初期設定]**: 大型のセンタースピーカーを使用するときに選びます。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。
- **SML (SMALL)**: 小型のセンタースピーカーを使用するときに選びます。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、手順14の「1E LFE/BASS OUT」で選ぶスピーカーに出力されます。
- **NONE**: センタースピーカーを使用しないときに選びます。センターチャンネル信号は、メインのL、Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

- 7** △キーまたは▽キーを何回か押して、「1B MAIN SP」を選ぶ。



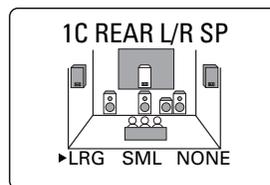
- 8** ←キーまたは+キーを何回か押して、お使いのメインスピーカーに合ったモードを選ぶ。

- **LARGE [初期設定]**: 大型のメインスピーカーを使用するときに選びます。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL、Rスピーカーに出力されます。
- **SMALL**: 小型のメインスピーカーを使用するときに選びます。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選ぶスピーカーに出力されます。

ご注意

SMALL設定時でも、「1E LFE/BASS OUT」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

- 9** △キーまたは▽キーを何回か押して、「1C REAR L/R SP」を選ぶ。



準備する

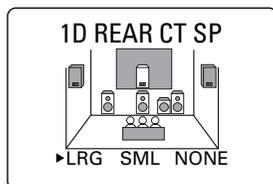
10 ーキーまたは+キーを何回か押して、お使いのリアL、Rスピーカーに合ったモードを選ぶ。

- **LRG(LARGE)**【初期設定】:大型のリアL、Rスピーカーを使用していたり、リアL、Rスピーカーにリア側スーパーウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合に選ばます。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。
- **SML(SMALL)**:小型のリアL、Rスピーカーを使用するときを選びます。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選ぶスピーカーに出力されます。
- **NONE**:リアL、Rスピーカーを使用しないときを選びます。リアL、Rの信号はメインL、Rにそれぞれ振り分けられます。

ヒント

NONEに設定されている場合は、音場効果を「入」にする
とバーチャルシネマDSPモードになります(41ページ)。

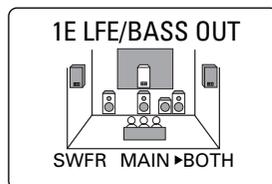
11 △キーまたは▽キーを何回か押して、「1D REAR CT SP」を選ぶ。



12 ーキーまたは+キーを何回か押して、お使いのリアセンタースピーカーに合ったモードを選ぶ。

- **LRG(LARGE)**【初期設定】:大型のリアセンタースピーカーを使用していたり、リアセンタースピーカーにリア側スーパーウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアセンターチャンネル信号の全帯域が、そのままリアセンタースピーカーに出力されます。
- **SML(SMALL)**:小型のリアセンタースピーカーを使用するときを選びます。リアセンターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選ぶスピーカーに出力されます。
- **NONE**:リアセンタースピーカーを使用しないときを選びます。リアセンターの信号はリアL、Rに振り分けられます。

13 △キーまたは▽キーを何回か押して、「1E LFE/BASS OUT」を選ぶ。





14

キーまたは+キーを何回か押して、LFE/BASS信号を出力するスピーカーを選ぶ。

LFE信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AAC動作時に出力される、90Hz以下の低域効果音のことです。

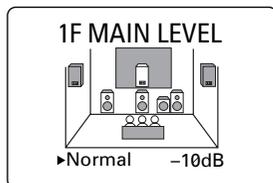
- **SWFR(SUBWOOFER)**:スーパーウーファーを使用するときを選びます。LFE信号と、1A~1Dの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、スーパーウーファーに出力されます。
- **MAIN**:スーパーウーファーを使用しないときを選びます。LFE信号と、1A~1Dの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メインL、Rスピーカーに出力されます。
- **BOTH[初期設定]**:スーパーウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスするときを選びます。メインスピーカーL、Rチャンネルの低音域が、メインスピーカーL、Rとスーパーウーファーの両方に出力されます(2チャンネル再生やドルビーサラウンド再生時に、スーパーウーファーから音声を出力できます)。

ご注意

1A~1Dを「SML」に設定している場合は、「SML」に設定したチャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEチャンネルにミックスされて、「1E LFE/BASS OUT」で選んだスピーカーから出力されます。

15

△キーまたは▽キーを何回か押して、「1F MAIN LEVEL」を選ぶ。



16

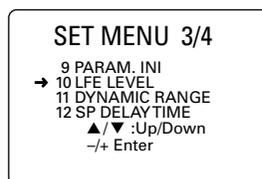
キーまたは+キーを何回か押して、メインスピーカーの出力レベルを選ぶ。

メインスピーカーが極端に高効率で、他の出力レベルがメインスピーカーに合わない場合には、メインレベルを下げても音声のバランスを取ることができます。

- **Normal[初期設定]**:通常はこの設定にします。
- **-10 dB**:センタースピーカーやリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合は、この設定にします。メインレベルが-10 dB(約1/3)になります。

17

△キーまたは▽キーを何回か押して、「10 LFE LEVEL」を選ぶ。



18

キーまたは+キーを何回か押して、LFE信号の再生レベルを設定する。

LFE(ローフリクエンシーエフェクト)信号は、ドルビーデジタルやDTS、AACにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です(初期設定:0dB)

ご注意

使用するスーパーウーファーやヘッドホンなどの能力にあわせて、LFEレベルを調節してください。

19

セットメニューを終了するときには、音場プログラム表示になるまで△キーまたは▽キーを繰り返し押す。

または、音場プログラムキーのどれかを押します。

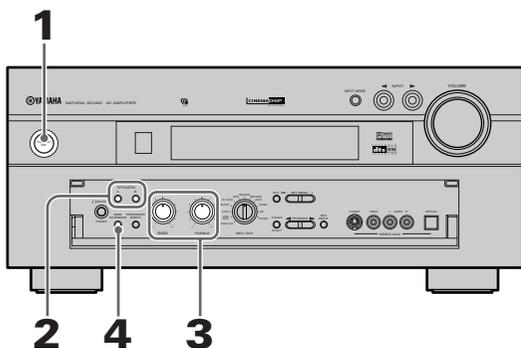
スピーカーの音声出力レベルを調節する

テストトーンを出力して、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音の大きさが同じになるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビーやDTS、AACを最良の環境で使用するために重要です。

ご注意

ヘッドホンをつないでいると、音声出力レベルを調整できません。音声出力レベルを調節する前に、取りはずしてください。

調節の準備をする



1 本機と接続しているテレビ(またはモニター)の電源を入れる。

2 SPEAKERS AまたはBを押して、調節するメインスピーカーを選ぶ。

押したボタンが点灯します。

2組のメインスピーカーを使用する場合は、AとBの両方を押します。

3 BASS、TREBLE音質調整つまみを中央に合わせる。

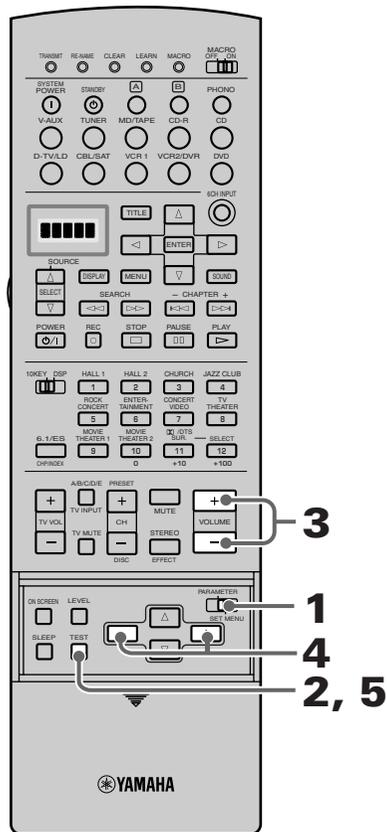
4 BASS EXTENSIONスイッチがONになっているときは、OFFにする。

テストトーンで調節する

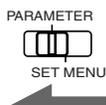
付属のリモコンを使って、サラウンドサウンドシステムに必要な6つのスピーカーの出力レベルを調節します。

ご注意

調節は必ず音声を聴く位置(リスニングポジション)で行ってください。

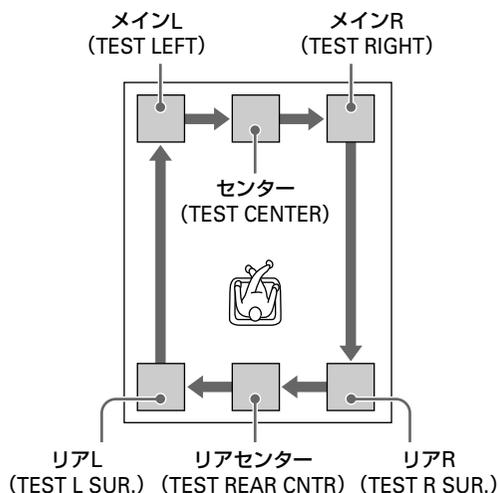


1 リスニングポジションに座り、PARAMETER/SET MENUスイッチをPARAMETERにする。

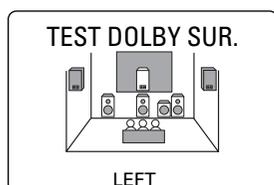


2 TESTキーを押す。

テストトーンが下図の順に出力され、それぞれ約2.5秒間ずつ聴こえます。



テストトーンの出力行状態は、リスニングルームのイラストでモニターに表示されます。



3 VOL+/-キーを押して、テストトーンの音量を通常再生する音量レベルに調節する。

ご注意

- テストトーンが聴こえない場合は、音量を下げてから本機をスタンバイ状態にして、スピーカーの接続を確認してください。
- セットメニュー「1A CENTER SP」(27ページ)がNONEに設定されている場合は、センタースピーカーの信号は左右のメインスピーカーに同じレベルで振り分けられ、メインL、Rスピーカーから出力されます。この場合、センタースピーカーの音声出力レベルを調節することはできません。
- セットメニュー「1D REAR CT SP」(28ページ)がNONEに設定されている場合は、リアセンタースピーカーの信号は左右のリアスピーカーに同じレベルで振り分けられ、リアL、Rスピーカーから出力されます。この場合、リアセンタースピーカーの音声出力レベルを調節することはできません。

4 調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間に-キーまたは+キーを押して、メインスピーカーの音量と同じになるように調節する。

調節中は、テストトーンは調節中のスピーカーからのみ出力されます。

ご注意

メインL、Rスピーカーの音量は調節できません。

5 調節が終わったら、TESTキーを押す。

テストトーンが止まり、本体ディスプレイとモニター画面は音場プログラム表示になります。

ご注意

- スーパーウーファーのレベル調整については、「エフェクトスピーカーの音量を調節する」(57ページ)をご覧ください。
- 再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーレベルがお好みに合わないことがあります。この場合は、実際の再生音を聴きながら調節してください。詳しくは、「エフェクトスピーカーの音量を調節する」(57ページ)をご覧ください。

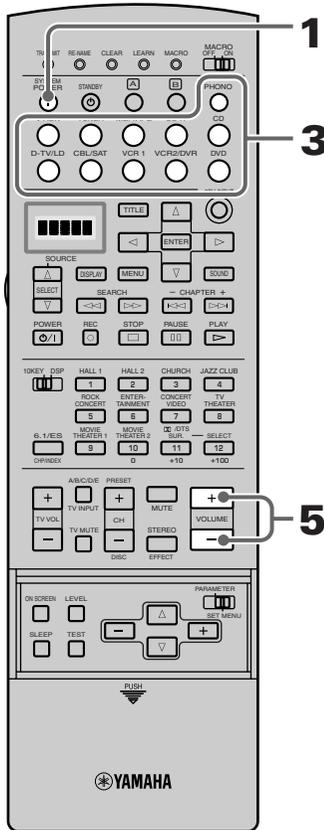
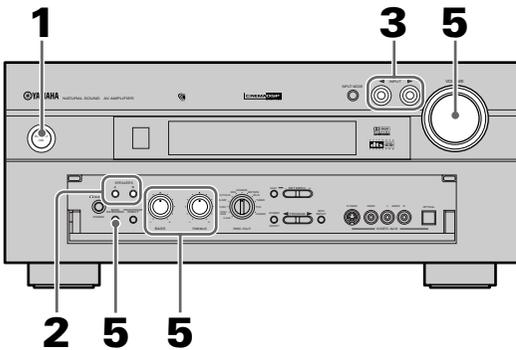
ヒント

- センタースピーカーの音色が異なる場合は、セットメニュー「5 CENTER GEQ」を使って音色が合うように調節してください(51ページ)。
- エフェクトスピーカー(センター、リアL、Rおよびリアセンター)の音量レベルを+10dBまで上げてメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1F MAIN LEVEL」を-10dBに設定して、メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げてください(29ページ)。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーのレベル調節をもう一度行ってください。



音声／映像を再生する

本機に接続したオーディオ機器やビデオ機器のソフトを再生してみましょう。



- 1 本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSYSTEM POWERキーを押して、本機の電源を入れる。

DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源も入れます。本体ディスプレイに音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示に変わります。

- 2 本体のSPEAKERS AまたはBスイッチを押して、音を出すメインスピーカーを選ぶ。

- 3 本体のINPUT </> キー、またはリモコンの入力選択キーを押して、再生したい音声を選ぶ。

選んだ音声(入力ソース)の種類が、本体ディスプレイとモニター画面に数秒間表示されます。



選んだ入力ソース

- 4 音声／映像機器で、再生を始める。

詳しくは、お使いの再生機器の取扱説明書をご覧ください。

- 5 音量を調節する。

BASS調節つまみやTREBLE調節つまみを回したり、BASS EXTENSIONスイッチを押して、メインスピーカーの音質を調整することもできます。

ご注意

- 入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と入力機器をあわせて接続していない場合は、入力ソース名と再生される音声異なります(例: CDプレーヤーをMD入力端子に接続すると、入力ソースとして「MD」を選んだときにCDプレーヤーの音声が出力されます)。この場合は、セットメニューの「6 INPUT RENAME」で機器名を変更できます(52ページ)。
- AVアンプという製品ジャンルの特性上、REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてお使いください。

音場プログラム／各種デコーダーによる再生を楽しむ

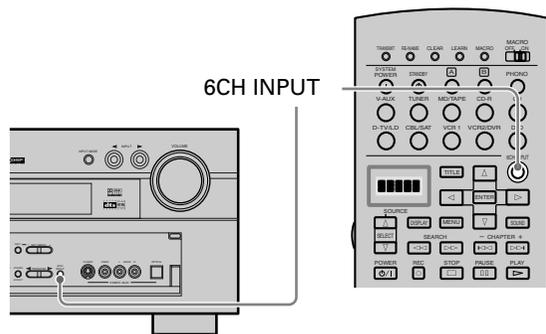
音場プログラムキーで好みの音場プログラムを選べます。音場プログラムと各種デコーダーの入／切について詳しくは、「音場プログラムを選ぶ」(39～41ページ)をご覧ください。

ご注意

入力ソースを切り替えると、あらかじめ設定された音場プログラムに切り替わります。

6CH INPUT端子に接続した、外部デコーダーなどの音声を楽しむ

6CH INPUTキーを押して、「6CH INPUT」を本体ディスプレイとモニター画面に表示させます。

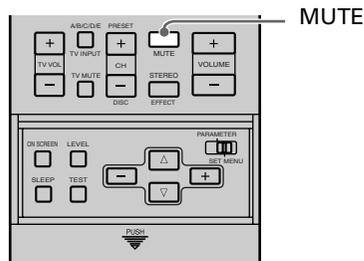


ご注意

- 「6CH INPUT」が本体ディスプレイとモニター画面に表示されている場合は、6CH INPUT端子に接続した機器の音声以外は再生できません。別の音声を再生するには、6CH INPUTキーを押して、「6CH INPUT」の表示を消してください。
- 映像と同時に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、映像ソースを選んでから、6CH INPUTキーを押します。
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。

一時的に音声を消す(消音する)

リモコンのMUTEキーを押します。



前の音量に戻すには、もう1度MUTEキーを押します。

ヒント

- VOLUME +/-キーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除できません。
- 消音中(ミュート中)は、本体ディスプレイのMUTE表示が点滅します。
- 本機をスタンバイ状態にすると、消音が解除されます。

本機の使用を終了するとき

本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSTANDBYキーを押して、本機をスタンバイ状態にしてください。

48kHzを超えるデジタル信号についての注意

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。これを利用するには、そのサンプリング周波数のデジタル信号で作られたソースとこれに対応したプレーヤーが必要です。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

- 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオサウンドとして出力されます。
ただし、セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLで「1E LFE/BASS OUT」がSWFR、または「1E LFE/BASS OUT」がBOTHに設定されている場合は、スーパーウーファーからも音が出ます。
- スーパーウーファーを除いて、57ページに説明されているスピーカーの音声出力レベル調節ができなくなります。



音声や映像を楽しむ

次のページにつづく

環境ビデオとして使う(BGV機能)

BGV(バックグラウンドビデオ)機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます)。

ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。

CD/LDのDTS音声の再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、雑音が発生することがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り換えると、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生する場合は：
 - 本機はDTS信号を検知すると、自動的にDTSモード(**dts**表示が点灯)に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、**dts**表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。すぐに通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
 - プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、**dts**表示が点滅することがあります。この状態が数十秒続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル(PCM)入力に切り替わり、**dts**表示は消灯します。

LDの再生に関するご注意

- デジタルサウンドトラックを持っていないLDソフトの場合、LDプレーヤーをアナログ入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはANALOGに設定してください。
- LDプレーヤーが非標準方式で信号を送ってきた場合、本機はドルビーデジタルまたはDTS信号を検知できません。その場合、デコーダーが自動的にPCMまたはアナログに切り換わります。
- LDプレーヤーは、アナログおよびデジタル出力端子から異なるオーディオ信号を出力します。必要に応じて、入力モードを変更してください。
- ドルビーデジタルディスクの再生時に、一時停止またはチャプター早送りから標準再生に切り換えると、ドルビーデジタル信号が再生される前に瞬間的にPCMまたはアナログ音声聞こえることがあります。
- 本機はAC3RF方式の音声には対応していません。AC3RF方式の音声を再生したいときは、RFデモジュレーターを本機に接続してください。RFデモジュレーターの接続のしかたについては、「LDプレーヤーを接続する」(20ページ)をご覧ください。

入力モードを切り替える

本機の入力モードを切り替えて、複数の系統の入力信号を受け付けるように設定したり、入力信号を特定の系統に固定したりすることができます。

複数の入力信号を特定の入力ソースやソフトを楽しむためにシステムを組んでいる場合などに、便利です。

希望する入力モードが本体ディスプレイとモニター画面に表示されるまで、**INPUT MODE** キーを繰り返し押す。

または、入力ソースを選択するために押したりリモコンの入力選択キーを繰り返し押します。



選んだ入力モード

- **AUTO**: 次の順序で入力信号が選ばれます。
 - 1) ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号
 - 2) デジタル(PCM)信号
 - 3) アナログ信号
- **DTS**: DTS信号以外は再生されません。
- **AAC**: AAC信号以外は再生されません。
- **ANALOG**: アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選択されます。
- セットメニューの「8 INPUT MODE」で、本機の電源を入れたときに、前回指定した入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを指定することもできます(53ページ)。

ご注意

入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。

- ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(検索)してから再生をはじめると、一部のLDおよびDVDプレーヤーで、再生音が少し遅れて再生される。
- デジタル録音されていないLDを再生する場合に、一部のLDプレーヤーで音声は正常に再生できない。この場合は入力モードをANALOGに設定して、お使いください。



音声や映像を楽しむ

オンスクリーン表示の見かた

本機にモニター(テレビ、またはプロジェクター)を接続すると、本機の操作内容などを表示させることができます。セットメニューや音場パラメーターを設定する際にオンスクリーンを利用すると、本体のディスプレイ表示に比べて見やすいので、便利です。

ヒント

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- オンスクリーン表示はVIDEO OUT端子からは出力されませんので、映像には録画されません。
- ビデオソースを再生していないとき(あるいは再生機器の電源が入っていないとき)に、セットメニューの「13 DISPLAY SET」でオンスクリーン表示の背景色表示を入/切できます(55ページ)。

オンスクリーン表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

- 全表示:**音場プログラムの設定値が、常にモニター表示されます(79ページ)。



- 簡易表示:**本体のディスプレイと同じ内容が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。



- 表示OFF:**モニター画面の下に「DISPLAY OFF」と表示された後、表示が消えます。

ヒント

- 全表示や簡易表示の場合は、INPUT < / > キーや VOLUMEコントロールなどを操作すると、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。
- 表示OFFの場合でも、TESTキーまたはSET MENUキーを押すと、オンスクリーン表示が表示されます。

ご注意

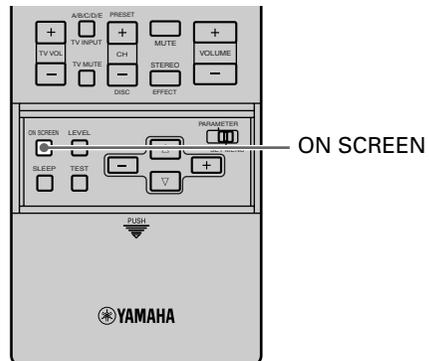
- COMPONENT VIDEOやD4 VIDEOのMONITOR OUT端子につないだモニター画面には、オンスクリーン表示されません。オンスクリーン表示をさせたい場合は、S VIDEO端子かVIDEO端子のいずれかに接続してください。
- 本機とモニターをSビデオ信号とビデオ信号の両方の信号を接続して、両方の信号とも出力がある場合は、オンスクリーン表示はSビデオ信号の出力にのみ表示されます。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

オンスクリーン表示を切り換える

1 本機とテレビまたはモニターの電源を入れる。

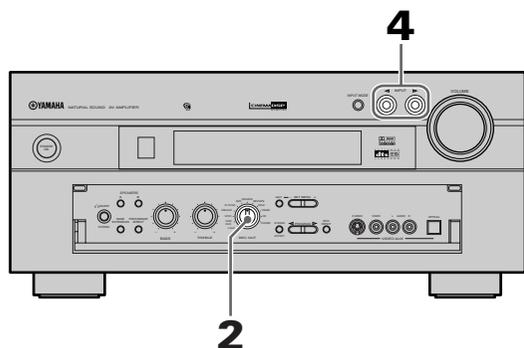
2 リモコンのON SCREENキーを押す。

押すごとに、表示内容が全表示→簡易表示→表示OFF→全表示→…の順に切り換わります。



録音／録画する

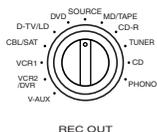
録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。



1 本機に接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 REC OUTセクターを回して、録音／録画したい入力ソースを選ぶ。

- 見ている(聴いている)ソースを録音／録画する: REC OUTセクターをSOURCEに合わせる。
- 見ている(聴いている)ソースとは別のソースを録音／録画する: REC OUTセクターを録音／録画したいソースに合わせる。



3 ソースを再生する。

AM/FM放送の番組を録音したいときは、放送局を選局します。

4 録音／録画を開始する。

録音／録画中に見ている(聴いている)ソースを変更したい場合は、INPUT ◀/▶ キーでソースを選んで、音量を調節することができます(REC OUTセクターをSOURCE以外に合わせているときのみ)。

ヒント

REC OUTセクターをSOURCEに合わせてBGV機能(34ページ)を使うと、異なったソースの映像と音声を録音／録画できます。

ご注意

- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はDIGITAL OUTPUT端子からのみ出力されます。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音／録画することはできません。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- 6CH INPUT端子から入力された信号は録音できません。
- S VIDEO端子に入力されたSビデオ信号はS VIDEO端子からのみ録画できます。同様に、VIDEO端子に入力されたビデオ信号はVIDEO端子からのみ録画できます。
- 入力ソースのREC OUT端子からは、信号は出力されません。(例:VCR1の信号はVCR1のREC OUT端子から出力されません。)
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

DTSソフトの録音についてのご注意

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応ディスクの信号を録音するためには、以下の点にご注意ください。

お使いのプレーヤーがDTSデコーダーを内蔵している場合は、DTS対応のDVDやLD、CDは、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。録音時にはプレーヤーからアナログ信号で出力するように設定してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

タイマー再生／録音する

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ヒント

タイマー再生／録音時には、本機のメモリーに記憶された内容(入力ソース等)が反映されます。

ご注意

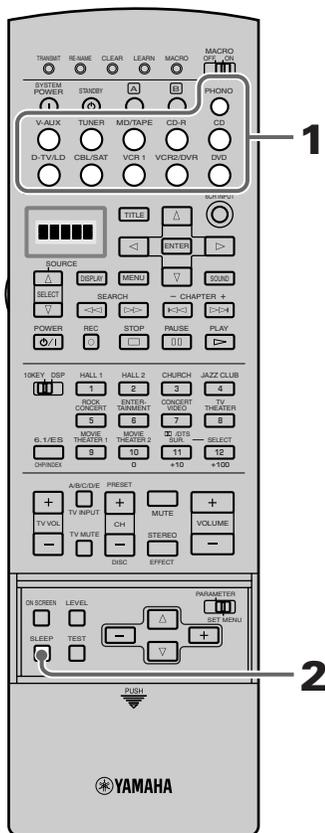
- タイマー録音で録音中に音出しをしないう場合は、音量を絞っておきます。
- 本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)、選択していたソースや音量レベル、セットメニューなどの設定内容は本機に記憶されています。ただし、その状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。



音声や映像を楽しむ

一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、本機が自動的にスタンバイ状態になるように設定できます(スリープタイマー)。聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが動作すると、本機後面のSWITCHED AC OUTLETS端子に接続した機器(ソース)の電源も「切」になります。スリープタイマーの設定はリモコンで行います。



1 ソースを選んで、再生する。

2 SLEEPキーを何回か押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する。

SLEEPキーを押すごとに、SLEEP 120min→SLEEP 90min→SLEEP 60min→SLEEP 30min→SLEEP OFF→SLEEP 120min→...の順に切り替わります(min=分表示)。

スリープタイマーが設定されるとディスプレイにSLEEP表示が点灯してから、音場プログラム表示に戻ります。



スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを何回か押す。

しばらくすると「SLEEP OFF」は消え、SLEEP表示も消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

ヒント

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。

タイマー再生をしたいときは

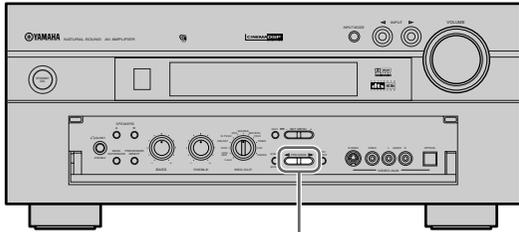
市販のタイマーをお使いください。詳しくはタイマーの取扱説明書をご覧ください。



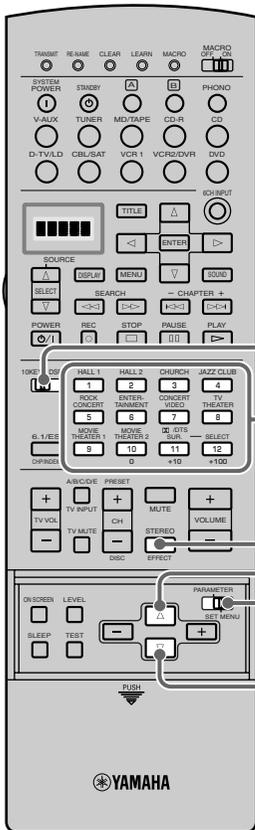
音場プログラムを選ぶ

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つシネマDSP音場プログラムを内蔵しています。

再生するときには好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。用意されている音場プログラムについて詳しくは、42～47ページをご覧ください。



2



STEREO/EFFECT
キー
△キー
PARAMETER/SET
MENUスイッチ
▽キー

1 リモコンの10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせる。

10KEY DSP



2 本体のPROGRAM </> キー、またはリモコンの数字/DSPキーを押して、音場プログラムを選ぶ。

- 例: MOVIE THEATER 1  を押すごとに、サブプログラム(「Sci-Fi」と「Spectacle」)が切り替わります。
- プログラム名は、本体ディスプレイに表示されます。

ご注意

- リスニングルームの音響効果は、音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内に反響しやすい物体をできるだけ置かないようにしてください。
- 入力モード(35ページ)がAUTOに設定されている場合にドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、対応した音場プログラムに自動的に切り替わります。
- 本機をスタンバイにしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の状態に戻ります。
- 選んだ音場プログラムと入力信号によっては、一部のスピーカーから音声が出力されない場合があります。詳しくは「入力信号と再生スピーカー対応表」(45～46ページ)をご覧ください。
- 6CH INPUT端子に接続されているソースには、音場プログラムを使用できません。
- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号が入力されている場合は、音場プログラムを使用できません。音声は通常の2チャンネルステレオとして再生されます。

ヒント

音場プログラムはプログラム名ではなく、自分のリスニングルームの状況やお好みに合わせて選んでください。

通常のステレオ音声で再生するには

STEREO/EFFECTキーを押して、「STEREO」を表示させる。

音場効果が「切」になり、通常のステレオ再生に戻ります。STEREO/EFFECTキーをもう1度押すと、音場効果が「入」になります。



ご注意

- 音場効果が「切」の時は、メインL、R以外のスピーカーから音は出ません。ただし、セットメニュー「1E LFE/BASS OUT」をBOTH、または「1B MAIN SP」をSMALLに設定している場合は、スーパーウーファーから低音域が出力されます(26~29ページ)。
- ドルビーデジタルやAAC、DTSの音声を再生中に音場効果を「切」にすると、ダイナミックレンジが圧縮され、センターおよびリアチャンネルの信号はメインスピーカーのL、Rにミックスされて出力されます。
- ドルビーデジタルのソフトによっては、セットメニュー「11 DYNAMIC RANGE」(54ページ)をMINに設定した場合や、音場効果を「切」にした場合に、音量が極端に下がる場合があります。STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を「入」にしてお使いください。

ヒント

音場効果が「切」のとき(ステレオ音声再生時)にPARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせてから△キーまたは▽キーを押すと、再生中の信号のフォーマットやサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。

▽キーを押すごとに、表示内容が以下の順に変わります。

- Format:**入力信号の信号フォーマット。デジタル入力を認識できない場合は、アナログモードに設定されます。

入力信号	表示
アナログ音声	Analog
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital

- fs:**入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、unknownと表示されます。
- Audio Channels:**入力信号の音声チャンネル数(ドルビーデジタル/DTS/AAC入力時のみ)。「フロントのチャンネル数/リアのチャンネル数/LFEの有無」の形式で表示されます(例:5.1チャンネル音声の場合、「in:3/2/LFE」と表示されます)。また、二カ国語放送などの主+副の2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。
- bit rate:**入力信号のビットレート(ドルビーデジタル/DTSのみ)。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。
- flag:**入力信号に含まれている、信号処理に使用されるフラグ(ドルビーデジタル/DTSのみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

ドルビーデジタルマトリクス音声や、DTS-ES音声を再生する

ドルビーデジタルマトリクス方式やDTS-ES方式(ディスクリット6.1、マトリクス6.1)のソフトを6.1チャンネル再生するときは、6.1/ESキーを押します。



6.1/ES表示が点灯する。

キーを押すごとに、AUTO(自動判別)→Disc6.1(ディスクリット音声)→Mtrx6.1(マトリクス音声)→OFF→AUTO→...の順にディスプレイ表示が変わります。

- AUTO[初期設定]:**本機が認識できる信号で記録されたソースが入力されると、ディスクリット音声とマトリクス音声にそれぞれ自動的に切り替わります。
- Disc6.1:**DTS-ES(ディスクリット6.1)音声に固定します。それ以外の方式で記録されているソースでは、選べません。ただし、途中でDTS-ES(ディスクリット6.1)音声以外のリアL、R成分のある入力ソースに切り替わると、マトリクス6.1方式で再生を行います。この場合は、入力ソースがDTS-ES(ディスクリット6.1)音声に戻ると、ディスクリット音声で再生します。
- Mtrx6.1:**マトリクス6.1方式の音声に固定します。リアL、R成分のあるソースであれば、ドルビーデジタル、DTS、AACのいずれの信号でもマトリクス音声で再生できます。また、ドルビーデジタルKARAOKE方式のソースは6.1方式での再生はできません。
- OFF:**リアセンタースピーカーから音声は出力されません。

ご注意

- 以下の場合は、6.1/ESキーを押しても6.1チャンネル再生はできません。
 - 「1C REAR L/R SP」(27ページ)をNONEに設定している。
 - 音場効果が「切」(ステレオ再生)になっている。
 - ヘッドホンを接続している。
 - 6CH INPUT端子に入力されている音声を再生している。
- 本機をスタンバイ状態にしてからもう1度電源を入れると、ディスプレイ表示は初期設定に戻ります。

メインスピーカーだけで音場プログラムを楽しむ (バーチャルシネマDSP)

セットメニューの「1C REAR L/R SP」をNONEに設定すると(28ページ)、バーチャルシネマDSP音場を楽しめます。

入カソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでメインスピーカー(L、R)から音声が再生されます。

ご注意

以下の場合、セットメニュー「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。

- 6ch StereoやPro Logic Normal、DOLBY DIGITAL Normal、DTS Normal、AAC Normal、Pro Logic II、Neo:6音場プログラムを選んでいる。
- 音場効果が「切」(STEREO)になっている。
- 本機の6CH INPUT端子に接続されたソースを再生している。
- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
- テストトーンを使用している。
- ヘッドホンを接続している。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ (サイレントシアター)

ステレオ音声再生状態でないときにヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現できる、サイレントシアターで音声を楽しめます。

ご注意

- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されているときは、サイレントシアターは動作しません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号を再生しているときは、メインL、Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。



音場プログラム一覧

本機には、ヤマハの最新技術によるデジタル音場プロセッサー(DSP)が搭載されています。お聴きになるソースに合わせて音場プログラムを選び、ソースとリスニングルームに合った音声を楽しめます。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられることがあります。故障ではありません。
- 下記の名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

Hi-Fi DSPプログラム (オーディオソフト用 : No.1~No.6)

コンサート ホール

① CONCERT HALL 1

ヨーロッパ ホール エー
Europe Hall A

ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。

ヨーロッパ ホール ビー
Europe Hall B

ドイツのフランクフルトにある木製の内装材を使った2400席弱のシューボックス型コンサートホールです。ステージ上方のマホガニー色に塗装された幾層もの反射板によって、ステージ方向からの反射音が強く、直接音が増強される傾向にあり、力強い響きが特長です。座席の位置は1階中央右寄りです。

コンサート ホール

② CONCERT HALL 2

ユーエスエー ホール シー
U.S.A. Hall C

ヨーロッパの伝統をふまえて設計された、ボストンにある大規模なコンサートホールです。客席数は2600席程度で、内装はよりシンプルにまとめられ、アメリカ的な処理が感じられます。中高音の豊かな響きが特長です。

ライブ コンサート
Live Concert

円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊かな響きが特長です。

チャーチ

③ CHURCH

フライブルグ
Freiburg

ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。

ロワイヨールモン
Royaumont

パリ近郊ロワイヨールモンにある美しい中世ゴシック建築の修道院の食堂大広間の音場です。天井をささえる石柱毎に構成されるドーム状の多くの天井空間に残響が響きあい、余韻の美しい音場です。

ジャズ クラブ

④ JAZZ CLUB

ヴィレッジ ゲート
Village Gate

ニューヨークにあるライブハウスで、比較的広いことから小ホールのような響きです。ステージに向かい中央左寄りの音場です。

ザ ボトム ライン
The Bottom Line

ニューヨークで話題のライブハウス“ザ ボトム ライン”のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。

ロック コンサート
⑤ ROCK CONCERT

ザ ロキシー シアター
The Roxy Theatre

ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。

アリーナ
Arena

広いアリーナの音場です。

エンターテインメント
⑥ ENTERTAINMENT

ディスコ
Disco

ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

チャンネル ステレオ
6ch Stereo

後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

CINEMA DSPプログラム (ビデオソフト用：No.6～No.11)

エンターテインメント

⑥ ENTERTAINMENT

ゲーム
Game

ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与えるプログラム。音源がモノラルでもステレオでも有効で、迫力のあるTVゲームが楽しめます。

コンサート ビデオ

⑦ CONCERT VIDEO

ポップ ロック
Pop/Rock

ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気はひたれます。

オペラ
Opera

響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感と共に、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の美しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。

テレビ シアター

⑧ TV THEATER

モノ ムービー
Mono Movie

古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声の臨場感を持って再生されます。

バラエティ スポーツ
Variety/Sports

プレゼンス音場はやや狭いが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

ムービー シアター

⑨ MOVIE THEATER 1

SpectacleとSci-Fiの、2つのサブプログラムが用意されています。

ご注意

入力する音声信号の種類によって、プログラム名が変わります。詳しくは「音場プログラム名一覧表」(47ページ)をご覧ください。

スペクタクル
Spectacle

映画のワンシーンに飛び込んだような、超ワイドな空間がイメージできる音場。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に最適です。

サイファイ
Sci-Fi

セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ音場を演出。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。

ムービー シアター

⑩ MOVIE THEATER 2

AdventureとGeneralの、2つのサブプログラムが用意されています。

ご注意

入力する音声信号の種類によって、プログラム名が変わります。詳しくは「音場プログラム名一覧表」(47ページ)をご覧ください。

アドベンチャー
Adventure

セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れたモード。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。

ジェネラル
General

響きを抑えた明瞭なセリフ、画面の周囲と奥に広がる立体的な音場と柔らかな響き。ラブストーリーやコメディなど、人の心の動きを描写する作品に適しています。

ドルビー サラウンド
⑪ **DD/DTS/AAC SURROUND**

Normal/Matrix 6.1/ESとEnhancedの、2つのサブプログラムが用意されています。

ご注意

入力する音声信号の種類によって、プログラム名が変わります。詳しくは「音場プログラム名一覧表」(47ページ)をご覧ください。



音場プログラムを使いこなす (DSP)

次のページにつづく

音場プログラム一覧

ノーマルマトリクス

Normal/Matrix 6.1/ES

AAC、DTS、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックで処理されたムービーサウンドをストレートに再生。スムーズで正確な音源の移動感や定位が得られます。

エンハンスド

Enhanced

L、C、Rチャンネルの信号はそのまま出力し、サラウンド(リア)側にのみ拡張音場処理。映画館さながらの豊かなサラウンド音場が、リスナーを包み込みます。

ヒント

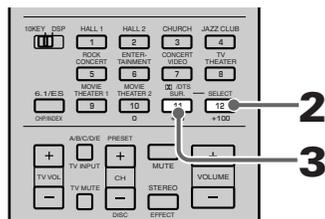
- 入力モードがAUTOに設定されている場合は(35ページ)、ドルビーデジタル信号またはDTS、AAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタルまたはDTS、AAC再生音場に切り替わります。
- ドルビーデジタルまたはDTS、AACの5.1チャンネルソースを再生中は、リモコンの6.1/ESキーでドルビーデジタルマトリクス6.1またはDTS ESデコーダーを入/切できます。

ご注意

- DD/DTS/AAC SURROUNDのサブプログラム「Normal」を選んでいる場合は、DSP表示は点灯しません。
- モノラルソースをシネマDSPプログラム6~9で再生した場合、ソースの音声はセンタースピーカーから出ます。メインスピーカーとリアスピーカーからは、シネマDSPの効果音(反射音)のみ出力されます。

ドルビー プロ ロジック ツー ネオ シックス DOLBY PRO LOGIC II/DTS Neo:6デ コーダーで音声を楽しむ

本機は2チャンネル音声を仮想的に多チャンネル化して楽しむ、DOLBY PRO LOGIC IIデコーダーとDTS Neo:6デコーダーを搭載しています。



ご注意

2チャンネル音声以外の信号は、DOLBY PRO LOGIC II / DTS Neo:6デコーダーでは再生できません。

1 本機に2チャンネル音声を入力してから、**①** **□□/DTS/AAC SURROUND**プログラムを選ぶ。

2 **SELECT** **12** **+100** キーを押して、デコーダーを選ぶ。

SELECT **12** **+100** キーを押すごとに、PRO LOGIC→PRO LOGIC II→Neo:6→PRO LOGIC→...の順に切り替わります。

3 **DE DTS** **11** **+10** キーを押して、サブプログラムを選ぶ。

- 手順2でDOLBY PRO LOGIC IIデコーダーを選んだときは、PRO LOGIC II/Movie→PRO LOGIC II/Musicの順に切り替わります。
- 手順2でDTS Neo:6デコーダーを選んだときは、Neo:6/Cinema→Neo:6/Musicの順に切り替わります。

ヒント

本体のPROGRAM ◀/▶ キーを押して、DOLBY PRO LOGIC II/DTS Neo:6プログラムを選ぶこともできます。

入力信号と再生スピーカー対応表

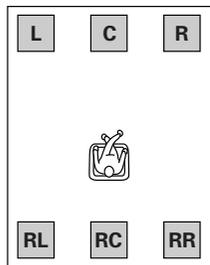
音場プログラムと入力音声信号、再生スピーカーの関係について詳しくは、次ページの表をご覧ください。本機に入力する音声信号と、選んだ音場プログラムの組み合わせによっては、特定のスピーカーから音が出ないことがあります。

ご注意

- スピーカーモード(26~29ページ)でNONEに設定されているスピーカーは、接続されていても音は出ません。
- リアセンタースピーカーから音が出るのは、以下のいずれかの場合に限られます。
 - ドルビーデジタル、DTSおよびAACのマルチチャンネル音声入力時にマトリクス6.1またはDTS-ESデコーダーが動作している場合
 - AACを除く2チャンネル音声入力時に、DTS Neo:6デコーダーで再生している場合
 - ENTERTAINMENT 6ch Stereoプログラムを選んでいる場合

表の見かた

表中のイラストは、6つのスピーカーを示します。



- L:メインLスピーカー
- C:センタースピーカー
- R:メインRスピーカー
- RL:リアLスピーカー
- RC:リアセンタースピーカー
- RR:リアRスピーカー

イラスト中の各スピーカーのイラストは、音が出ているかどうかを示します。

- 音が出ているスピーカー
- 音の出ているスピーカー

次のページにつづく

音場プログラム一覧

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

	2チャンネル音声 (モノラル)	2チャンネル音声 (ステレオ)	5.1/6.1チャンネル音声 ([6.1/ES] 表示消灯時)	5.1/6.1チャンネル音声 ([6.1/ES] 表示点灯時)
① CONCERT HALL 1				
② CONCERT HALL 2				
③ CHURCH				
④ JAZZ CLUB				
⑤ ROCK CONCERT				
⑥ ENTERTAINMENT Disco				
⑥ ENTERTAINMENT 6ch Stereo				—
⑥ ENTERTAINMENT Game				
⑦ CONCERT VIDEO				
⑧ TV THEATER				
⑨ MOVIE THEATER 1				
⑩ MOVIE THEATER 2				
⑪ DQ/DTS/AAC SURROUND Normal Enhanced				
⑪ PRO LOGIC II (2チャンネル音声(モノラル)が入力されている場合に、Movieを選択すると、センタースピーカーからのみ出力されます)			—	—
⑪ DTS Neo:6 (2チャンネル音声(モノラル)が入力されている場合に、Cinemaを選択すると、センタースピーカーからのみ出力されます)			—	—

ご注意

再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

音場プログラム名一覧表

音場プログラムの名前は、本機に入力されている音声信号の種類と本機内蔵デコーダーが動作しているかどうかによって、下表のように変わります。

表示例:

DTS音声を入力してDTSデコーダーを動作させているときに、MOVIE THEATER 2のAdventureプログラムを選ぶと、プログラム名は「DTS Adventure」と表示されます。

	アナログ、PCM ドルビーデジタル(2ch) DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
⑨ MOVIE THEATER 1				
Spectacle	70 mm Spectacle	Ⓔ.1/ES 表示消灯時		
		DGTL Spectacle	DTS Spectacle	AAC Spectacle
		Ⓔ.1/ES 表示点灯時		
		Spectacle 6.1	Spectacle ES	Spectacle 6.1
Sci-Fi	70 mm Sci-Fi	Ⓔ.1/ES 表示消灯時		
		DGTL Sci-Fi	DTS Sci-Fi	AAC Sci-Fi
		Ⓔ.1/ES 表示点灯時		
		Sci-Fi 6.1	Sci-Fi ES	Sci-Fi 6.1
⑩ MOVIE THEATER 2				
Adventure	70 mm Adventure	Ⓔ.1/ES 表示消灯時		
		DGTL Adventure	DTS Adventure	AAC Adventure
		Ⓔ.1/ES 表示点灯時		
		Adventure 6.1	Adventure ES	Adventure 6.1
General	70 mm General	Ⓔ.1/ES 表示消灯時		
		DGTL General	DTS General	AAC General
		Ⓔ.1/ES 表示点灯時		
		General 6.1	General ES	General 6.1
⑪ DD/DTS/AAC SURROUND				
Normal/Matrix6.1/ES	PRO LOGIC Normal	Ⓔ.1/ES 表示消灯時		
		DOLBY DIGITAL Normal	DTS DGTL SUR Normal	AAC DGTL SUR Normal
		Ⓔ.1/ES 表示点灯時		
		DOLBY DIGITAL Matrix 6.1	DTS DGTL SUR ES Matrix 6.1 (ESマトリクスデコーダー動作時)	AAC DGTL SUR Matrix 6.1
			DTS DGTL SUR ES Dscrt 6.1 (ESディスクリートデコーダー動作時)	
Enhanced	PRO LOGIC Enhanced	Ⓔ.1/ES 表示消灯時		
		DOLBY DIGITAL Enhanced	DTS DIGITAL SUR Enhanced	AAC DGTL SUR Enhanced
		Ⓔ.1/ES 表示点灯時		
		DOLBY DIGITAL Enhanced 6.1	DTS DIGITAL SUR Enhanced ES	AAC DGTL SUR Enhanced 6.1





セットメニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、以下のセットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

ヒント

- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。
- セットメニューはモニター画面を見ながら設定することをお勧めします。本体のディスプレイ表示でも設定できますが、モニター画面のほうが分かりやすく容易に設定できます。
- 本体ディスプレイには、オンスクリーン表示を簡略化したメニュー名が表示されます。

セットメニュー一覧

本機には、以下の項目のセットメニューが用意されています。

1 SPEAKER SET(26~29.50ページ)

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。設定するスピーカーの種類によって、以下のサブメニューが用意されています。

- 1A CENTER SP
- 1B MAIN SP
- 1C REAR L/R SP
- 1D REAR CT SP
- 1E LFE/BASS OUT
- 1F MAIN LEVEL

2 LOW FRQ TEST(50ページ)

スーパーウーファーと各スピーカーの音のつながりを周波数の低いテストトーンによってテスト(確認)します。

3 L/R BALANCE(51ページ)

メインスピーカーのL、Rの音量バランスを設定します。

4 HP TONE CTRL(51ページ)

ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

5 CENTER GEQ(51ページ)

センタースピーカーの音色を、メインL、Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。

6 INPUT RENAME(52ページ)

入力ソースの名前を変更します。

7 I/O ASSIGNMENT(52ページ)

使用する機器と本機のCOMPONENT VIDEO入力端子やDIGITAL INPUT/OUTPUT端子の設定(端子の機器名)が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てられます。

8 INPUT MODE(53ページ)

デジタルとアナログの両方の形式の再生機器を接続している場合などに、電源を入れたときの入力モードを選びます。

9 PARAM. INI(54ページ)

音場プログラムの設定値を、プログラムグループごとに初期設定値に戻します。

10 LFE LEVEL(54ページ)

ドルビーデジタルやDTS、AACでのLFE信号の再生レベルを設定します。

11 DYNAMIC RANGE(54ページ)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を選びます。

12 SP DELAY TIME(55ページ)

センタースピーカーとリアセンタースピーカーの音響遅延時間(ディレイタイム)を設定します。

13 DISPLAY SET(55ページ)

オンスクリーン表示の背景や表示位置、本体ディスプレイの明るさを調節します。

14 MEMORY GUARD(56ページ)

変更した設定値を、誤って変更できないように保護します。

15 DUAL MONO(56ページ)

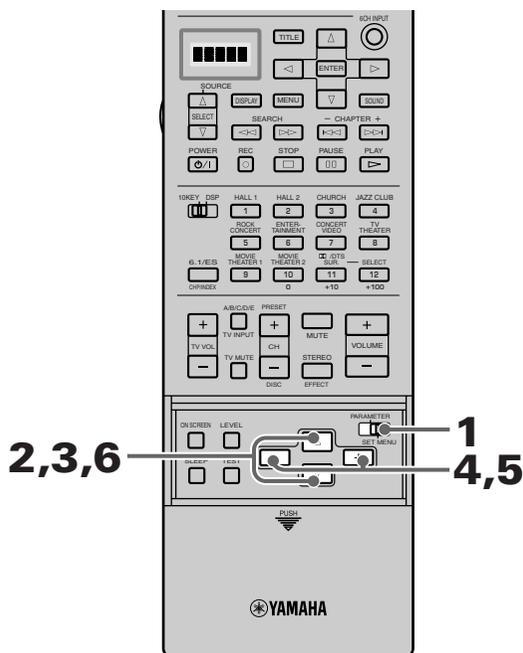
BSデジタル放送などで使われる、二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定します。

セットメニューの操作手順

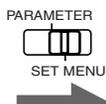
リモコンで操作します。

ご注意

項目によっては、さらに別な操作が必要となる場合があります。



1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「SET MENU」に合わせる。



2 ▲キーまたは▽キーを押す。

セットメニューが本機に接続されたモニター(テレビ)に表示されます。

SET MENU 1/4

- 1 SPEAKER SET
- 2 LOW FRQ TEST
- 3 L/R BALANCE
- 4 HPTONE CTRL
- ▲/▼ :Up/Down
- /+ Enter

3 ▲キーまたは▽キーを繰り返し押して、設定したいメニュー(1~15)を選ぶ。

SET MENU 1/4

- 1 SPEAKER SET
- 2 LOW FRQ TEST
- 3 L/R BALANCE
- 4 HPTONE CTRL
- ▲/▼ :Up/Down
- /+ Enter

4 -キーまたは+キーを押す。

選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定がモニター画面と本体ディスプレイに表示されます。

項目によっては▲キーまたは▽キーを押して、サブメニューを選びます。

2 LOW FRQ TEST

- TESTTONE OFF
- OUTPUT*MAIN L/R
- FRQ 88Hz

5 -キーまたは+キーを繰り返し押して、設定を変えます。

2 LOW FRQ TEST

- TESTTONE ON
- OUTPUT*MAIN L/R
- FRQ 88Hz

6 セットメニューを終了するときは、音場プログラム表示になるまで ▲キーまたは▽キーを繰り返し押すか、数字キーのどれかを押す。

ご注意

フロントパネルでも操作することができます。NEXTキーを繰り返し押して、変更したいメニューを表示させてから、SETMENU-/+キーを繰り返し押して設定を変えてください。



設定を変更する

システムにあわせて、スピーカーモードを設定する (1 SPEAKER SET)

「1 SPEAKER SET」(スピーカーセット)メニューで、お使いになるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定できます。

設定項目の内容について詳しくは、「スピーカーシステムにあわせて出力設定を変更する」(26~29ページ)をご覧ください。

スーパーウーファーの動作を確認する (2 LOW FRQ TEST)

「2 LOW FRQ TEST」(ローフリケンシーテスト)メニューで、スーパーウーファーの動作を確認したり、スーパーウーファーと各スピーカーの音のつながりを確認できます。リスニングポジションに座り、リモコンで操作してください。

ご注意

- 通常はこのメニューは使いません。
- ヘッドホン接続時は、このメニューを選ばません。

1 -キーまたは+キーを押して、TEST TONEをONに設定する。

テストトーンが出力されます。

2 VOLUME +/-キーを押して、音量を調節する。

ご注意

- 音量を上げ過ぎないようにご注意ください。
- テストトーンが聞こえない場合は、ボリュームを絞ってから本機をスタンバイ状態にして、スピーカーの接続を確認してください。

3 ▽キーを押してOUTPUTを選んでから-キーまたは+キーを押し、比較したいスピーカーを選ぶ。

SWFR選択時は、90Hz以上のテストトーンはハイカットフィルターでカットされます。テストトーンは選択したスピーカーから出力されなくなります。また、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定により、90Hzを境にテストトーン出力チャンネルが変わることがあります。

4 スーパーウーファーとの音のつながりがスムーズなことを確認するために、テストトーンを中心周波数を変える。

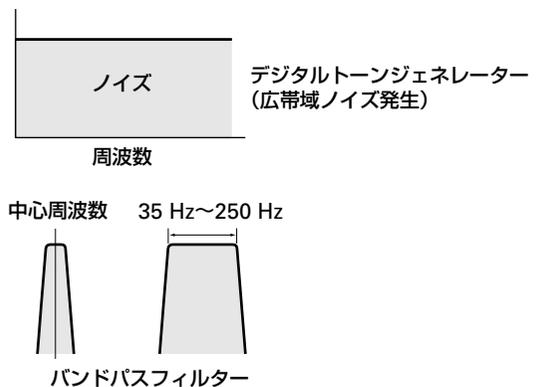
▽キーを押してFRQ(周波数)を選んでから-キーまたは+キーを押して、中心周波数(35~250Hz)または周波数帯域(35~250Hz)を選びます。

メインスピーカーの再生可能周波数の下限を目安に、周波数と帯域を設定してください。

5 スーパーウーファーの音量やハイカットフィルターを、スーパーウーファー側で調整する。

テストトーンについて

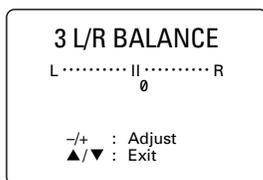
本機のテストトーンはトーンジェネレーターによって作り出しています。全帯域フラットな広帯域ノイズから、指定された周波数を中心とした帯域をバンドパスフィルターで切り出します。中心周波数は、35Hz→39Hz→44Hz→「1/6オクターブステップ」で変わります。スーパーウーファーのレベル調節だけでなく、リスニングルームの低域特性チェックにも応用できます。特に超低域ではリスニングポジションや、スピーカーの設置場所、スーパーウーファーの位相によって状態が大きく変わります。いろいろお試しください。



メインスピーカーの音量バランスを調整する (3 L/R BALANCE)

「3 L/R BALANCE」(レフト/ライトバランス)メニューで、メインスピーカーのL、Rの音量バランスを設定できます。設定した音量バランスは、ヘッドホン使用時にも反映されます。

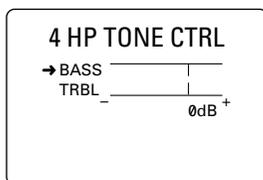
- **可変範囲:** L10~R10
- **初期設定:** 0
- **設定方法:** +キーを押すと左(L)のメインスピーカーの音が小さくなり、-キーを押すと右(R)のメインスピーカーの音が小さくなります。一方のチャンネルの音声だけを完全に消すことはできません。



ヘッドホンからの出力音声を調整する (4 HP TONE CTRL)

「4 HP TONE CTRL」(ヘッドホントーンコントロール)メニューで、ヘッドホンの低音域および高音域を調節できます。

- **可変範囲:** -6~+3(dB)
- **初期設定:** 0dB (低音域、高音域とも)
- **設定方法:** +キーを押すと低音域または高音域が大きくなります。-キーを押すと小さくなります。

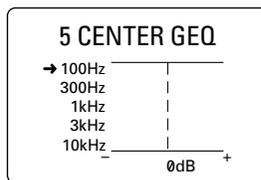


センタースピーカーの音色を調節する (5 CENTER GEQ)

「5 CENTER GEQ」(センターグラフィックイコライザー)メニューで、メインL、Rスピーカーの音色と合わせるために、センタースピーカーの音色をセンターチャンネルのグラフィックイコライザーで調節できます。100Hz、300Hz、1kHz、3kHzおよび10kHzの周波数が選べます。

- **可変範囲:** -6~+6(dB)
- **初期設定:** 0dB (5バンドとも)

1 高い周波数を調節したいときは ▽ キー、低い周波数を調節したいときは ▲ キーを押す。



2 -キーまたは+キーを押して、レベルを調節する。

ヒント

テストトーン使用時に、「CENTER GEQ」の調節を行うと、テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節できます。「CENTER GEQ」の手順を行う前にTESTキーを押します。モニター画面に「TEST DOLBY SUR.」が表示され、テストトーンが各々のスピーカーから順に出力されます。「CENTER GEQ」の操作を始めると、テストトーンの出力はセンタースピーカーに固定され、周波数を変えながら音声がどう変わっていくか試すことができます。

テストトーンを終了するには、TESTキーを押します。



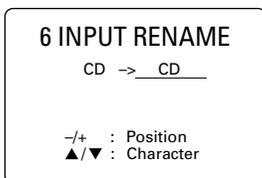
設定を変更する

入力ソースの名前を変更する (6 INPUT RENAME)

[6 INPUT RENAME](インプットリネーム)メニューで、入力ソースの名前を変更できます。変更後は、その名前で入力が表示されます。

1 入力選択キー(または本機前面のINPUT </>キー)を押して、変更したい名前を選ぶ。

2 -キーまたは+キーを押して、変更したい文字またはスペースに_(カーソル)を選ぶ。



3 ▲キーまたは▼キーを押して入力する文字を選んでから、-キーまたは+キーを押してカーソルを移動する。

- ▼キーを押すと次の順序で表示されます。▲キーを押すと逆の順序で表示されます。
A~Z→スペース→0~9→スペース→a~z→スペース→# * + , - . / : < > ? →スペース
- 最大8文字の名前を入力できます。

4 入力が終わったら8文字目にカーソルを移動してから、+キーを押す。

入出力端子の割り当てを変更する (7 I/O ASSIGNMENT)

[7 I/O ASSIGNMENT](インプット/アウトプットアサインメント)メニューで、使用する機器と本機のCOMPONENT VIDEO入力端子やDIGITAL INPUT/OUTPUT端子の設定(端子の機器名)が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てられます。使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合などに、端子の割り当てを変更することでより多くの機器を活用できるので便利です。

設定を変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選べるようになります。

ご注意

それぞれの項目(7A~7D)の中で、同一の端子名を指定することはできません。

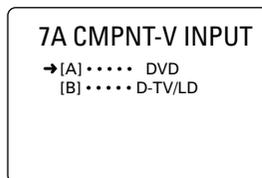
7A [A] [B] (COMPONENT VIDEO INPUT端子)

• 選択項目:

[A] DVD、V-AUX、VCR2/DVR、VCR1、CBL/SAT、D-TV/LD

[B] D-TV/LD、DVD、V-AUX、VCR2/DVR、VCR1、CBL/SAT

• 初期設定: [A] DVD、[B] D-TV/LD



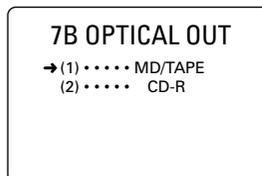
7B (1)(2)(OPTICAL OUTPUT端子)

• 選択項目:

(1) MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、V-AUX

(2) CD-R、CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR1、CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、V-AUX

• 初期設定: (1) MD/TAPE、(2) CD-R



7C (3)~(6)(OPTICAL INPUT端子)

• 選択項目:

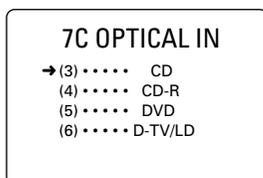
(3)CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR1、CBL/SAT、
D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R

(4)CD-R、CD、PHONO、VCR2/DVR、VCR1、CBL/
SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE

(5)DVD、MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、VCR2/
DVR、VCR1、CBL/SAT、D-TV/LD

(6)D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R、CD、
PHONO、VCR2/DVR、VCR1、CBL/SAT

• 初期設定:(3)CD、(4)CD-R、(5)DVD、(6)D-TV/ LD



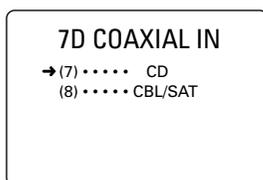
7D (7)(8)(COAXIAL INPUT端子)

• 選択項目:

(7)CD、PHONO、V-AUX、VCR2/DVR、VCR1、
CBL/SAT、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R

(8)CBL/SAT、CD、PHONO、V-AUX、VCR2/DVR、
VCR1、D-TV/LD、DVD、MD/TAPE、CD-R

• 初期設定:(7)CD、(8)CBL/SAT



電源を入れたときの入力モードを設定する (8 INPUT MODE)

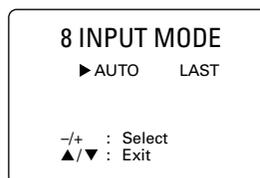
「8 INPUT MODE」(インプットモード)メニューで、デジタルとアナログの両方の形式の再生機器を接続している場合などに、電源を入れたときの入力モードを選べます(35ページ)。

• 初期設定:AUTO

• 選択項目:

– **AUTO**:最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モード設定が自動的に「AUTO」に設定されます。

– **LAST**:最後に操作したときの入力モードが、そのまま反映されます。



ご注意

「LAST」を選んでも、6.1/ESキーの設定は記憶されません(40ページ)。



設定を変更する

音場プログラムの設定値を初期化する (9 PARAM. INI)

「9 PARAM. INI」(パラメーターイニシャライズ)メニューで、音場プログラムの設定値を、プログラムグループごとに初期設定値に戻せます。



いったん初期設定値に戻してしまうと、初期化前の設定値に戻すことはできません。初期化したくないプログラムの設定値は、あらかじめメモを取るなどして、初期化後にもう1度設定し直してください。

数字キー(音場プログラムキー)を押す。

選んだ音場プログラムが初期設定値に戻ります。

ヒント

設定値が変更されている音場プログラムは、プログラム番号の前に「*」(アスタリスク)が表示されます。

ご注意

- 音場プログラムにサブプログラムがある場合でも、個別に初期設定値に戻すことはできません。
- 「*」が表示されていないプログラムを初期設定値に戻しても、何も変わりません。
- 「14 MEMORY GUARD」の設定(56ページ)がONの時は、初期化できません。

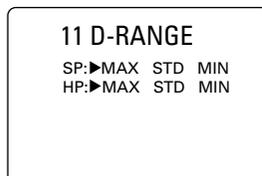
LFE信号の再生レベルを調節する (10 LFE LEVEL)

「10 LFE LEVEL」(ローフリクエンシーエフェクト・レベル)メニューで、ドルビーデジタルやDTS、AACでのLFE信号の再生レベルを設定できます。

設定項目の内容について詳しくは、「スピーカーシステムにあわせて出力設定を変更する」(26~29ページ)をご覧ください。

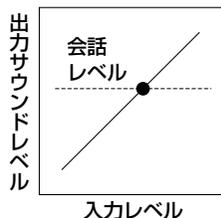
ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定する (11 DYNAMIC RANGE)

「11 DYNAMIC RANGE」(ダイナミックレンジ)メニューで、ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を3段階から選べます。

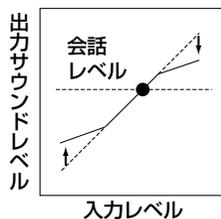


- 初期設定:(スピーカー、ヘッドホンともに)MAX
- 選択項目:

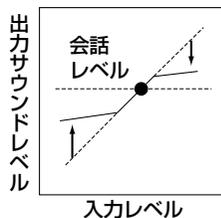
- MAX:信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。



- STD(STANDARD):ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。



- MIN:小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。



ご注意

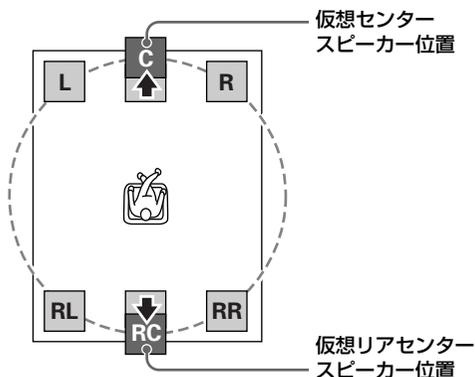
ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このようなときは、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

センタースピーカー及びリアセンタースピーカーのディレイタイムを設定する (12 SP DELAY TIME)

「12 SP DELAY TIME」(スピーカーディレイタイム)メニューで、センタースピーカーとリアセンタースピーカーの音響遅延時間(ディレイタイム)を設定できます。ドルビーデジタルやDTS、AAC再生時など、センタースピーカーとリアセンタースピーカーから音声を出力する場合に有効になります。



例えばフロント側のセンタースピーカーはL、Rスピーカーと同一線上に通常置きますが、本来ならば同時に音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーとリアセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと前後3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。



視聴位置からメインL、Rとセンタースピーカー、リアL、Rとリアセンタースピーカーの距離を測って、その差30cmごとに1ms増やすのが目安です。

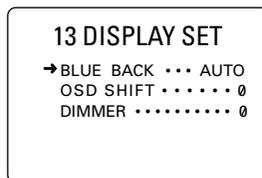
- 可変範囲: 0~5ms(センター)、0~30ms(リアセンター)
- 初期設定: 0ms(センター)、3ms(リアセンター)
- 設定方法: +キーを押すとスピーカーの仮想的な位置が遠くなります。

ヒント

目安として1ms増すとリスニングポジションから約30cm遠ざかったことになります。

オンスクリーン表示の設定を変更する (13 DISPLAY SET)

「13 DISPLAY SET」(ディスプレイセット)メニューで、オンスクリーン表示の背景や表示位置、本体ディスプレイの明るさを調節できます。



ブルーバック (BLUE BACK(ブルー画面設定))

オンスクリーン表示を設定します。

- 初期設定: AUTO
- 選択項目:
 - AUTO: ビデオ信号が入力されていない場合に、青い背景(ブルーバック)を表示します。
 - OFF: ビデオ信号が入力されていない場合に、何も表示しません。

ご注意

OFFにすると、ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示も表示されません。

OSD SHIFT(オンスクリーン表示位置)

オンスクリーン表示位置を上下に調整できます。

- 可変範囲: +5(下方)~-5(上方)
- 初期設定: 0
- 設定方法: +キーを押すと表示位置を下方方向に移動します。-キーを押すと上方方向に移動します。

DIMMER(明るさ)

本体ディスプレイの明るさを調節します。

- 可変範囲: -4~0
- 初期設定: 0
- 設定方法: -キーを押すと、本体ディスプレイが暗くなります。



設定を変更する

変更した設定値を保護する (14 MEMORY GUARD)

「14 MEMORY GUARD」(メモリーガード)メニューで、変更した設定値を、誤って変更できないように保護できます。



- 初期設定: OFF

ONにしたときに保護される設定は、以下の通りです。

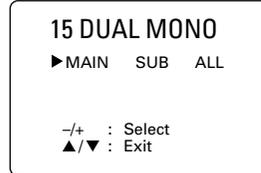
- 音場プログラムのパラメーター設定値
- MEMORY GUARD以外のセットメニュー設定値
- センター、リア、リアセンター、スーパーウーファ어의音量
- オンスクリーン表示の設定

ご注意

- 「14 MEMORY GUARD」をONにすると、他のセットメニューは呼び出せません。
- 「14 MEMORY GUARD」をONにすると、テストモードに入れません。

二重音声出力時の出力モードを変更する (15 DUAL MONO)

「15 DUAL MONO」(デュアルモノラル)メニューで、BSデジタル放送などで使われる、二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定できます。



- 初期設定: MAIN

• 選択項目:

- **MAIN**: 主音声のみをメインスピーカーL、Rから出力します。
- **SUB**: 副音声のみをメインスピーカーL、Rから出力します。
- **ALL**: 主音声と副音声をメインスピーカーL、Rからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のL、Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナー側の設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

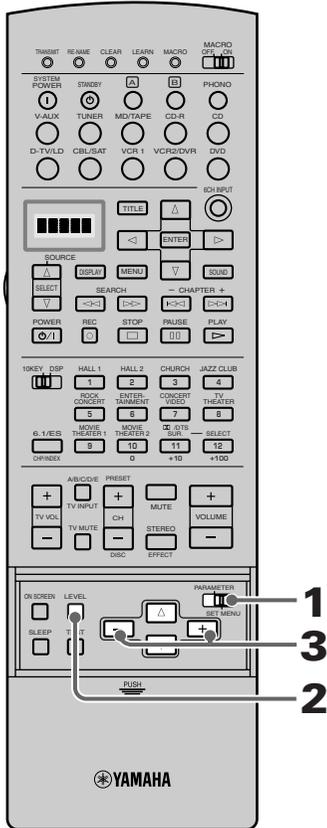
ご注意

- 二重音声ステレオ放送などの二重音声出力は、本機で設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタル、DTS信号の二重音声(デュアルモノ)信号およびAACの多重音声(マルチモノ)信号の受信時のみ、設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第3、第4チャンネルを選ぶことはできません。チューナー側で設定してください。詳しくはチューナーの取扱説明書をご覧ください。
- 地上波放送をはじめとした、アナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主/副を選んでください。

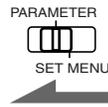
エフェクトスピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー(センター、リアR、リアセンター、リアL、スーパーウーファー)の音量を調節できます。

調節はリモコンで行います。



- 1 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる。



- 2 LEVELキーを押して、調節するスピーカーを選ぶ。

LEVELキーを押すごとに、以下の順に調節するスピーカーが切り替わります。

CENTER(センター)→R SUR.(リアR)→REAR CT(リアセンター)→L SUR.(リアL)→SWFR(スーパーウーファー)→CENTER(センター)→...

※ヒント

LEVELキーでレベル表示にすると、▽キーまたは△キーでもスピーカーを選べます。

- 3 -キーまたは+キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

- センターおよびリアL、R、リアセンタースピーカーの調節範囲は、+10～-10dBです。
- スーパーウーファーの調節範囲は、-20～0dBです。

ご注意

- セットメニューの「1A CENTER SP」および「1C REAR L/R SP」がNONEに、「1E LFE/BASS OUT」がMAINに設定されている場合は、そのスピーカーのレベルは調整できません。
- LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーレベルも変更されます。



設定を変更する



付属リモコンのはたらき

付属のリモコンを使って、本機以外のヤマハ製AV機器も操作できます。メーカーコード(各メーカー機器ごとに割り当てられた信号)を設定すれば、同様に他社製の機器を、本機付属のリモコンで操作できます。また、他社のリモコンの機能を付属のリモコンに学習(ラーニング)させて、他の機器を操作することもできます。

ヒント

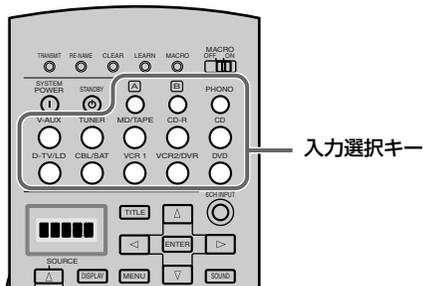
リモコンの準備や操作範囲については、「リモコンを準備する」(11ページ)、各部の名称とはたらきについては「各部の名称と働き」の「リモコン」(6~7ページ)をご覧ください。

ご注意

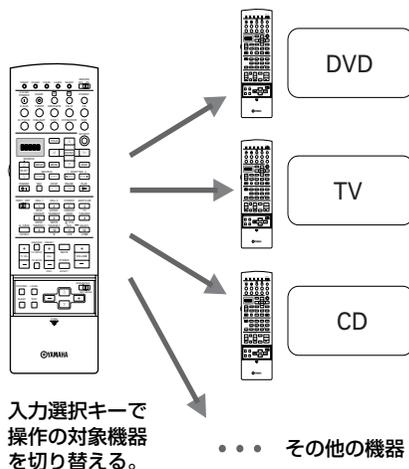
- リモコンの一般的な操作キーは、操作モードによって異なります。詳しくは「操作モード一覧」(63~70ページ)をご覧ください。
- 工場出荷時には一部の入力ソースにはヤマハのメーカーコードが設定されています(60ページ)。お持ちのヤマハ製AV機器を操作できない場合は、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。
- 付属のリモコンは、市販されている全てのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できないことがあります。いずれのメーカーコードでも動作しないときは、学習機能(61ページ)を利用するか、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- リモコンから乾電池を抜いたまま3分以上放置したり、消耗した乾電池がリモコンに入ったままになっていると、メモリーの内容が消去されることがあります。

入力選択キーで、入力ソースと操作する機器を切り替える

付属リモコンの入力選択キーを押すと、本機の入力ソースが切り替わります。選んだ機器名は、リモコンのディスプレイに表示されます(例: DVD)。



このとき、リモコンで操作できる機器も同時に切り替わります。そのため、入力選択キーを押すことによって、同じキーが異なる働きをすることになります。この機能を活用することで、お使いのシステムを本機のリモコンだけで操作することができるようになります。



ご注意

入力選択キーの名前は、本機の後面の端子名に対応しています。機器を接続した端子によっては、入力選択キーの名前とは異なる機器の音声再生されることがあります。

入力選択キーによって操作できる機器

工場出荷状態では、付属リモコンの入力選択キーを押すと、以下の機器を操作できるようになります。

ただし、下の表で入力選択キーに「*」がついているキーは、あらかじめ操作したい機器のメーカーコードを設定する必要があります。詳しくは「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。

入力選択キー	操作機器
[A]	LDプレーヤー (66ページ)
[B]*	衛星放送のチューナー (70ページ)
PHONO*	テレビ(64ページ)
V-AUX*	ビデオデッキ(67ページ)
TUNER	チューナー(69ページ)
MD/TAPE	MDプレーヤー/レコーダー (68ページ)
CD-R	CDレコーダー(68ページ)
CD	CDプレーヤー(68ページ)
D-TV/LD*	テレビ(64ページ)
CBL/SAT*	ケーブルテレビのチューナー (70ページ)
VCR1*	ビデオデッキ(67ページ)
VCR2/DVR*	ビデオデッキ(67ページ)
DVD	DVDプレーヤー(65ページ)

ご注意

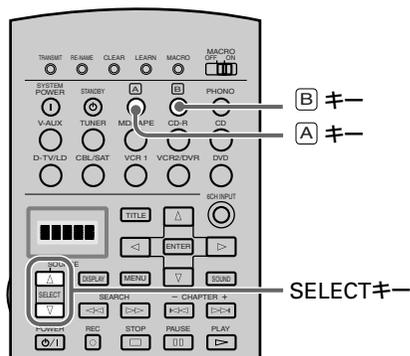
- 入力選択のキーごとに、操作できる機器の種類を変更することもできます(例:VCR2/DVRキーを押したときに、ビデオデッキではなくDVDプレーヤーを操作できるようにする)。詳しくは「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- ヤマハのMDレコーダーやDVDプレーヤーなどでは、モデルによって複数のリモコン信号を使い分けています。お持ちの機器によっては、メーカーコードを設定し直す必要があります。詳しくは「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- 工場出荷状態では、CBL/SATキーにはCABLEライブラリ、[B]キーにはSATライブラリが割り当てられています。BSデジタルチューナーを操作するには、あらかじめDBSライブラリを割り当てて、メーカーコードを設定する必要があります。詳しくは「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。

入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替える

SELECTキーを押すと、本機の入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンのディスプレイに表示されます。

例: DVDプレーヤーを再生している間にCDプレーヤーを使う

DVDプレーヤーを再生している間に入力選択キーのCDキーを押すと、入力ソースがCDに切り替わるため、DVDの映像と音声が途中で切れてしまいます。SELECTキーで「CD」を選ぶと、DVDのソフトを楽しみながらCDプレーヤーを操作できます。



また、[A]キーまたは[B]キーを押すと、本機を特定の入力ソースに切り替えることなく、[A]キー(または[B]キー)に割り当てた機器を付属リモコンで操作できます(工場出荷状態では、[A]キーにはLDプレーヤー、[B]キーには衛星放送のチューナーが割り当てられています)。

OPTN(オプション)モードについて

SELECT ▽キーを押して「OPTN」を選ぶと、ラーニング(学習)機能を使ってプリセットした機器を操作できます。

ご注意

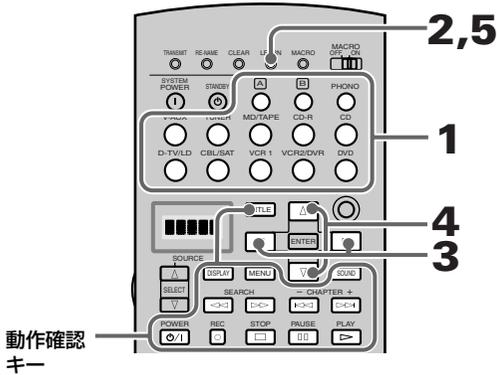
- SELECT △キーでは、「OPTN」を選べません。
- OPTNモードには、メーカーコードを登録できません。

付属リモコンを使いこなす

リモコンで操作できる機器を指定する

入力選択キーごとに、操作できる機器の種類(ライブラリ)と各メーカー機器ごとに割り当てられた信号(メーカーコード)を指定できます。

お使いのシステムにあわせて、ライブラリとメーカーコードを設定してください。



1 設定を変更したい入力選択キーを押す。

2 LEARNスイッチを3秒以上押す。



ボールペンの先などで押します。

選んだ機器名と「SETUP」が、リモコンのディスプレイに交互に表示されます。

3 ◀キーまたは▶キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリ)を表示させる。

付属のリモコンには、AMP、LD、DVD、CD、CD-R、MD、TAPE、TUNER、TV、VCR、DBS、(CABLE、SAT)の13種類のライブラリが用意されています。内蔵ライブラリは、全世界対応です。

アンプライブラリについて(L:AMP)

付属のリモコンにはあらかじめ本機を操作するためのコードが登録されていますが、必要に応じてアンプのライブラリを変更することもできます。

アンプのライブラリには、次の4種類があります。

- **YPC:**本機のコード
- **Zone2:**ヤマハDSPアンプのZONE2機能を操作するコード。本機では使用しません。
- **DSP:**YPC(本機のコード)で操作できない、他のヤマハDSPアンプのコード
- **No:**コードなし(ヤマハ以外のアンプを本リモコンで使いになりたいとき。)

4 △キーまたは▽キーを押して、操作したい機器のメーカー名(メーカーコード)を表示させる。

動作確認キーを押して、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。テレビの場合は、POWERやTITLE(TV INPUT)、その他の機器はPOWERやPLAYの各キーでの確認をおすすめします。なお、機器をリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの別のメーカーコードを設定してみてください。

5 LEARNスイッチを押す。

ライブラリとメーカーコードが登録されます。

ご注意

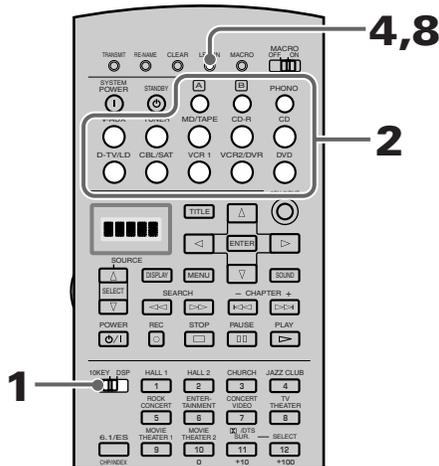
- 付属のリモコンは、市販されている全てのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できないことがあります。いずれのメーカーコードでも動作しないときは、他のリモコンから機能をラーニング(61ページ)するか、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- 1つの入力ソースには、1つのメーカーコードしか設定できません。
- CABLEライブラリとSATライブラリは、本機発売時点で国内で市販されている機器には対応していません。
- すでにラーニングまたはマクロ設定をしている場合は、ラーニング(61ページ)またはマクロ(72ページ)による機能が、メーカーコードの機能より優先します。
- 以下の場合は、リモコンのディスプレイに「ERROR」と表示されます。
 - 同時にいくつかのキーを押した場合。
 - 操作中にMACRO ON/OFFスイッチや10KEY/DSPスイッチ、PARAMETER/SET MENUスイッチを切り替えた場合。

工場出荷時のライブラリ/メーカーコード設定

入力選択キー	ライブラリ	メーカーコード
[A]	LD	YAMAHA
[B]	SAT	なし
PHONO	TV	なし
TUNER	TUNER	YAMAHA
MD/TAPE	MD	YAMAHA
CD-R	CD-R	YAMAHA
CD	CD	YAMAHA
D-TV/LD	TV	なし
CBL/SAT	CABLE	なし
V-AUX、VCR1、VCR2/DVR	VCR	なし
DVD	DVD	YAMAHA

新しいリモコン機能を学習する (ラーニング)

メーカーコードが対応していない機能を使いたいときや、操作したい機器のメーカーコードが用意されていない場合は、付属リモコンに機能を学習(ラーニング)させることができます(最大約120機能)。入力選択ごとに、別の機能をラーニングさせることができます。



1 10KEY/DSPスイッチを「10KEY」に合わせる。

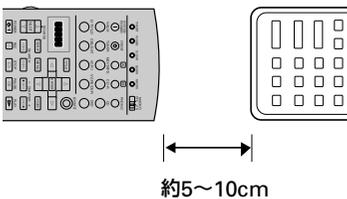


ご注意

10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせると、共通基本操作キー(63ページ)や入力選択キーにもラーニングすることができますが、本機の操作や音場プログラムの選択もできなくなります。

2 操作したい機器の入力選択キーを押す。

3 本機のリモコンと、もう一つのリモコンを約5~10cm離して、赤外線送受信部が互いに対向するように置く。



4 LEARNスイッチを押す。



ボールペンの先などで押します。

選んだ機器名と「LEARN」が、本機のリモコンのディスプレイに交互に表示されます。

ご注意

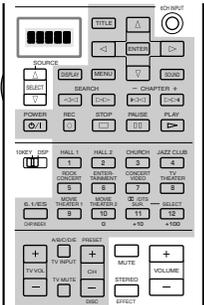
- この手順のあとに約30秒間操作を行わないと、ラーニングモードがキャンセルされます。この場合は、もう1度手順4から操作をやり直してください。
- LEARNスイッチを3秒以上押すと、メーカーコードとライブラリの設定(60ページ)の操作モードに切り替わってしまいます。

5 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す。

本機のリモコンのディスプレイに、「LEARN」と表示されます。

ラーニングに対応しているキーについて

入力選択キーごとに学習可能なキーは、右図で■色で示されているキーです。



次のページにつづく

付属リモコンを使いこなす

- 6** 本機のリモコンのディスプレイに「OK」と表示されるまで、もう一つのリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押す。

ご注意

- ラーニングに失敗すると「NG」と表示されます。手順5から操作をやり直してください。
- メモリーがいっぱいになると、リモコンのディスプレイに「FULL」と表示され、他の機能をラーニングできなくなります。既にラーニングされた機能のうち不要なものを消去してください。
- ラーニングした信号の種類によっては、120種類以前にメモリーがいっぱいになり、「FULL」と表示されることがあります。
- この手順のあとに約30秒間操作を行わないと、ラーニングが終了します。

- 7** 別の機能をラーニングするには、続けて手順5～6を繰り返す。

- 8** ラーニングが終了したら、もう1度LEARNスイッチを押す。

リモコンが通常の状態に戻ります。

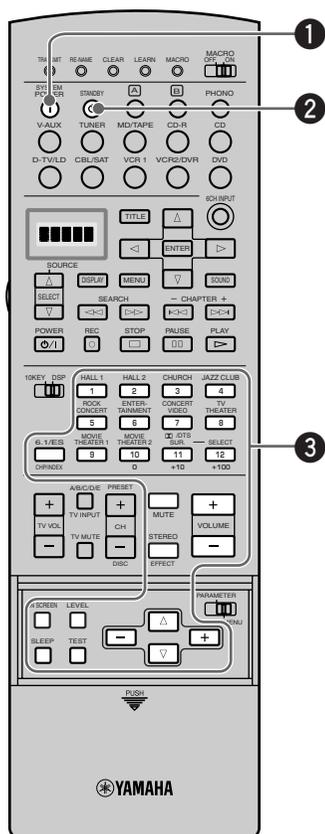
ご注意

- 以下の場合には、ラーニングできないことがあります。
 - 外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合。操作（リモートコントロール）信号を送るのに十分な電力をもっている場合でも、ラーニングのための信号を送るには電力が不足していることがあります。
 - 2台のリモコンが互いに接近しすぎているか、遠く離れすぎている場合。
 - リモコンの受光部の角度が適切でない場合。
 - リモコンに直射日光が当たっている場合。
 - ラーニングしたいリモコンの赤外線受光部の位置によっては、同じ平面上に置くと、正しくラーニングできないことがあります。うまく学習できない場合は、リモコンの位置を上下にずらしてから、ラーニングしてみてください。
 - 特殊な信号や連続した信号の場合。
- 以下の場合には、リモコンのディスプレイに「ERROR」と表示されます。
 - 同時にいくつかのキーを押した場合。
 - ラーニング操作中にMACRO ON/OFFスイッチや10KEY/DSPスイッチ、PARAMETER/SET MENUスイッチを切り換えた場合。

操作モード一覧

各操作モードの共通基本操作キー

入力選択キーの操作や、リモコンのディスプレイに表示されている入力ソースに関係なく、本機を次のキーで操作できます。



本機を操作する

- ① 電源を入れる。
- ② スタンバイ状態にする。
- ③ 音場プログラムを選ぶ場合には、あらかじめ10KEY/DSPスイッチをDSPに合わせてください。なお、各キーの説明については「リモコン」(6～7ページ)をご覧ください。



付属リモコンを使用します

テレビを操作する

メーカーコードを設定(60ページ)してから**①**PHONOキーまたは**①**D-TV/LDキー(工場出荷時のライブラリ)を押すと、テレビを操作できます。

ご注意

- あらかじめメーカーコードを設定しておく必要があります。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- ビデオデッキの操作をするには、あらかじめVCR1にビデオデッキのメーカーコードを設定しておく必要があります。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。
- PHONOキーまたはD-TV/LDキーにそれぞれ異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードではD-TV/LDキーで設定したテレビのみ操作できます。

操作例

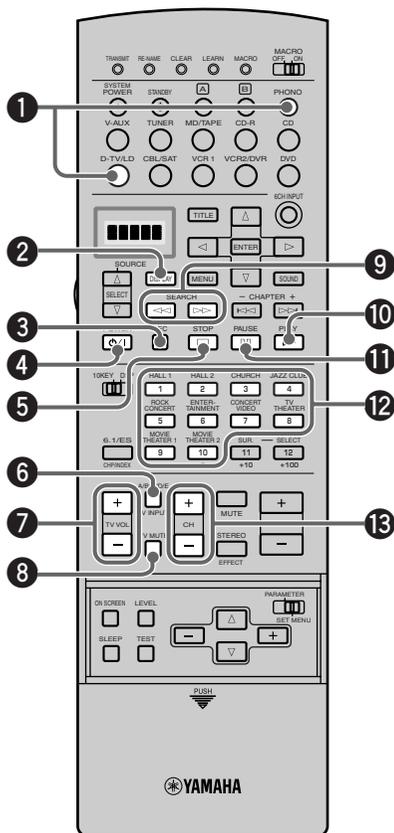
お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

- ① テレビを操作できるようにする。
- ② テレビのディスプレイ表示を切り替える。
- ④ 電源を入/切する。
- ⑥ 入力を切り替える。
- ⑦ 音量を調節する。
- ⑧ 音声を消音する。
- ⑫ チャンネルを直接指定する。
- ⑬ チャンネルを切り替える。

ビデオデッキを操作する

ビデオデッキの電源の入/切は、「ビデオデッキなどを操作する」(67ページ)をご覧ください。

- ③ 録画を開始する。
- ⑤ 録画/再生を停止する。
- ⑨ 早送り/巻き戻しをする。
- ⑩ 再生を開始する。
- ⑪ 録画/再生を一時停止する。

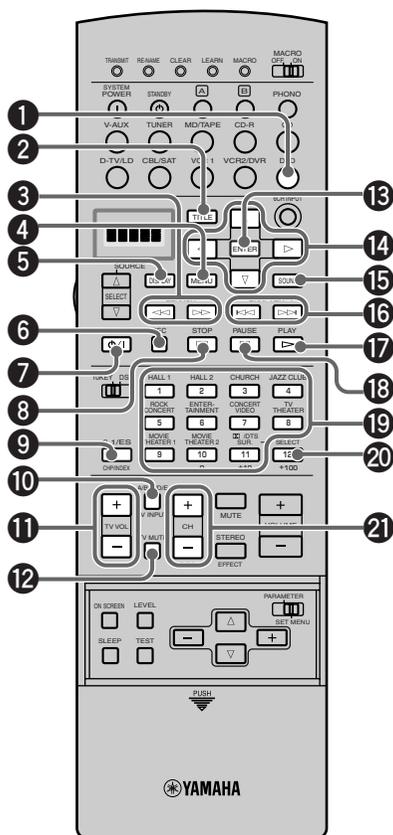


DVDプレーヤーを操作する

工場出荷時のライブラリでは、①DVDキーを押すと、DVDプレーヤーを操作できます。

ご注意

- 工場出荷状態では、ヤマハ製DVDプレーヤーにメーカーコードが設定されています。他社製のDVDプレーヤーをお使いの場合は、メーカーコードを変更する必要があります。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。
- テレビの操作を行うには、あらかじめPHONOキーまたはD-TV/LDキーにメーカーコードを設定しておく必要があります。なお、それぞれのキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードではD-TV/LDキーで設定したテレビのみ操作できます。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。



操作例

お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

- ① DVDプレーヤーを操作できるようにする。
- ② タイトルメニューを表示する。
- ③ 早送り／早戻しする。
- ④ DVDメニューを表示する。
- ⑤ タイトルを表示する。
- ⑥ 前の画面に戻る。
- ⑦ 電源を入／切する。
- ⑧ 再生を停止する。
- ⑨ タイトル／インデックスを表示する。
- ⑩ メニュー画面で選んだ項目を決定する。
- ⑪ メニュー画面で項目を選ぶ。
- ⑫ オーディオメニューを表示する。
- ⑬ 次／前のチャプターを頭出しする。
- ⑭ 再生を開始する。
- ⑮ 再生を一時停止する。
- ⑯ 数字を入力する。
- ⑰ 入力値を取り消す。
- ⑱ 再生するディスクを選ぶ(DVDチェンジャーの場合)。

テレビを操作する

テレビの電源の入／切は、「テレビを操作する」(64ページ)をご覧ください。

- ⑩ 入力を切り替える。
- ⑪ 音量を調節する。
- ⑫ 音声を消音する。



付属リモコンを使いこなす

LDプレーヤーを操作する

工場出荷時のライブラリでは、① **[A]** キーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

ご注意

- 工場出荷状態では、ヤマハ製LDプレーヤーにメーカーコードが設定されています。他社製のLDプレーヤーをお使いの場合は、メーカーコードを変更する必要があります。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。
- テレビの操作を行うには、あらかじめPHONOキーまたはD-TV/LDキーにメーカーコードを設定しておく必要があります。なお、それぞれのキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードではD-TV/LDキーで設定したテレビのみ操作できます。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。

操作例

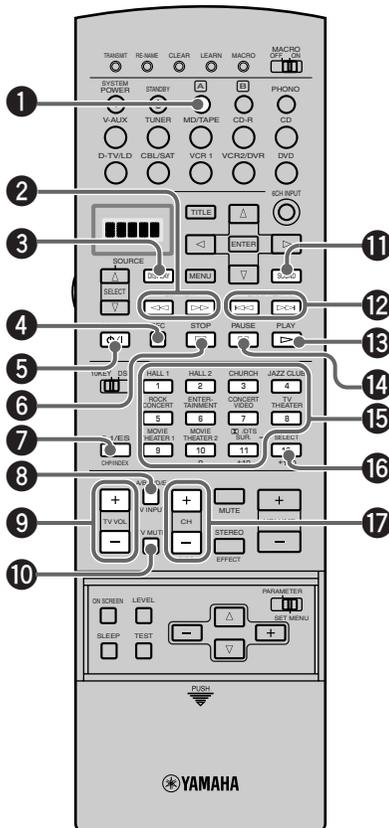
お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

- LDプレーヤーを操作できるようにする。
- 早送り／早戻しする。
- 時間を表示する。
- 再生するディスクを選ぶ(LDチェンジャーの場合)。
- 電源を入／切する。
- 再生を停止する。
- チャプター／時間を表示する。
- サウンドメニューを表示する。
- 次／前のチャプターを頭出しする。
- 再生を開始する。
- 再生を一時停止する。
- 数字を入力する。
- 入力値を取り消す。

テレビを操作する

テレビの電源の入／切は、「テレビを操作する」(64ページ)をご覧ください。

- 入力を切り替える。
- 音量を調節する。
- 音声を消音する。
- チャンネルを切り替える。

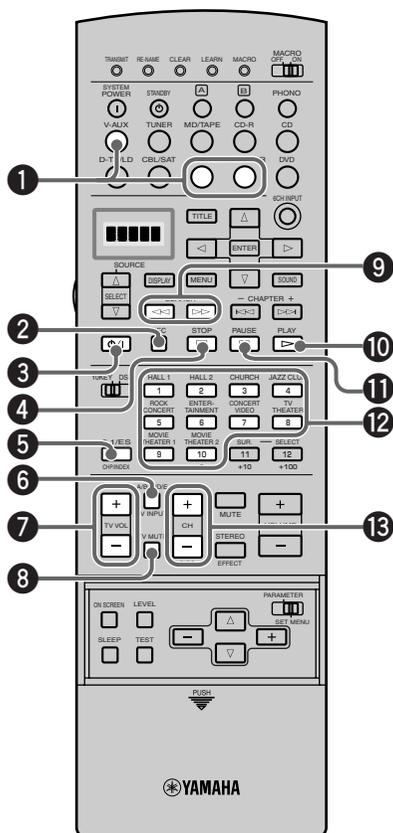


ビデオデッキなどを操作する

メーカーコードを設定(60ページ)してから**①**V-AUXキーまたはVCR1キー、VCR2/DVRキー(工場出荷時のライブラリ)を押すと、ビデオデッキを操作できます。

ご注意

- あらかじめメーカーコードを設定しておく必要があります。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。
- テレビの操作を行うには、あらかじめPHONOキーまたはD-TV/LDキーにメーカーコードを設定しておく必要があります。なお、それぞれのキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードではD-TV/LDキーで設定したテレビのみ操作できます。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。



操作例

お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

- ① ビデオデッキを操作できるようにする。
- ② 録画を開始する(2回押すと録音が始まります)。
- ③ 電源を入/切する。
- ④ 再生/録画を停止する。
- ⑤ メニュー画面などで選んだ項目を決定する。
- ⑨ 早送り/早戻しする。
- ⑩ 再生を開始する。
- ⑪ 再生/録画を一時停止する。
- ⑫ 数字を入力する。

テレビを操作する

テレビの電源の入/切は、「テレビを操作する」(64ページ)をご覧ください。

- ⑥ 入力を切り替える。
- ⑦ 音量を調節する。
- ⑧ 音声を消音する。
- ⑬ チャンネルを切り替える。

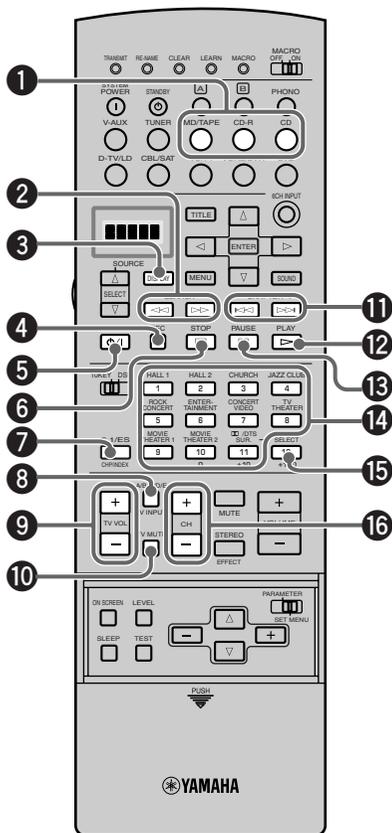


付属リモコンを使いこなす

CDプレーヤー／MDレコーダーなどを操作する

工場出荷時のライブラリでは、以下のキーを押すとCDプレーヤー／MDレコーダーなどを操作できます。

- CDプレーヤー：①CDキー
- MDレコーダー：①MD/TAPEキー
- CDレコーダー：①CD-Rキー



ヒント

ヤマハのCDプレーヤー(工場出荷時)の場合は、 または キーを1度押すと、一時停止となります。もう1度押すと、停止となります。

ご注意

- 工場出荷状態では、ヤマハ製機器用にメーカーコードが設定されています。他社製の機器をお使いの場合は、メーカーコードを変更する必要があります。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。
- テレビの操作を行うには、あらかじめPHONOキーまたはD-TV/LDキーにメーカーコードを設定しておく必要があります。なお、それぞれのキーに異なるテレビのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードではD-TV/LDキーで設定したテレビのみ操作できます。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。

操作例

お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

- ① CDプレーヤー／MDレコーダーなどを操作できるようにする。
- ② 早送り／早戻しする。
- ③ 時間／タイトルを表示する。
- ④ 録音を開始する(MDレコーダーの場合)
- ⑤ 電源を入／切する。
- ⑥ 再生を停止する。
- ⑦ インデックスを表示する。
- ⑧ 次／前の曲を頭出しする。
- ⑨ 再生を開始する。
- ⑩ 再生を一時停止する。
- ⑪ 数字を入力する。
- ⑫ 入力値を取り消す。
- ⑬ 再生するディスクを選ぶ(CDチェンジャーの場合)。

テレビを操作する

テレビの電源の入／切は、「テレビを操作する」(64ページ)をご覧ください。

- ⑧ 入力を切り替える。
- ⑨ 音量を調節する。
- ⑩ 音声を消音する。

チューナーを操作する

メーカーコードを設定(60ページ)してから**①**TUNERキー(工場出荷時のライブラリ)を押すと、チューナーを操作できます。

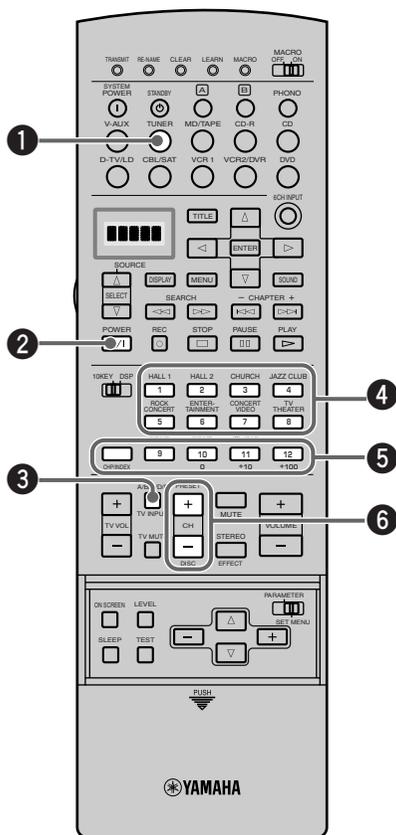
ご注意

- 工場出荷状態では、ヤマハ製チューナーのメーカーコードが設定されています。他社製のチューナーをお使いの場合は、メーカーコードを変更する必要があります。「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

操作例

お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

- ① チューナーを操作できるようにする。
- ② 電源を入/切する。
- ③ プリセットグループや受信バンド(AM/FM)を切り替える。
- ④ プリセット番号を直接指定して聴く。
- ⑤ プリセットグループを直接指定する(左から順にA、B、C、D、E)。
- ⑥ 登録した局を切り替える。



付属リモコンを使用しなす

衛星放送のチューナーを操作する

メーカーコードを設定(60ページ)してから①CBL/SATキーもしくは、**[B]** キー(工場出荷時のライブラリ)を押すと、BSデジタルチューナーを操作できます。

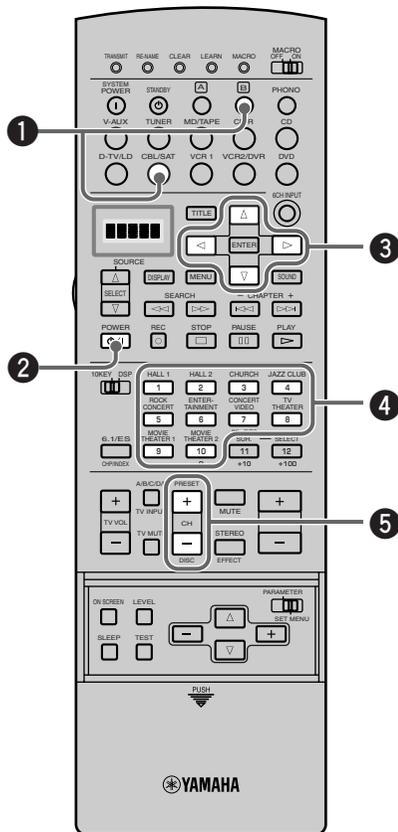
ご注意

- 工場出荷状態では、CBL/SATキーにはCABLEライブラリ、**[B]** キーにはSATライブラリが割り当てられています。BSデジタルチューナーを操作するには、あらかじめDBSライブラリを割り当てて、メーカーコードを設定する必要があります。詳しくは「リモコンで操作できる機器を指定する」(60ページ)をご覧ください。
- 国内BSデジタルチューナー用メーカーコードは、DBSライブラリの以下の3種類です。
 - Panasonic 2
 - Sony 2
 - Toshiba 2
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはラーニングするか、もしくはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

操作例

お手持ちの機器によっては、キーと操作が本書の説明と一致しないことがあります。

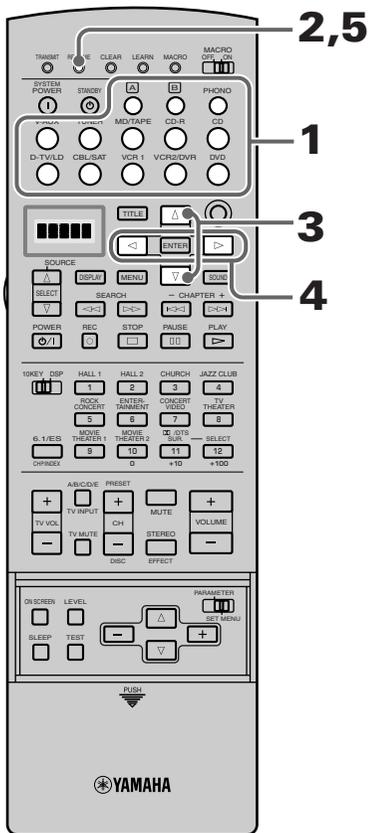
- BSデジタルチューナーを操作できるようにする。
- 電源を入/切する。
- メニューを選択/決定する。
- チャンネルを直接指定する。
- チャンネルを切り替える。



リモコンに表示される入力ソース名を変更する

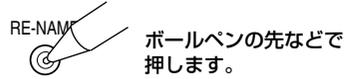
入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と入力機器をあわせて接続していない場合は、入力ソース名と再生される音声が異なります。(例:CDプレーヤーをMD入力端子に接続すると、入力ソースとして「MD」を選んだときにCDプレーヤーの音声が出力されます。)

このように端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される入力ソース名を変更することができます。



1 入力ソース名を変更したい機器の入力選択キーを押す。

2 RE-NAMEスイッチを押す。



3 Δ キーまたは ∇ キーを何回か押して、入力したい文字を選ぶ。

選べる文字はアルファベット大文字と小文字、数字、スペース、-、/です。

4 \triangleleft キーまたは \triangleright キーを何回か押して、文字を入力したい場所を指定する。

必要にあわせて、手順3~4を繰り返します。

☀️ ヒント

続けて他の入力ソース名を変更したいときは、ENTERキーを押してから、手順1、3~4を繰り返します。

5 RE-NAMEスイッチを押す。

リモコンが通常の状態に戻ります。



付属リモコンを使いこなす

マクロ機能を使う

マクロ機能とは？

ソースを再生するときに行う一連のキー操作を一つのキー操作でできるようにする機能です。

例えばCDを再生する場合、以下のような操作が必要です。

- ① システムの電源を入れる。
- ② 入力ソースをCDに切り替える。
- ③ 再生を始める。

マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけで、このような一連の操作を済ませることができるようになります。

工場出荷時には、付属のリモコンのマクロキー(すべての入力選択キーおよび[A] キー、[B] キー、SYSTEM POWERキー、STANDBYキー)には、マクロ機能があらかじめ下表のように登録されています。また、マクロキーにはオリジナルのマクロ操作を設定することもできます(73~74ページ)。

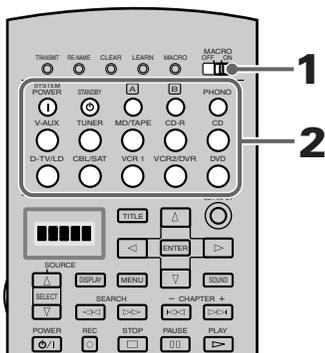
マクロキー	1番目	2番目	3番目
PHONO		入力ソース切り替え(PHONO)	—
V-AUX		入力ソース切り替え(V-AUX)	—
TUNER		入力ソース切り替え(TUNER)	—
MD/TAPE		入力ソース切り替え(MD/TAPE)	MD/TAPEの再生が始まる。 ³⁾
CD-R		入力ソース切り替え(CD-R)	CD-Rの再生が始まる。 ³⁾
CD		入力ソース切り替え(CD)	CDの再生が始まる。 ³⁾
D-TV/LD	本機の電源が入る (接続した機器の 電源が入る)。 ¹⁾	入力ソース切り替え(D-TV/LD)	—
CBL/SAT		入力ソース切り替え(CBL/SAT)	—
VCR1		入力ソース切り替え(VCR1)	VCR1の再生が始まる。 ³⁾
VCR2/DVR		入力ソース切り替え(VCR2/DVR)	VCR2/DVRの再生が始まる。 ³⁾
DVD		入力ソース切り替え(DVD)	DVDの再生が始まる。 ³⁾
[A]		—	—
[B]		—	—
SYSTEM POWER		テレビの電源が入る。 ²⁾ (D-TV/LDキーに登録したメーカー コードのテレビ)	—
STANDBY	本機がスタンバイ 状態になる。	—	—

¹⁾ 接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本機のSWITCHED AC OUTLETSに接続し、電源の入/切を本機に同期させるようにします(機器によっては電源の入/切が本機に同期しないものもあります。接続する機器の取扱説明書をご覧ください)。

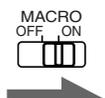
²⁾ キーを押すごとに電源の入/切が切り換わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります(例:すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWERキーを押すと電源が切れます)。

³⁾ 再生が始まるのは、ヤマハのリモコンに対応するMDレコーダー、CDプレーヤー、CDレコーダー、DVDプレーヤーです。他の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリのPLAYキーにラーニングで機能を割り当てる(61ページ)か、メーカーコードやライブラリを登録する必要があります(60ページ)。

マクロ機能を使う



- 1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる。



- 2 希望のマクロキーを押す。

ご注意

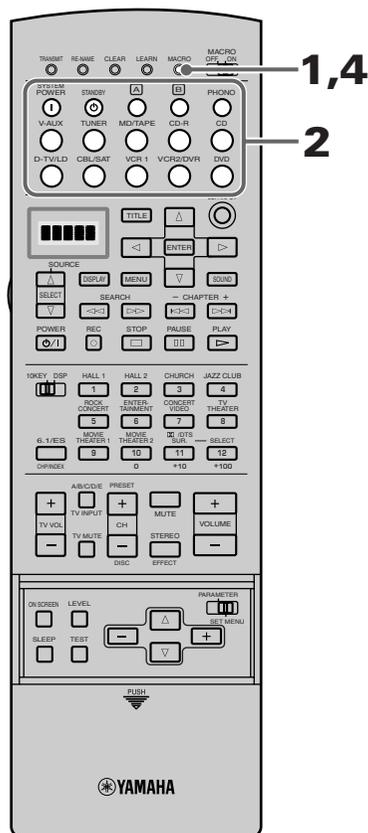
- マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせてください。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、(TRASMITインジケータが消灯するまで)他のキーの操作を受け付けません。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの送受信窓を本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

好みのマクロを登録する

オリジナルのマクロを設定することができます。

ご注意

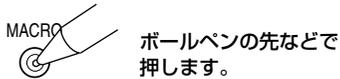
- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロが有効になります。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロ設定をすると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンのラーニングや登録済み(またはヤマハプリセット)のキー信号をマクロキーに設定(転送)させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。



付属リモコンを使いこなす

次のページにつづく

1 ボールペンの先などで、MACROスイッチを押す。



本機のリモコンのディスプレイに、「MCR ?」と表示されます。

ご注意

手順2と3の操作中、30秒間何もキーを押さないと自動的にマクロ設定モードは解除されます。その場合は、もう1度MACROスイッチを押します。

2 設定したいマクロキーを押す。

マクロ設定するキーと今選んでいる機器名が交互に表示されます。

例：DVDキーのマクロを設定する

「M: DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

ご注意

- マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。
- 機器を変更したいときは、入力選択キーやSELECTキーで機器を選び直します。入力選択キーで機器を選ぶと、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り換わります。SELECTキーで機器を選んだ場合は、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選んだ機器に合わせて切り替わります。

3 マクロの内容を設定する。

最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、自動的にマクロ設定モードが解除されません。

例：DVDキーのマクロを設定する

DVDキーのマクロとして登録したいキーを押すと、「MCR: (番号)」とキー信号の番号がリモコンのディスプレイに表示され、しばらくすると「M: DVD」と「DVD」が交互に表示され、次のキーを登録できるようになります。

ご注意

登録に失敗すると、「NG」と表示されます。手順2から操作をやり直してください。

4 マクロ設定を終えるときは、MACROスイッチを押す。

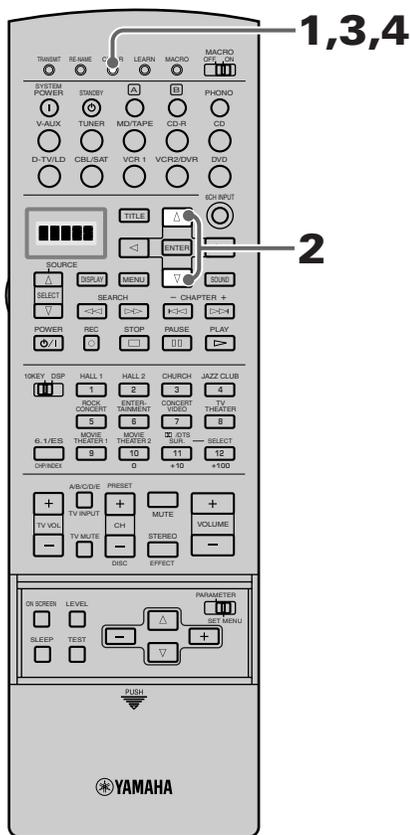
ご注意

以下の場合は、表示窓に「ERROR」と表示されます。

- 同時にいくつかのキーを押した場合
- 操作中にMACRO ON/OFFスイッチを切り換えた場合

ラーニングやマクロを取り消す／リモコンを初期化する

登録したライブラリやマクロ操作、メーカーコード、ラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。



1 CLEARスイッチを押す。



ボールペンの先などで押します。

リモコンのディスプレイに、「CLEAR」と表示されます。

2 Δ キーまたは ∇ キーを押して、取り消したい設定の種類を選ぶ。

- **L:(入力機器名)**:あらかじめ入力選択キーで指定した入力機器について、ラーニングしたすべての機能を取り消します。
- **L:AMP**:61ページの手順1で10KEY/DSPスイッチを「DSP」に合わせた状態でラーニングした、すべての機能を取り消します。
- **L:ALL**:入力機器に関わらず、ラーニングで登録したすべての機能を取り消します。
- **M:ALL**:入力機器に関わらず、マクロで登録したすべての機能を取り消します。
- **RNAME**:リモコンのディスプレイに表示される機器名を、工場出荷時の設定に戻します。
- **FCTRY**:リモコンのメーカーコードの設定を含む、すべての設定を取り消します。この操作を行うと、本機のリモコンは工場出荷時と同じ状態になります。

3 CLEARスイッチを3秒以上押す。

本機のリモコンのディスプレイに、「C:OK」と表示され、手順2で選んだ機能や設定が取り消し／初期化されます。

ご注意

「C:NG」と表示されたときは、取り消し／初期化が正しく行われていません。手順2の操作をやり直してください。

4 CLEARスイッチを押す。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

以下の場合、リモコンのディスプレイに「ERROR」と表示されます。

- カーソルキーまたはENTERキー以外のキーを押した場合。
- 同時にいくつかのキーを押した場合。
- 操作中にMACRO ON/OFFスイッチや10KEY/DSPスイッチ、PARAMETER/SET MENUスイッチを切り換えた場合。

次のページにつづく



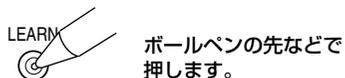
付属リモコンを使用してください

特定のキーの機能だけを取り消す

ラーニングさせた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを取り消すこともできます。

1 取り消したい機器の入力選択キーを押す。

2 ボールペンの先などで、LEARNスイッチを押す。



本機のリモコンのディスプレイに、「LEARN」と表示されます。

3 CLEARスイッチを押しながら、機能を取り消したいキーを3秒間以上押し続ける。

本機のリモコンのディスプレイに、「C:OK」と表示されます。

4 LEARNスイッチを押す。

リモコンが通常の状態に戻ります。

💡 ヒント

消去したいキーが複数あるときは、CLEARボタンを再度押し続けながら、消去したいキーを押します。

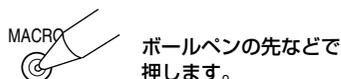
⚠️ ご注意

消去に失敗すると「C:NG」と表示されます。もう1度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

マクロ機能を取り消す

登録したマクロ機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを取り消すこともできます。

1 ボールペンの先などで、MACROスイッチを押す。



本機のリモコンのディスプレイに、「MCR ?」と表示されます。

2 CLEARスイッチを押しながら、機能を取り消したいキーを3秒間以上押し続ける。

本機のリモコンのディスプレイに、「C:OK」と表示されます。

3 MACROスイッチを押す。

リモコンが通常の状態に戻ります。

💡 ヒント

消去したいキーが複数あるときは、CLEARボタンを再度押し続けながら、消去したいキーを押します。

⚠️ ご注意

消去に失敗すると「C:NG」と表示されます。もう1度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

音場プログラムの設定を変更する

音場の調整をする際には、音場の仕組みを十分ご理解のうえ調整してください。

ご注意

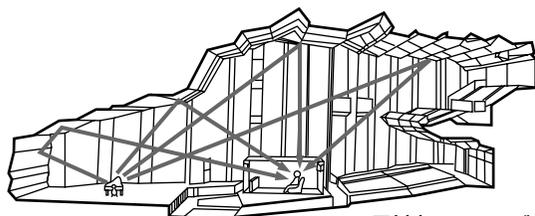
音場を構成する各設定値は相互に関係があります。特定の設定値のみを極端な数値に設定すると、音場のバランスがくずれて、不自然な音になることがあります。

音場とは

生の楽器の豊かで優美な音色を実際に作り出すのは、室内の壁から発せられる数多くの反射音です。こうした反射音は音を生き生きとさせるだけでなく、演奏者のいるステージや、観客席を含めた演奏会場そのものの規模や形状をも伝えてくれます。

音場の構成要素

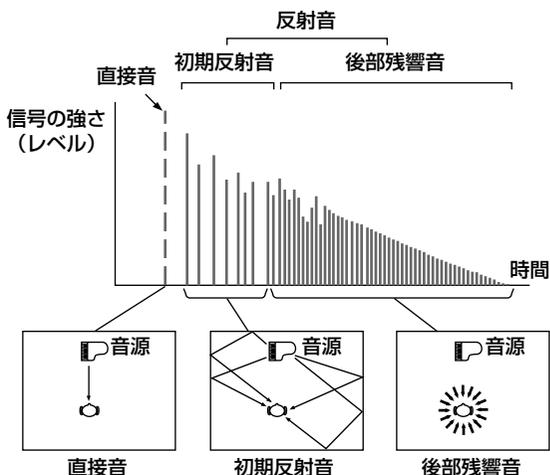
音場を構成する要素として、楽器が奏でる音が直接伝わってくる直接音と、周囲の物体に反射してくる2種類の反射音があります。



反射音のイメージ

- 初期反射音**: 1つの表面のみに(例えば、天井や壁に)反射してから、極めて急速(直接音が発生してから50msから100ms後)にリスナーの耳に到達する反射音です。これらの反射音は特定の環境の場合に、このページ右側の図に示すような固有のパターンに分類されます。初期反射音によって直接音に明瞭さが付加されます。
- 後部残響音**: 2つ以上の表面(例えば、壁、天井、部屋の後部)で何度も反射を繰り返しながら、多数の反射音がひとまとめになって連続した音響の余韻が残ります。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。



リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができるわけです。リスニングルームをコンサートホール、ライブハウス、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。

音場プログラムの設定を変更する

音場プログラムの設定値とは？

音場プログラムは、演奏会場や劇場の規模、残響時間、リスナーから演奏者までの距離などを判断するための設定値(パラメーター)で構成されています。各プログラムは、プログラム固有の音場を作り出すためにヤマハによって正確に計算された数値を用いて設定されています。設定値を変更せずに音場プログラムを使用することをお勧めしますが、本機を使用すれば独自の音場を作り出すこともできます。まずは内蔵プログラムの1つを手始めに、これらの設定値を調整してみるとよいでしょう。

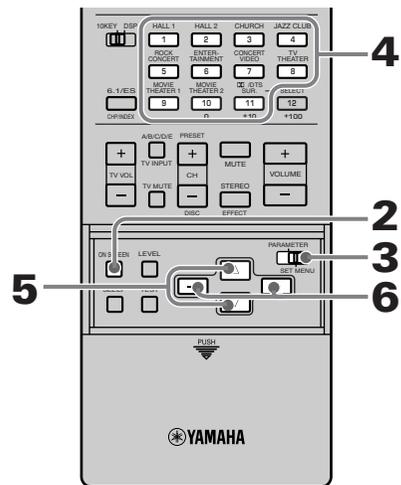
各音場プログラムの設定値を変更することで音響環境の特性を変更し、好みの効果を正確に作り出すことができます。これらの設定値は、実際のコンサートホールをはじめとした演奏会場における音場を再現する数多くの自然音響要因に対応しています。例えば、リスニングルームの大きさは初期反射音間の時間の長さに影響します。音場プログラムの多くに設定されている「ROOM SIZE(ルームサイズ)」設定値はこれらの反射音間のタイミングを変更し、結果的に音声を再生する「ルーム」の形状を変える効果があります。ルームサイズのほかに、リスニングルームの形状や表面の特性も、最終的に再生される音声に重大な影響を与えます。例えば、音を吸収する表面は反射音や残響音をより速く減衰させます。また、反射性の高い表面は反射音がより長時間持続されます。このようにデジタル音場の設定値に関するこれらの要因を調整することで、気分や好みの音楽にぴったり合った、自分だけのリスニング環境を実現できます。詳しくは「デジタル音場設定項目一覧」(79～83ページ)をご覧ください。

設定値を変更する

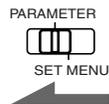
それぞれの音場プログラムは、初期設定値のままでも十分お楽しみいただけますが、設定値を変更することでソースや部屋の音響に合わせて音場プログラムを好みに合わせて調整できます。

💡 ヒント

設定値は、モニター画面を見ながら変更することをおすすめします。



- 1 本機につないだテレビまたはモニターの電源を入れる。
- 2 ON SCREENキーを何回か押して、「全表示」にする。
- 3 PARAMETER/SET MENUスイッチを「PARAMETER」に合わせる。



4 音場プログラムを選ぶ。

詳しくは「音場プログラムを選ぶ」(39~41ページ)をご覧ください。

例:ROCK CONCERTプログラムの画面



5 Δ キーまたは ∇ キーを押して、変更したい項目を選ぶ。

6 $-$ キーまたは $+$ キーを押して、設定値を変更する。

初期設定値以外に変更すると、設定値名の前に「*」(アスタリスク)が表示されます。

7 他のプログラムの設定値を変更したいときは、手順4~6を繰り返す。

設定値の一部を初期設定値に戻すには

初期設定値に戻したい設定値を選んでから、初期設定値でいったん表示が止まるまで、 $-$ キーまたは $+$ キーを押し続けます。

初期設定値に戻ると、モニター画面の設定値から「*」表示が消えます。

音場プログラム内の設定値をすべて初期設定値に戻すには

セットメニュー「9 PARAM. INI」(54ページ)を使って、音場プログラムごとに設定値を初期設定値に戻せます。

ご注意

- プログラムによっては、有効な設定値が数ページの画面に表示される場合があります。 Δ キーまたは ∇ キーを押して、ページをスクロールしてください。
- セットメニュー「14 MEMORY GUARD」(56ページ)がONに設定されている場合は、設定値を変更できません。設定値を変更する場合は、OFFに設定してください。

デジタル音場設定項目一覧

デジタル音場の設定値を調整して、リスニングルームの音場をアレンジできます。

ご注意

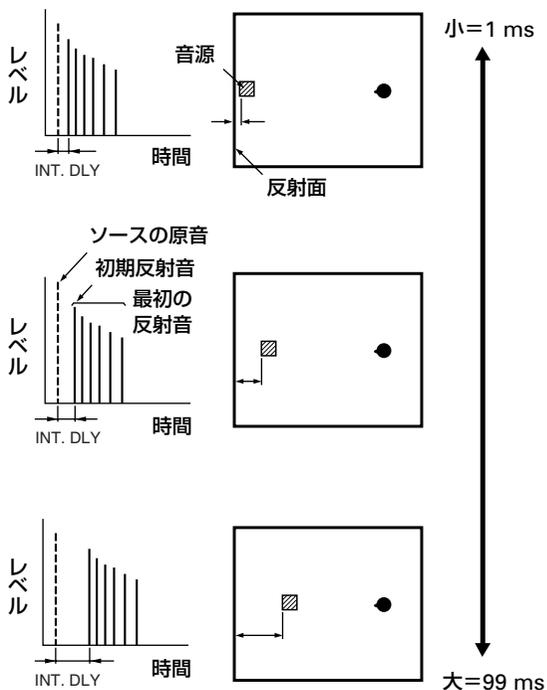
以下の設定値は、すべてのプログラムに設定できるわけではありません。

イニシャルディレイ プレゼンス イニシャルディレイ INIT.DLY、P.INIT.DLY:プレゼンス音場用

- 機能:**音源と壁面との距離感を調節。
- 可変範囲:**1ms~99ms
- 解説:**直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)を調節します。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT.DLYを調節することにより、ソースの音源から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のどきかた等がコントロールできます。

ご注意

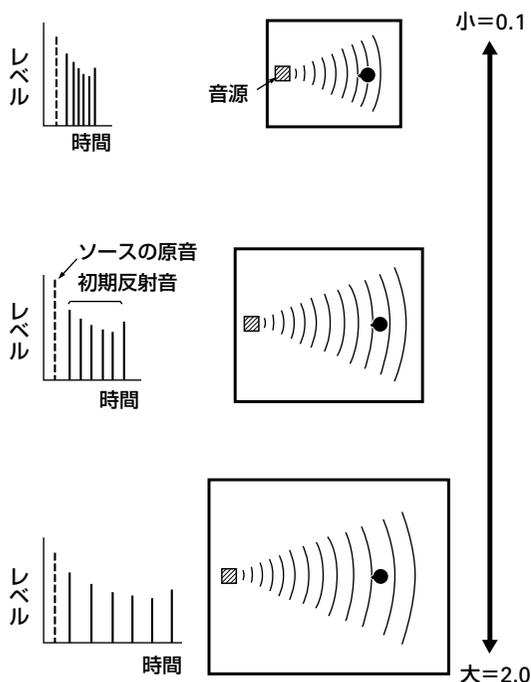
この設定だけを変更すると、音場のバランスが崩れることがあります。P.ROOM SIZEの設定とバランスを取って調節してください。



音場プログラムの設定を変更する

ルームサイズ プレゼンス ルームサイズ ROOM SIZE、P.ROOM SIZE:プレゼンス音場用

- 機能: 拡がり感の調節。
- 可変範囲: 0.1~2.0
- 解説: 空間の拡がり感を調節します。値を大きくするほど広い空間になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。
1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

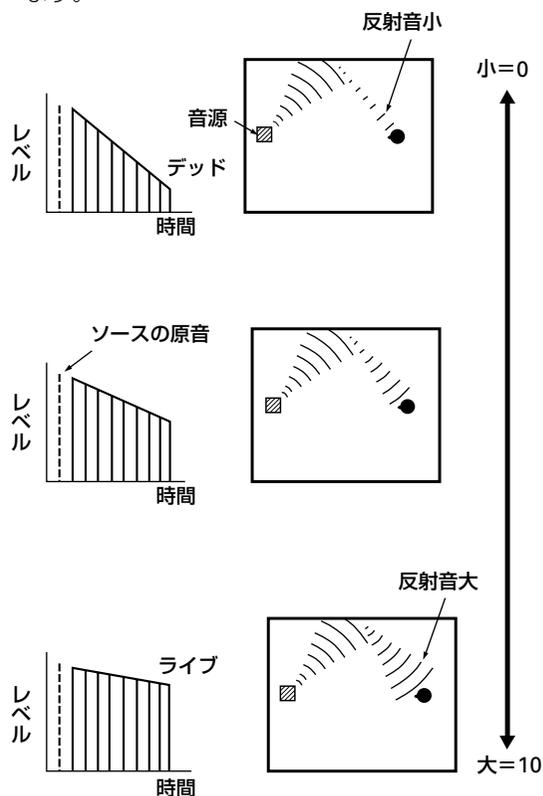


ご注意

この設定だけを変更すると、音場のバランスが崩れることがあります。P.INIT.DLYの設定とバランスを取って調節してください。

ライブネス LIVENESS

- 機能: 響き具合の調節。
- 可変範囲: 0~10
- 解説: 初期反射音の減衰特性を調節します。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。



サラウンドディレイ

S.DELAY:サラウンド音場用

- **機能:**サラウンド音源の遅延時間を調節。
- **可変範囲:**0ms~49ms(可変範囲は信号により異なります。)
- **解説:**直接音とサラウンド音源との時間遅れを調節します。ドルビーデジタルやDTS、AAC入力時は、値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて出力されます。ドルビーデジタルやDTS、AACのマルチチャンネル音声を再生する際などに有効になります。

ヒント

CINEMA DSPプログラム系の音場の場合は、2チャンネル音声の入力でも、S.DELAYの設定が有効になるものもあります(ドルビープロロジック/プロロジックII、Neo:6)。

サラウンド イニシャル ディレイ

S.INIT.DLY:サラウンド音場用

- **機能:**サラウンド音場の遅延時間を調節。(「フロント2チャンネル(または3チャンネル)+リア2チャンネル」以上で、ドルビーデジタルおよびDTS、AAC入力時のみ有効)
- **可変範囲:**1ms~49ms
- **解説:**直接音とサラウンド音場との時間遅れを調節します。値を大きくするほど、サラウンド音場が遅れて発生します。

ご注意

この設定だけを変更すると、音場のバランスが崩れることがあります。S.ROOM SIZEの設定とバランスを取って調節してください。

サラウンドルーム サイズ

S.ROOM SIZE:サラウンド音場用

- **機能:**サラウンド音場の拡がり感を調節。
- **可変範囲:**0.1~2.0
- **解説:**サラウンド音場の拡がり感を調節します。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がります。

ご注意

この設定だけを変更すると、音場のバランスが崩れることがあります。S.INIT.DLYの設定とバランスを取って調節してください。

サラウンド ライブネス

S.LIVENESS:サラウンド音場用

- **機能:**サラウンド音場の響き具合を調節。
- **可変範囲:**0~10
- **解説:**サラウンド音場の減衰量を調節します。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

リアセンター イニシャル ディレイ

RC INIT.DLY:リアセンター音場用

- **機能:**リアセンター音場の遅延時間を調節。(6.1/ESデコーダーがオンのときのみ有効)
- **可変範囲:**1ms~49ms
- **解説:**直接音とリアセンター音場との時間遅れを調節します。値を大きくするほどリアセンター音場が遅れて発生します。

ご注意

この設定だけを変更すると、音場のバランスが崩れることがあります。RC.ROOM SIZEの設定とバランスを取って調節してください。

リアセンタールーム サイズ

RC ROOM SIZE:リアセンター音場用

- **機能:**リアセンター音場の拡がり感を調節。(ドルビーデジタルマトリクス方式やDTS ES方式入力時のみ有効)
- **可変範囲:**0.1~2.0
- **解説:**リアセンター音場の拡がり感を調節します。値を大きくするほど、リアセンターの音場空間が拡がります。

ご注意

この設定だけを変更すると、音場のバランスが崩れることがあります。RC.INIT.DLYの設定とバランスを取って調節してください。

次のページにつづく



その他の情報

音場プログラムの設定を変更する

リアセンター ライブネス

RC LIVENESS:リアセンター音場用

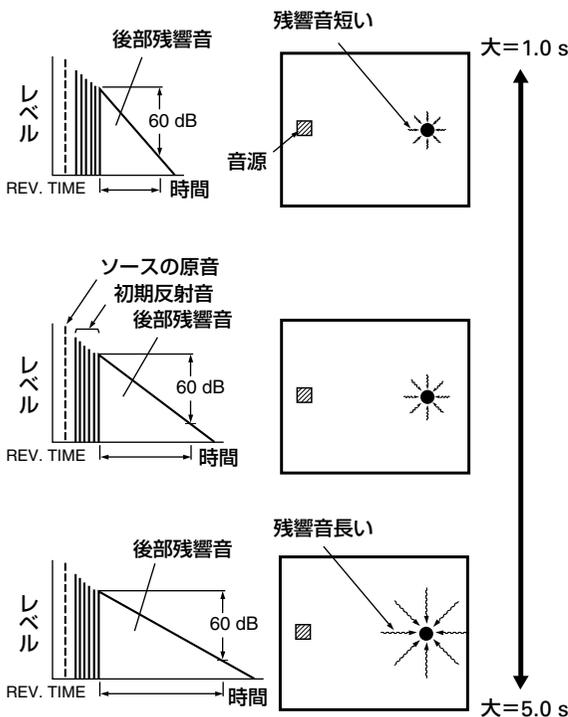
- 機能:リアセンター音場の響き具合を調節。
(6.1/ESデコーダーがオンのときのみ有効)
- 可変範囲:0~10
- 解説:リアセンター音場の減衰量を調節します。値を大きくするほど、リアセンター音場の響きが強くなります。

リバーレイション タイム

REV.TIME

- 機能:余韻の長さを調節。
- 可変範囲:1.0s~5.0s
- 解説:一般的に「残響音」と呼ばれている、後部残響音が減衰していく時間を調節します。
約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。

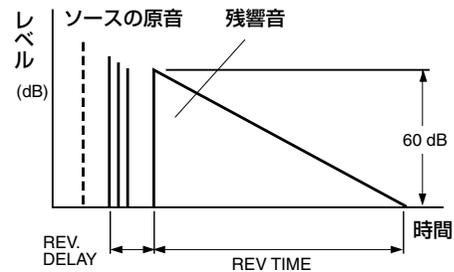
REV.TIMEを調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。



リバーレイション ディレイ

REV.DELAY

- 機能:残響音の遅延時間を調節。
- 可変範囲:0ms~250ms
- 解説:残響音が発生し始めるまでの時間を調節します。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV.TIMEでも、REV.DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

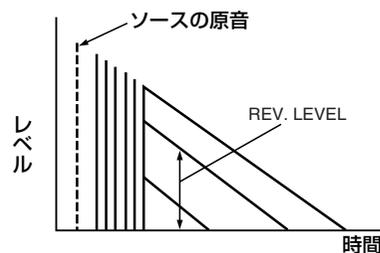


リバーレイション レベル

REV.LEVEL

- 機能:余韻の強さを調節。
- 可変範囲:0%~100%
- 解説:後部残響音のレベルを調節します。

値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。



センターレベル
CT LEVEL

- **機能:**6チャンネルステレオモード時にセンターチャンネルの出力レベルを調節します。
- **可変範囲:**0~100%

リア レフトレベル
RL LEVEL

- **機能:**6チャンネルステレオモード時にリアレフトサラウンドチャンネルの出力レベルを調節します。
- **可変範囲:**0~100%

リア ライトレベル
RR LEVEL

- **機能:**6チャンネルステレオモード時にリアライトサラウンドチャンネルの出力レベルを調節します。
- **可変範囲:**0~100%

リア センターレベル
RC LEVEL

- **機能:**6チャンネルステレオモード時にリアセンターチャンネルの出力レベルを調節します。
- **可変範囲:**0~100%

パノラマ モード
Panorama Mode

- **機能:**ドルビープロロジックIIのフロント音場の広がり調節します。
- **可変範囲:**ON/OFF
- **解説:**ドルビープロロジックIIデコーダーのMUSICモードで再生しているときにのみ有効になります。メインL、Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

ディメンション コントロール
Dimension Control

- **機能:**ドルビープロロジックIIのサラウンド音場の、フロント側とリア側のレベル差を調節します。
- **可変範囲:**-3~+3
- **解説:**ドルビープロロジックIIデコーダーのMUSICモードで再生しているときにのみ有効になります。再生するソフトによって生じる、フロントとリアのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。-にするとリア側、+にするとフロント側が強くなります。

センター ウィドス コントロール
Center Width Control

- **機能:**ドルビープロロジックIIのセンター音声の左右への広がりを調節します。
- **可変範囲:**0~7
- **解説:**ドルビープロロジックIIデコーダーのMUSICモードで再生しているときにのみ有効になります。センターからの音声を、好みにあわせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとL、Rのみのチャンネルからセンター音声が出力されます。



MOVIE THEATER 1/2の技術解説

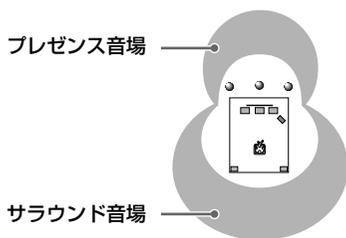
通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリックス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード・デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

マトリックス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がり感を、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER70mmプログラムです。

入力ソースがアナログ、PCM、ドルビーデジタル(2チャンネル)の場合

雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

- 70mm Spectacle
- 70mm Sci-Fi
- 70mm Adventure
- 70mm General

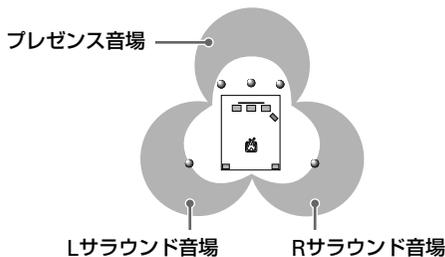


最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタルやDTS(デジタルシアターシステムズ)のサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタルやDTSサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

入力ソースがドルビーデジタル(5.1チャンネル)やDTS、AACの場合

ドルビーデジタルやDTS、AACのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

- DGTL/DTS/AAC Spectacle
- DGTL/DTS/AAC Sci-Fi
- DGTL/DTS/AAC Adventure
- DGTL/DTS/AAC General

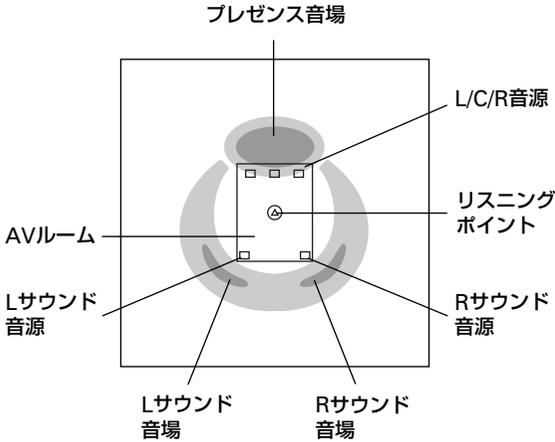


ヒント

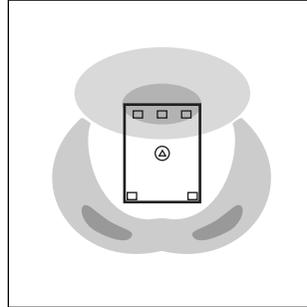
入力モードがAUTOに設定されている場合、ドルビーデジタル信号またはDTS信号、AAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場またはDTS再生用音場、AAC再生用音場に切り換わります。

3音場処理によるシネマDSPの音場イメージ

前方、左後方、右後方という3つの音源に対して独立した音場処理を加える、3音場シネマDSPの特徴を色分けによって示しています。それぞれの音場イメージは音場の形、大きさ、濃さを表しています。



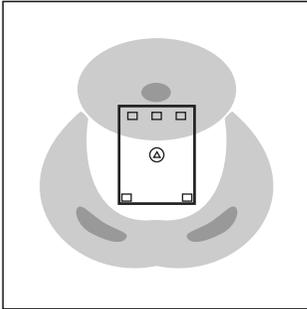
Adventure (アドベンチャー)



Adventure(アドベンチャー)

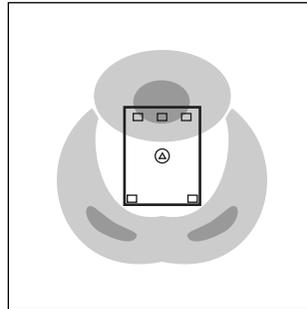
セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れたモードで、エフェクトの深さはSci-FiとSpectacleとの中間。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。

Sci-Fi (サイファイ)



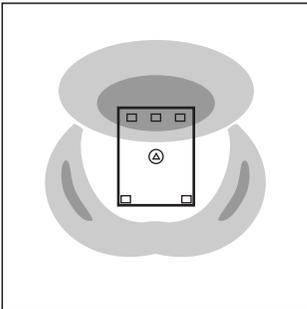
Sci-Fi (サイファイ)
セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出。エフェクトは比較的浅く、リアリティを追求したシリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。

General (ジェネラル)



General(ジェネラル)
響きを抑えた明瞭なセリフを中心に、スクリーンの周囲と奥に広がる立体的な音場と柔らかな響きを表現。ラブストーリーやコメディなど、人の心の動きを描写する作品にふさわしいモードです。

Spectacle (スペクタクル)



Spectacle(スペクタクル)
映画のワンシーンに飛び込んでしまったかのような、超ワイドな空間がイメージできる音場。深めなエフェクトにより、手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品で威力を発揮します。



その他の情報

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にしてから、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その上で、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

症状	原因	対策
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセント及び本体AC IN端子にしっかり差し込んでください。
	「CHECK SP WIRES」と表示されているときは、スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることを確かめてください（14ページ）。
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセント及び本体AC IN端子にしっかり差し込んでください。
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れ直してください。
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が表示OFFになっている。	全表示または簡易表示にする（36ページ）。
	セットメニューの「13 DISPLAY SET」のBLUE BACKがOFFに設定されている。	映像信号を入力していないときは、表示されません。常に表示させたいときは、AUTOに設定してください（55ページ）。
	S VIDEO端子とVIDEO端子の両方を本機に接続しているソースを選択し、さらにMONITOR OUTにS VIDEO端子とVIDEO端子の両方が接続されている。	映像は両方に出力されますが、オンスクリーンはS VIDEO側に表示され、VIDEO側には表示されません。映像信号が入力されていない場合は、両方に表示されます。

症状	原因	対策
音や画像が出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUT </> キーまたは6CH INPUTキーで正しく選択をしてください (32~33ページ)。
	スピーカーがしっかり接続されていない。	しっかり接続してください (14ページ)。
	SPEAKERSスイッチ (A、B) が正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応する SPEAKERSスイッチをONに設定してください (32ページ)。
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。
	消音されている。	リモコンのMUTE (消音) キーまたはVOLUME +/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください (33ページ)。
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。
画像が表示されない	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入力/出力側とも、ビデオやSビデオ、コンポーネントなど同じ種類の信号を接続してください。
音声が突然出なくなる	消音した。	リモコンのMUTE (消音) キーまたはVOLUME +/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください (33ページ)。
片側チャンネルの音がほとんど出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーコードの断線も確認してください。
	セットメニューの「3 L/R BALANCE」が正しく設定されていない。	バランスを正しく設定しなおしてください (51ページ)。
エフェクトスピーカーから音が出ない	STEREOになっている。	STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を「入」 (EFFECT) にしてください (39ページ)。
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS、AAC信号でエフェクト信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。



故障かな?と思ったら

症状	原因	対策
エフェクトスピーカーから音が出ない (つづき)	48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が本機に入力されている。	48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号入力時は、エフェクトスピーカーから音は出ません (33ページ)。
センタースピーカーから音が出ない	センタースピーカーレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを上げます (30~31ページ)。
	セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEになっている。	センタースピーカーモードを正しく設定します (27ページ)。
	Hi-Fi DSPプログラムNo.1~6 (Gameおよび6ch Stereoを除く) を選択している。	DSP処理の仕様により、入力信号によってはセンタースピーカーから音声出力がないプログラムがあります (46ページ)。
	ドルビーデジタルまたはDTS、AACソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。	—————
リアスピーカーから音が出ない	リアスピーカーレベルが絞られている。	リアスピーカーのレベルを上げます (30~31ページ)。
	音場プログラムのNo. 11でモノラルソースを再生している。	他の音場プログラムを選択して再生します。
スーパーウーファーから音が出ない	セットメニューの「1E LFE/BASS OUT」をMAINにしたまま、ドルビーデジタルやDTS、AACソースを再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください (29ページ)。
	セットメニューの「1E LFE/BASS OUT」をSWFRまたはMAINにしたまま、2チャンネルソースを再生している。	BOTHに設定してください (29ページ)。
	ソースにLFEや低音信号 (90Hz以下) が含まれていない。	—————
ドルビーデジタルまたはDTSの再生ができない (本機ディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSのインジケーターが点灯しない)	接続したDVDプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。

症状	原因	対策
低音の再生不良	スーパーウーファーを使用していないのにセットメニューの「1E LFE/BASS OUT」がSWFRまたはBOTHに設定されている。	MAINに設定してください (29ページ)。
	セットメニューの各スピーカーの出力モード (メイン、センターまたはリア) がスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーを適切な出力モードに設定してください (26ページ)。
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかり差し込みます。
	レコードプレーヤーのGND端子が接続されていない。	レコードプレーヤーのアースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください (22ページ)。
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生されている。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。接続機器の電源を入れてください。
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。	_____
録音できない	デジタル録音時にアナログソースを入力している。	デジタルソースを入力してください。
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続してください。
	アナログ録音時にデジタルソースを入力している。	アナログソースを入力してください。
	本機と再生機器および録音機器が、アナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。
	録音機器によっては、ドルビーデジタルやDTS、AACなどのデジタルデータを録音できません。	_____

故障かな?と思ったら

症状	原因	対策
スピーカーレベルなどの設定値を変更できない	セットメニューの「14 MEMORY GUARD」がONに設定されている。	OFFに設定してください(56ページ)。
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままになっていると、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定し直してください。
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。
本機に接続しているテープデッキまたはCDプレーヤーにヘッドホンを差し込んで聴いていると、音質が劣化する	本機がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。
ファンが回る音がときどき聞こえる	放熱のため、本機内部にはファンが取り付けられています。本機内部に温度が上昇したとき、または電源を入れたときなどに作動します。	

リモコン

症状	原因	対策
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください(11ページ)。
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。
	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください(58ページ)。

症状	原因	対策
リモコンで操作できない (つづき)	共通基本操作キーや入力選択キーにラーニングしている。	ラーニングを取り消してください (75~76ページ)。
外部機器がリモコンで操作できない	システムコンポーネントは操作できません。	システムコンポーネントは操作できません。
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してみてください (60ページ)。
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては機器を操作できません。	メーカーコードで操作できない機能は、機器のリモコンから、本機のリモコンにラーニング (学習) してください (61ページ)。
リモコンが新しい機能をラーニング (学習) しない	本リモコンおよび他の機器のリモコンの電池が少なくなっている。	電池を交換してください。
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、接近しすぎている。	2台のリモコンを5~10cmの距離に配置してください。
	他の機器のリモコンの信号コードと本リモコンとの互換性がない。	ラーニング (学習) はできません。
	メモリー容量が一杯になっている。	ラーニングされている不要な機能を消去しなければ、これ以上のラーニング (学習) はできません (75ページ)。

ご注意

- 本機使用中に、強い外来ノイズ (落雷・過大な静電気など) を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、本機をスタンバイ状態にしてから電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。
- 本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されています。信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生すると、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。
- デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器を接続すると、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

信号処理関連

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせることで音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル記録方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル5.1チャンネル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル(L、R、センター)と、リアのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。

リアがステレオ2チャンネルで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

バーチャルシネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

リアスピーカーを設置していなくても、仮想的にリアスピーカーの音場を再現することで、メインL、Rスピーカーだけで音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、メインL、Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

AAC(アドバンスド オーディオ コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(メインL、R、センター、2つのリアチャンネル、スーパーウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES(エクステンデッドサラウンド)

DTS方式の上位互換方式で、サラウンドバックチャンネルが追加されています。各チャンネルの音声が完全に独立して記録されているディスクリット6.1方式と、リアセンターの音声をサラウンドL、Rチャンネルから取り出して再生するマトリクス6.1方式があります。

本機はいずれの方式にも対応しています。

DTS Neo:6(ネオ・シックス)

2チャンネル信号のソースを、リアセンターを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMUSICモードと、映画用のCINEMAモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリット方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

LFE(ローフリクエンシーエフェクト) 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20~120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

ビデオ関連

コンポーネントビデオ信号

映像信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:P_B/C_BおよびP_R/C_R信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネント信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。

コンポーネント信号を出力するには、コンポーネント入出力のあるモニターと再生機器が必要です。

D端子

BSデジタルチューナーやプログレッシブ信号対応のテレビモニターなど、最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号を1本の専用ケーブルで接続できます。対応する映像信号に応じてD1~D5の規格に分けられ、数字が大きいくほど、より上位の信号を扱うことができます。本機はD4までの信号に対応しています。

Sビデオ信号

Sビデオ信号は、通常ならピンコードで伝送される映像信号を、専用のSビデオコードを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。



オーディオ関連

サンプリング周波数／量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。

再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることとなります。

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、アナログ信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。

音楽CDやDVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20~20kHz、0.02%THD)	
メイン L/R	120W+120W
センター	120W
リア L/R/センター	各120W
実用最大出力(6Ω、EIAJ、1kHz、10%THD)	
メイン L/R	175W+175W
センター	175W
リア L/R/センター	各175W
ダイナミックパワー(IHF、6/4/2Ω)	
メイン L/R	175/225/330W
ダンピングファクター(8Ω、20Hz~20kHz)	
メイン L/R	200以上
周波数特性	
(CD-メイン L/R)	10Hz~100kHz、-3dB
全高調波歪率(8Ω、20Hz~20kHz、60W)	
(CD-音場効果「切」、メイン SP OUT)	0.02%以下
S/N(IHF-Aネットワーク、入力ショート)	
PHONO-REC OUT、2.5mV入力	80dB以上
CD-メイン SP OUT、音場効果「切」、 250mV入力	100dB以上
残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)	
メイン SP OUT	150μV以下
チャンネルセパレーション	
(1kHz/10kHz、5.1kΩターミネート)	
CD他	60dB以上/45dB以上
トーンコントロール(メイン L/R)	
BASS	±10dB/50Hz
TREBLE	±10dB/20kHz
BASS EXTENTION	+6dB/60Hz
ヘッドホン出力/インピーダンス	150mV/100Ω
入力感度/インピーダンス(アナログ)	
CD他	150mV/47kΩ
PHONO	2.5mV/47kΩ
6CH INPUT	150mV/40kΩ-47kΩ
出力電圧/インピーダンス(アナログ)	
REC OUT	150mV/0.9kΩ
PRE OUT	1.0V/1.2kΩ
SUB WOOFER	4.0V/1.2kΩ
A/Dコンバーター	
64倍オーバーサンプリングΔΣ方式 24ビット	
D/Aコンバーター	
128倍オーバーサンプリングΔΣ方式 24ビット	

ビデオ部

信号方式	NTSC
ビデオレベル	
VIDEO	1Vp-p/75Ω
S-VIDEO	
Y	1Vp-p/75Ω
C	0.286Vp-p/75Ω
COMPONENT VIDEO	
Y	1Vp-p/75Ω
P _B /C _B 、P _R /C _R	0.7Vp-p/75Ω
S/N	50dB以上
周波数特性(MONITOR OUT)	
VIDEO、S-VIDEO	5Hz~10MHz、-3dB
COMPONENT VIDEO、D4 VIDEO	DC~60MHz、-3dB

総合

電源電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	360W
待機電力	1.2W
ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計100W)	3
寸法(幅×高さ×奥行)	435×191×468mm
重量	21kg
付属品	
	3ページをご覧ください。

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。
「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。



ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- ・ **技術料**:故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ・ **部品代**:修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ・ **出張料**:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。(品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。)

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出ることがあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきます。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは (ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL(011)512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL(022)236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL(03)5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL(053)465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL(052)652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL(06)6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL(082)874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL(087)822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL(092)472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

